

世羅町まちづくりに関するアンケート調査 報 告 書

令和 5（2023）年 12 月

目次

1 章 調査概要	1
1－1 調査の概要	1
1－2 アンケート調査票	1
2 章 調査結果	10
2－1 あなた（回答者）ご自身のことについて	10
2－2 世羅町に立地する施設について	16
2－3 日常の移動について	74
2－4 世羅町の居住と災害対策について	85
2－5 これからの都市計画について	88
3 章 調査結果 総括	100
3－1 調査結果 総括	100
3－2 地域別の視点で見た調査結果 総括	101
3－3 年代別の視点で見た調査結果 総括	102

1 章 調査概要

1－1 調査の概要

(1) 調査対象

調査対象（抽出先）は 18 歳以上の町民 1,500 人を無作為に抽出しました。

(2) 調査概況

調査概況は下表のとおりです。

調査期間		調査方法	配布数	回収数	回収率
令和 5（2023）年 10 月 10 日から 令和 5（2023）年 10 月 31 日まで		郵送法	1,500 票	657 票	43.8%
		郵送による回答：579 インターネットによる回答：78			
設 問 概 要	アンケート設問は「個人属性」・「都市施設の利用頻度・移動手段」・「日常の移動」・「居住と災害対策」等について、全 13 問を設定しています。				
	問 1) 年齢 問 2) 家族構成 問 3) 居住地 問 4) 永住意向 問 5) 各施設の利用頻度と主な移動手段 問 6) 中心部に必要な施設となくともよい施設 問 7) 自治センターの活用方法		問 8) 自家用車の所有状況 問 9) 送迎してくれる人の状況 問 10) 乗り合いタクシーの利用状況 問 11) 徒歩による移動可能時間 問 12) ハザードエリアにおける居住や都市機能立地の考え方 問 13) まちづくりに関する意見		

(3) 集計方法等

- ・各項目について、単純集計に加え、地区別集計及び年代別集計結果を整理しています。
- ・項目に応じて、回答数と回答率（％）を使い分けて整理しています。
- ・回答率（％）は、第 2 位四捨五入の関係から表記の割合（％）の合計が 100.0％とならない場合があります。
- ・自由記述（問 7 及び 13）は、カテゴリーに分類して整理しています。

1-2 アンケート調査票

(1) 調査依頼書

アンケート調査の実施にあたって配布した調査依頼書は下記の通りです。

アンケートにご協力ください

世羅町まちづくりに関するアンケート調査

日頃より町政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

このアンケート調査は、人口減少や高齢化が進む中にあっても、町民の皆様が安全で安心して暮らすことができる持続可能なまちづくりを進めていく指針となる「**立地適正化計画**」策定に向けて、皆様の普段の行動や、これからのまちづくりに対するお考えなどをお伺いするものです。（「**立地適正化計画**」については裏面をご覧ください）

アンケート調査について

【回答方法】

① 郵送による回答

- ・アンケート調査票にご記入いただき、返信用封筒に入れて、切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。

② インターネットによる回答

- ・スマートフォン等で右のQRコードを読み込むか、パソコン等で次のURLにアクセスして、ご回答ください。



URL : <https://fgex-res.net/871621?lang=ja>

（インターネットによる回答をいただいた場合は、調査票の郵送は不要です。）

【回答期限】

令和5年10月31日（火）
まで

できるだけ多くの方の
声をお聞かせください。
ご家族の方も、ぜひ
インターネットからご回答を
お願いします。



お問い合わせ先 : 世羅町 建設課 建設係 （担当：安井、高橋）

電 話 : 0847-22-5309 / FAX : 0847-22-5921

E メール : kensetsu@town.sera.hiroshima.jp

本調査は、統計的な処理を行いますので、個人が特定されることはございません。アンケートの集計結果については、ホームページ等で公表を予定しています。また、本町のまちづくりに関する意向把握を目的として実施するものであり、取得した情報を目的以外に無断で利用・公表することはありません。

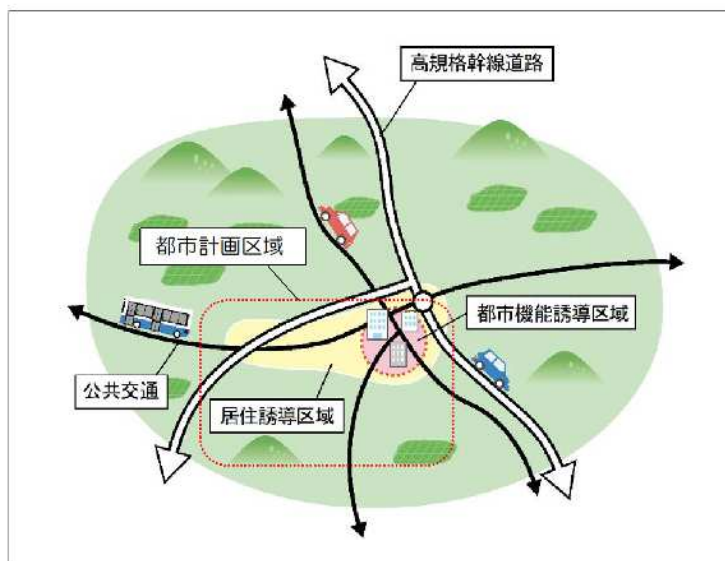
立地適正化計画とは？

急激な人口減少や少子高齢化の進行、頻発・激甚化する自然災害など、世羅町を取り巻く環境は年々大きく変化しています。

そういった中で将来にわたって安全安心な暮らしを維持するためには、一定の人口密度を維持したコンパクトな市街地と公共交通ネットワークによる「コンパクト・プラス・ネットワーク型」の都市構造への転換が必要です。

立地適正化計画とは、都市計画法による土地利用の計画に加えて、住宅や都市機能（医療・福祉・商業等の生活サービスや公共施設など）の誘導により、コンパクトなまちづくりを実現するための計画です。

また、都市計画区域外の各集落拠点においても町中心部と公共交通でつながることで、**世羅町全体として将来に渡りまちの機能を維持することを目的**としています。



コンパクト・プラス・ネットワーク型都市構造のイメージ

立地適正化計画は、2014（平成 26）年、都市再生特別措置法の改正により、創設された制度です。都市再生特別措置法とは、近年における少子高齢化等の急速な社会経済情勢の変化に対応した都市機能の高度化、居住環境の向上を図るための基本方針を定めたものです。都市計画区域を対象として、世羅町が策定します。

(2) 調査票

アンケート調査の実施にあたって配布した調査票は下記の通りです。

アンケート調査票

該当する選択肢の番号に「○」をお書きください。

記入例

⑤ 50代

あなた（回答者）ご自身のことについてお伺いします

問1. あなたの年齢はおいくつですか。（一つだけ）

- | | | |
|--------|----------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 |
| 4. 40代 | 5. 50代 | 6. 60代 |
| 7. 70代 | 8. 80代以上 | |

問2. あなたの家族構成はどれですか。（一つだけ）

1. 単身（一人暮らし）
2. 1世代のみ（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ、家族以外との同居など）
3. 2世代が同居（親と子、祖父母と孫など）
4. 3世代以上が同居（親・子・孫など）

問3. あなたのお住まいの地域はどちらですか。（一つだけ）

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| 1. 甲山地区 | 2. 宇津戸地区 | 3. 中央地区 |
| 4. 伊尾小谷地区 | 5. 東地区 | 6. 大田地区 |
| 7. 大見地区 | 8. 西大田地区 | 9. 津久志地区 |
| 10. 山福田地区 | 11. 小国地区 | 12. 津名地区 |
| 13. 黒川地区 | | |

問4. 現在お住まいの地域にずっと住みたいと思うか、当てはまるものをお選びください。（一つだけ）

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. これからもずっと住みたい | 2. できれば住みたい |
| 3. できれば町外へ移りたい | 4. できれば町内の他の地域に移りたい |
| 5. わからない | |

（移りたい地域の番号を
問3から一つ選んで
記入してください。
（空欄でも結構です。））



世羅町に立地する施設について

◎世羅町内には、商業施設や公共公益施設などが立地していますが、今後も町民の皆様がより快適なサービスを受けられるよう、それらの施設の立地を緩やかに誘導していく必要があります。

以上を踏まえ、以下の設問にお答えください。

問5. つぎの施設について、それぞれの利用頻度と主な移動手段を教えてください。

また、現在特に不便で困っている施設があれば教えてください。（3つまで）

【公共交通】バス、タクシー、乗合タクシーなど

項 目	施設の利用頻度				主な移動手段				特に不便で困っているもの (3つまで)
	1 週3日以上	2 週1～2日程度	3 月1～2日程度	4 ほとんど行かない	1 徒歩や自転車	2 公共交通	3 自家用車(送迎含む)	4 わからない	
【記入例】	1	2	3	4	1	2	3	4	○
1. 食料品・日用品の店舗（スーパー、ドラッグストアなど）	1	2	3	4	1	2	3	4	
2. 衣料品の店舗	1	2	3	4	1	2	3	4	
3. ホームセンター	1	2	3	4	1	2	3	4	
4. 家電用品店	1	2	3	4	1	2	3	4	
5. コンビニエンスストア	1	2	3	4	1	2	3	4	
6. 食堂やレストランなどの飲食店	1	2	3	4	1	2	3	4	
7. 病院、診療所（クリニック、医院など）	1	2	3	4	1	2	3	4	
8. 調剤薬局	1	2	3	4	1	2	3	4	
9. 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設	1	2	3	4	1	2	3	4	
10. 学校などの教育施設	1	2	3	4	1	2	3	4	
11. 福祉施設（高齢者福祉施設、障がい者福祉施設）	1	2	3	4	1	2	3	4	
12. 銀行や郵便局などの金融機関	1	2	3	4	1	2	3	4	
13. 図書館・文化ホールなどの文化施設	1	2	3	4	1	2	3	4	
14. 行政窓口	1	2	3	4	1	2	3	4	
15. 身近に利用できる公園や広場	1	2	3	4	1	2	3	4	

問6. 商業施設や公共施設等の各施設について、現在の有無に関わらず、役場周辺（町中心部）に「必要な施設」と「なくてもよい施設」をお伺いします。該当する施設の欄に○を記入してください。（それぞれ3つまで）

項 目	〔記入例〕	町役場周辺 （町中心部）に	
		必要	なくてもよい
施 設	1. 食料品・日用品の店舗（スーパー、ドラッグストアなど）		
	2. 衣料品の店舗		
	3. ホームセンター		
	4. 家電用品店		
	5. コンビニエンスストア		
	6. 食堂やレストランなどの飲食店	○	
	7. 病院、診療所（クリニック、医院など）		
	8. 調剤薬局		
	9. 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設		
	10. 学校などの教育施設	○	
	11. 福祉施設（高齢者福祉施設、障がい者福祉施設）		
	12. 銀行や郵便局などの金融機関		
	13. 図書館・文化ホールなどの文化施設		
	14. 行政窓口		
	15. 身近に利用できる公園や広場	○	

問7. 将来、あなたの住む地域から町中心部へのアクセスについて、各地域の自治センターをより有効的に活用できる方法があればお聞かせください。

世羅町の居住と災害対策について

◎近年、気候変動の影響により頻発・激甚化する自然災害への対策が全国で大きな課題となっており、世羅町においても、雨や地震による土砂災害が発生するおそれのある地域が多く存在しています。これらの地域には既に皆様のお住まいや都市機能（医療、福祉・子育て、商業施設等の暮らしを支える施設）も一部立地しているため、今後、居住地としての在り方や適切な災害対策を検討していく必要があります。

以上を踏まえ、以下の設問にお答えください。

問12. 災害のおそれがある地域における、住まいや都市機能（医療、福祉・子育て、商業施設等の暮らしを支える施設）の立地の在り方について、あなたの考えに近いものはどれですか。（一つだけ）

1. 行政による防災対策には限界があるため、災害のおそれがある地域にある住まいや都市機能の集積を抑制すべき
2. 行政による防災対策には限界があるため、災害のおそれがある地域での新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべき
3. 災害のおそれがある地域であっても、住むかどうかは町民の判断とし、行政が規制すべきではない
4. わからない

ハザードマップを確認してみよう！

地域の危険性や避難場所などを普段から確認しておき、災害時に速やかに安全な場所に避難できるようにしておきましょう。

世羅町土砂災害ハザードマップのご確認は右のQRコードから⇒



※土砂災害（特別）警戒区域は広島県が随時再調査・指定を行っています。最新の情報及び詳細は、『土砂災害ポータルひろしま』で確認できます。また、浸水想定区域の詳細を調べるには『洪水ポータルひろしま』が便利です。



これからの都市計画について

問13. 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについて、ご意見がありましたらお聞かせください。

**以上でアンケートは終了です。
ご協力ありがとうございました。**

ご記入いただきました調査票は、同封した返信用封筒に入れ、
切手を貼らずにポストに投函してください。

【回答期限】
令和5年10月31日（火）まで

2章 調査結果

2-1 あなた（回答者）ご自身のことについて

問1. あなたの年齢はおいくつですか。（一つだけ）

回答結果を見ると、60代以上の回答者が全体の約7割を占め、地域別に見ても全ての地域で60代以上が半数を超えています。

回答者数が多い甲山地区や大田地区では、40代以下の割合が約3割で他地区と比べやや高くなっています。

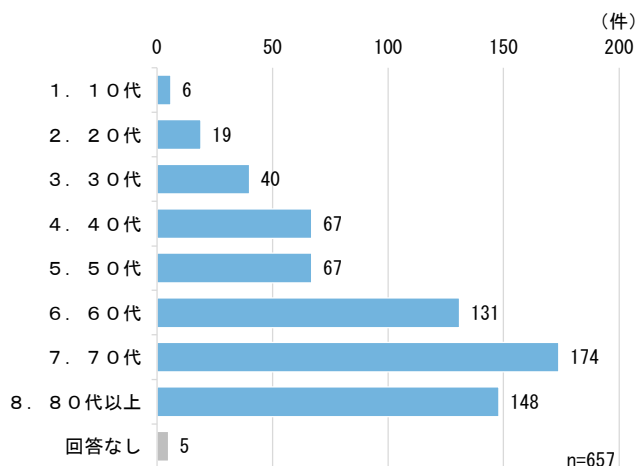
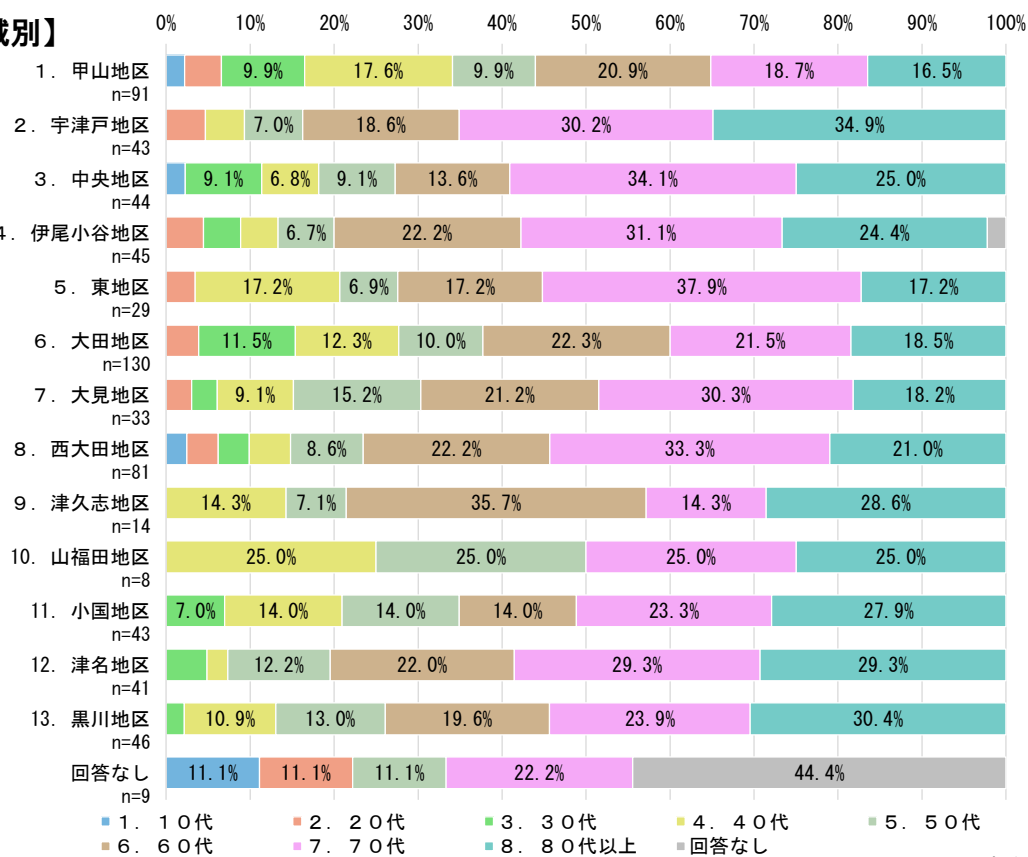


図 回答者の年代

【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 回答者の年代

問2. あなたの家族構成はどれですか。(一つだけ)

家族構成は1世代のみが4割弱、2世代同居が3割台半ばを占めています。

単身世帯が比較的多いのは甲山地区、大見地区、津久志地区、津名地区で各地区全体の約2割を占めています。

80代以上の回答者では、単身世帯が2割以上を占めています。

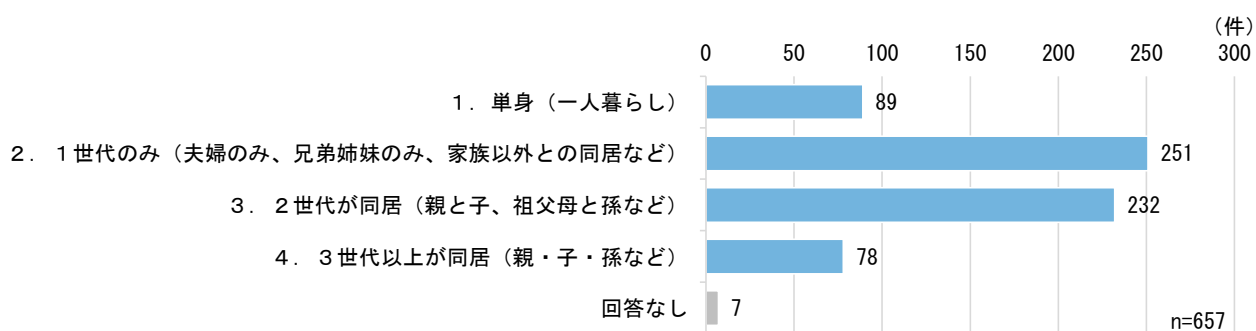


図 回答者の家族構成

【地域別】

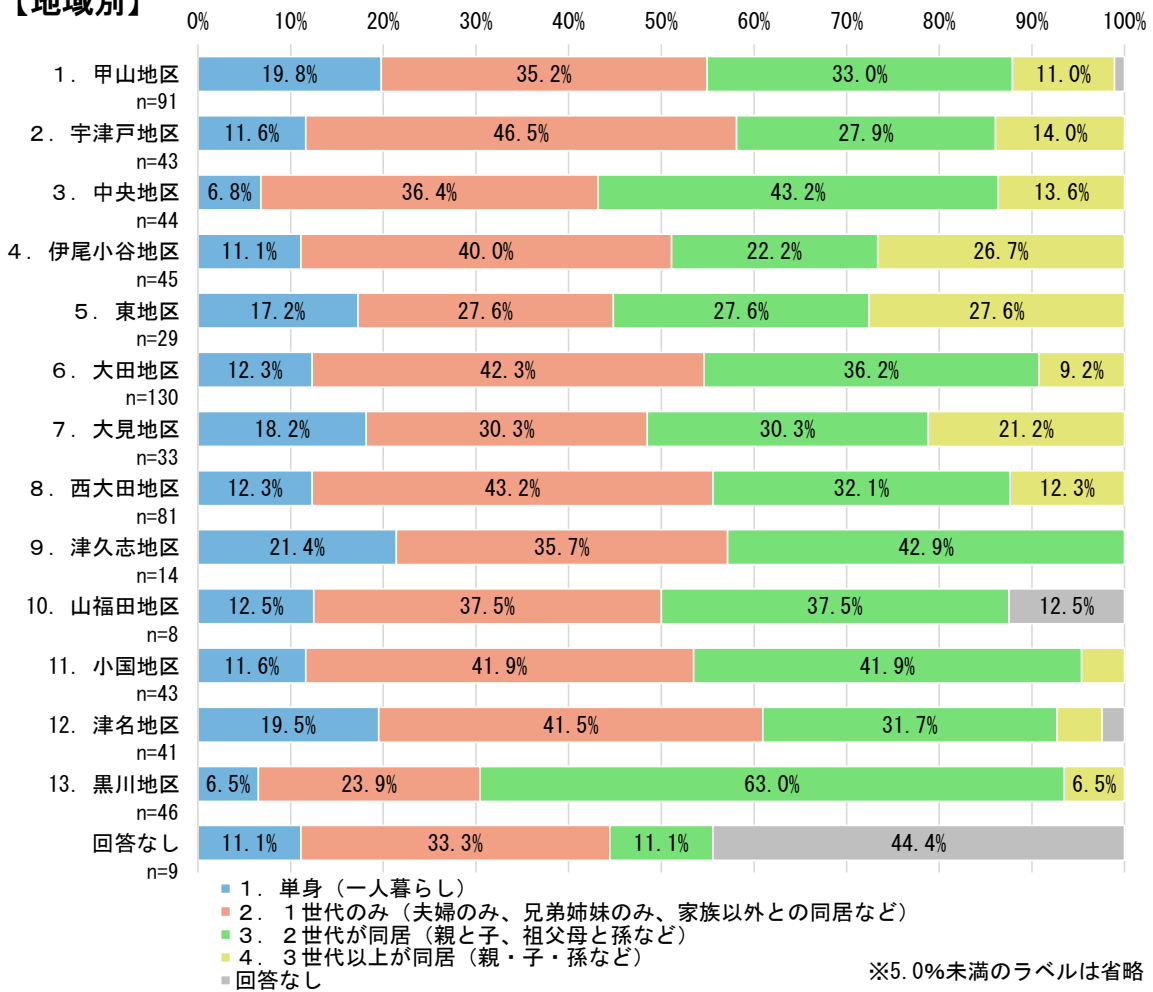


図 地域別 回答者の家族構成

【年代別】

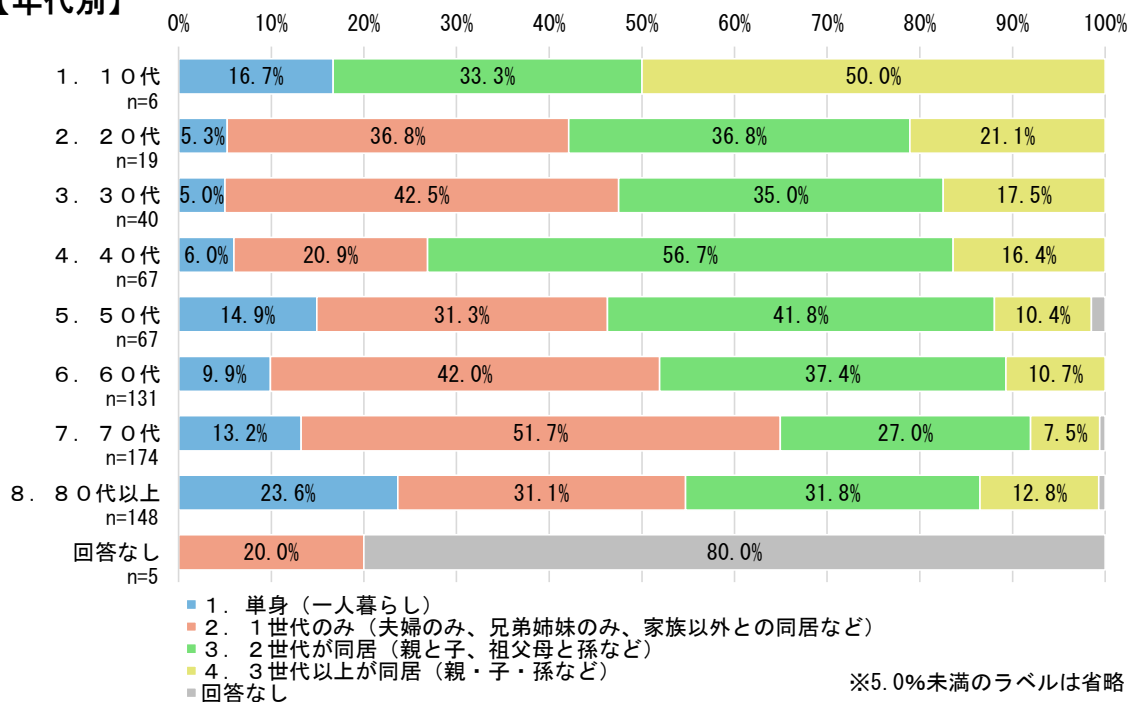


図 年代別 回答者の家族構成

問3. あなたのお住まいの地域はどちらですか。（一つだけ）

回答者の居住地域は、大田地区（19.8%）、甲山地区（13.9%）、西大田地区（12.3%）の順に多くなっています。

回答者の居住地域を年代別にみると、10代は甲山地区や西大田地区（それぞれ約3割）で多く、20～30代は大田地区（3～4割弱）で多くなっています。

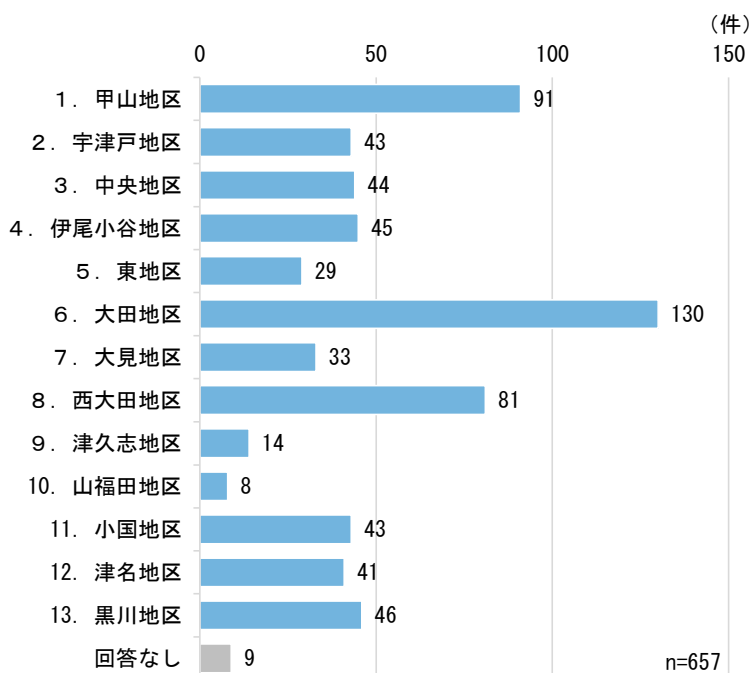


図 回答者の居住地域

【年代別】

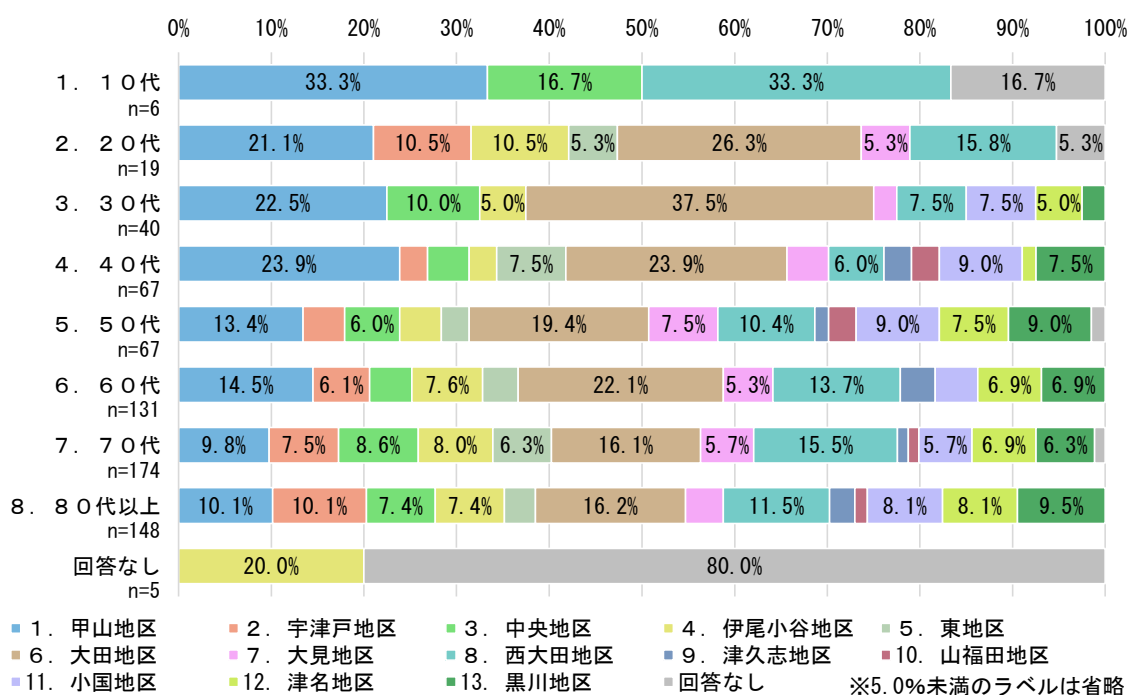


図 年代別 回答者の居住地域

問4. 現在お住まいの地域にずっと住み続けたいと思うか、当てはまるものをお選びください。(一つだけ)
 また、「4. できれば町内の他の地域に移りたい」と回答した方は、移りたい地域の番号を問3から一つ選んで記入してください。(空欄でも結構です。)

回答者の8割弱が、現在の居住地域に住み続けることを希望しています。

できれば町内の他の地域に移りたいと回答した人は、甲山地区(6人)や東地区(4人)などを転居先として挙げています。

年代が上がるほど現在の地域での居住継続を希望する回答者が多くなっています。

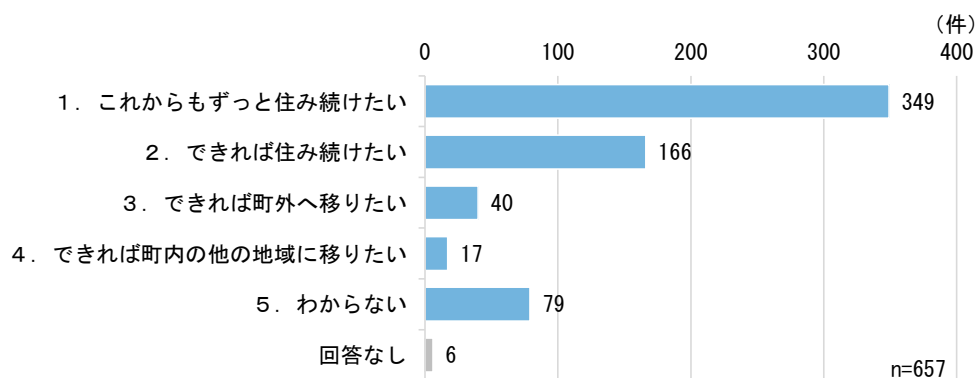


図 現在の居住地域に住み続けたいかの意向

移りたい地域	件数
1. 甲山地区	6
2. 宇津戸地区	2
3. 中央地区	1
4. 伊尾小谷地区	0
5. 東地区	4
6. 大田地区	1
7. 大見地区	1
8. 西大田地区	0
9. 津久志地区	0
10. 山福田地区	0
11. 小国地区	0
12. 津名地区	1
13. 黒川地区	0
回答なし	1
合計	17

図 「4. できれば町内の他の地域に移りたい」回答者の移りたい地域

【地域別】

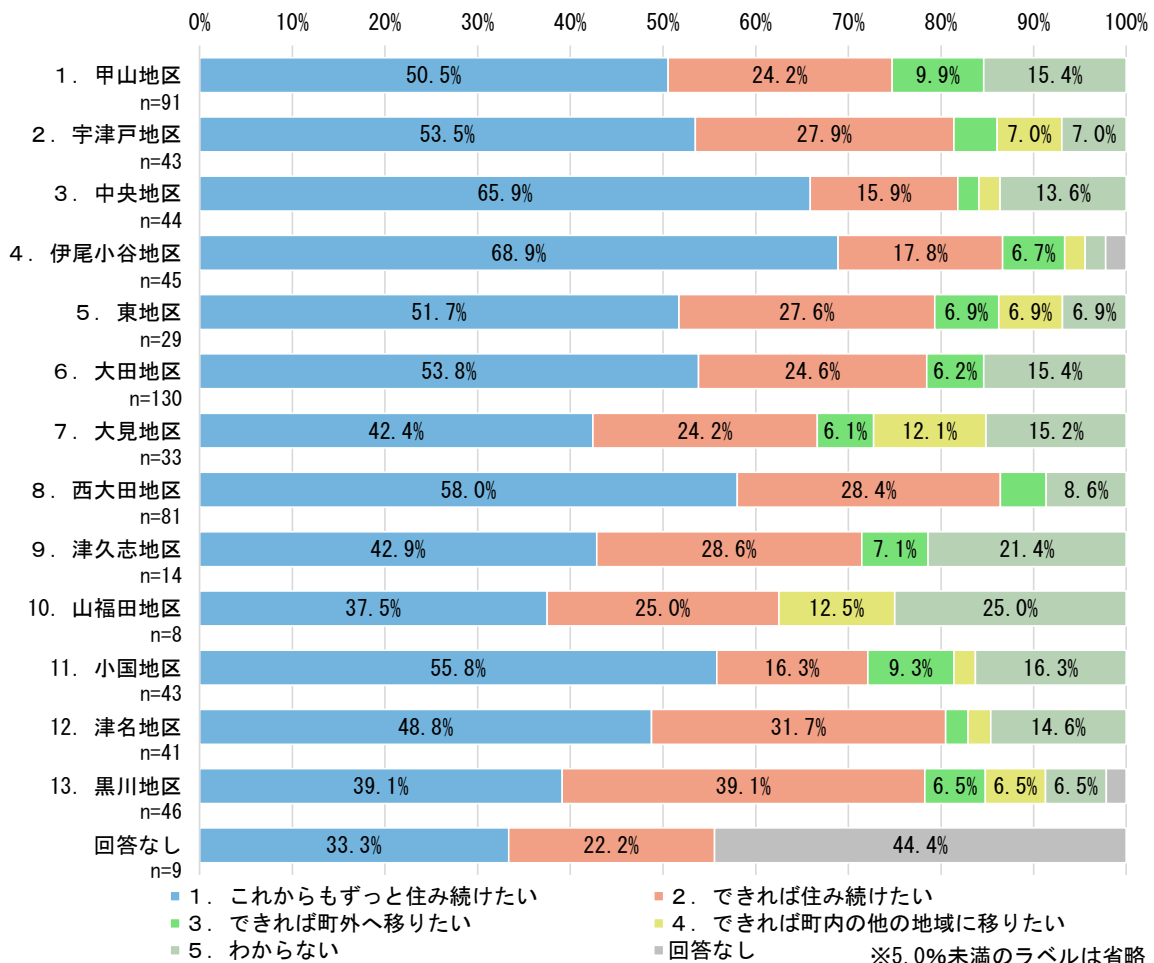


図 地域別 現在の居住地域に住み続けるかの意向

【年代別】

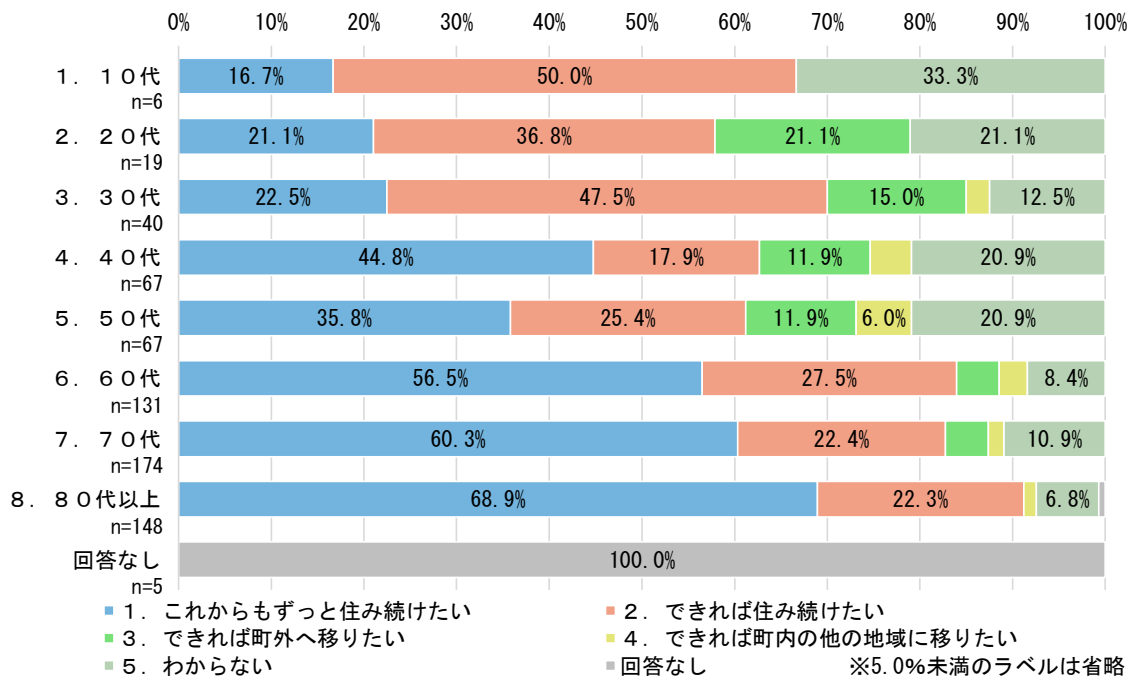


図 年代別 現在の居住地域に住み続けるかの意向

2-2 世羅町に立地する施設について

◎世羅町内には、商業施設や公共公益施設などが立地していますが、今後も町民の皆様がより快適なサービスを受けられるよう、それらの施設の立地を緩やかに誘導していく必要があります。

以上を踏まえ、以下の設問にお答えください。

問5. つぎの施設について、それぞれの利用頻度と主な移動手段を教えてください。

(1) 利用頻度

利用頻度が最も高い施設は、食料品・日用品の店舗で、8割弱の回答者が週に1~2日以上利用しています。

その他、月1~2日以上の利用が半数を超えている施設は、ホームセンター、コンビニエンスストア、病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関となっています。

食料品・日用品の店舗を地域別、年代別にみると、週1~2日以上利用する回答者の割合が8割を超えているのは、地域別にみると甲山地区、大田地区、津久志地区で、年代別にみると30~70代となっています。

衣料品の店舗を月1~2日以上利用する回答者は20代が最も多く、6割強を占めています。

ホームセンターを日常的に利用する回答者が多い地域は中央地区や伊尾小谷地区で、それぞれ2割台半ばが週1~2日以上利用しています。また、40~70代の回答者の2割前後がホームセンターを週1~2日以上利用しており、30代以下よりも利用頻度が高くなっています。

コンビニエンスストアの利用は20代で最も多く、7割弱が週1~2日以上利用しています。また、20代を除いて、50代以下の約半数が週1~2日以上利用しています。

食堂やレストランなどの飲食店を月1~2日以上利用する回答者が多いのは、地域別にみると甲山地区、大田地区、小国地区で4割以上、年代別では、20~40代で約6割を占めています。

病院、診療所や調剤薬局についてみると、病院、診療所を月1~2日以上利用する割合が高いのは伊尾小谷地区や大見地区で7割以上を占め、調剤薬局の利用頻度も他地区と比べやや高くなっています。また、年代が上がるほど月1~2日以上利用する回答者の割合が高くなっています。

保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設や、学校などの教育施設の利用については、全ての地域でほとんど利用しない回答者が大半を占めており地域別に大きな差はみられませんが、年代別にみると、子育て施設を週1~2日以上利用する回答者が多いのは、30代で約6割、40代で約2割、10代で約1割と続き、30代の利用頻度が他年代と比べ圧倒的に高くなっています。また、教育施設を月1~2日以上利用する回答者は、40代で約4割、30代で約3割の順で高くなっています。

銀行や郵便局などの金融機関の利用は、地域別に大きな差はみられませんが、年代別にみると、40~50代の利用頻度が比較的高く、2割弱から2割台半ばが週1~2日以上利用しています。

図書館・文化ホールなどの文化施設の利用は、地域別に大きな差はみられませんが、年代別にみると、30~40代の利用頻度が比較的高く、2割台半ばから3割台半ばが月1~2日以上利用しています。

家電用品店や、福祉施設、行政窓口は、全ての地域、年代でほとんど利用しない回答者が大半を占めています。

身近に利用できる公園や広場は、全ての地域でほとんど利用しない回答者が大半を占めており、地域別に大きな差はみられないものの、年代別にみると、30代の半数以上が月1～2日程度利用しており他年代と比べ利用頻度が高くなっています。

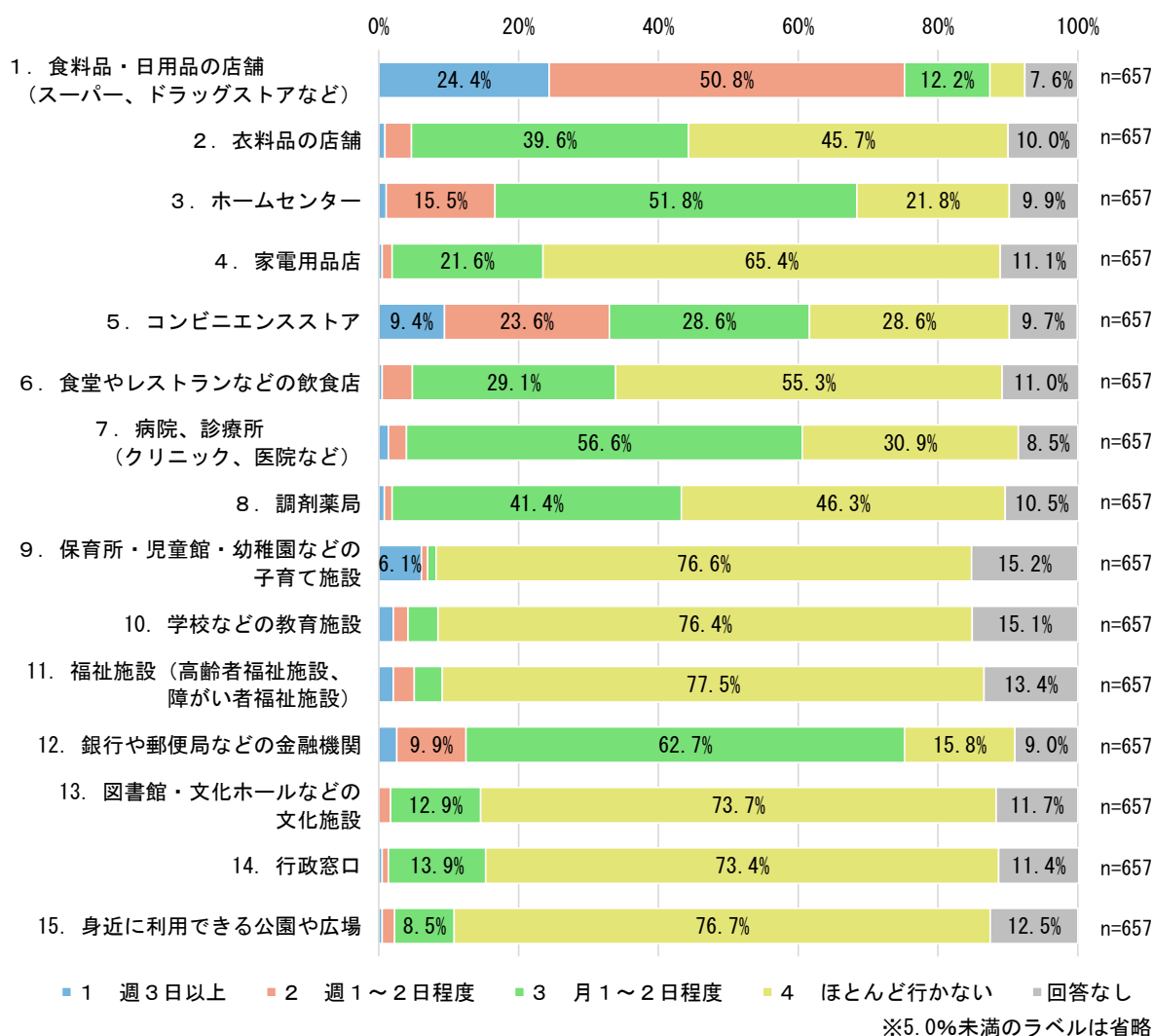
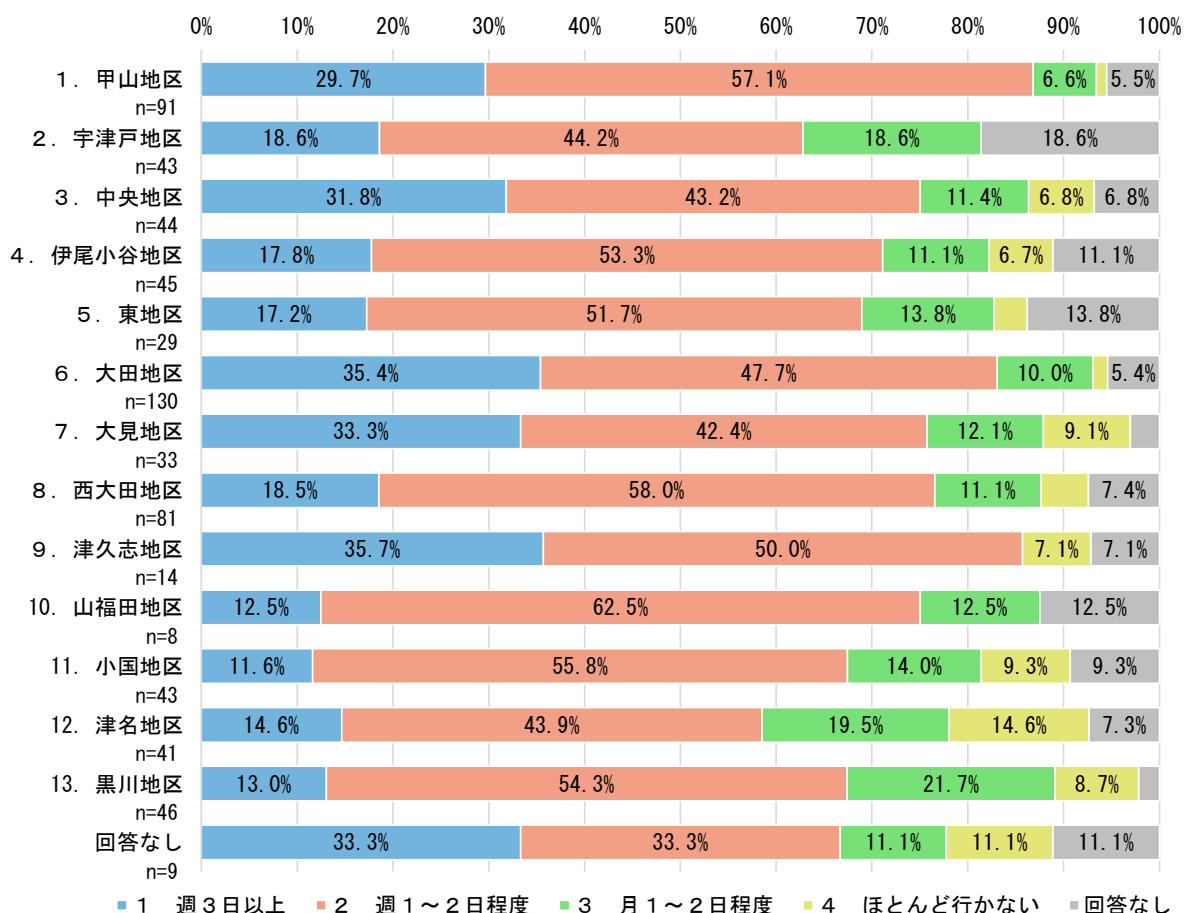


図 施設の利用頻度

1. 食料品・日用品の店舗（スーパー、ドラッグストアなど）

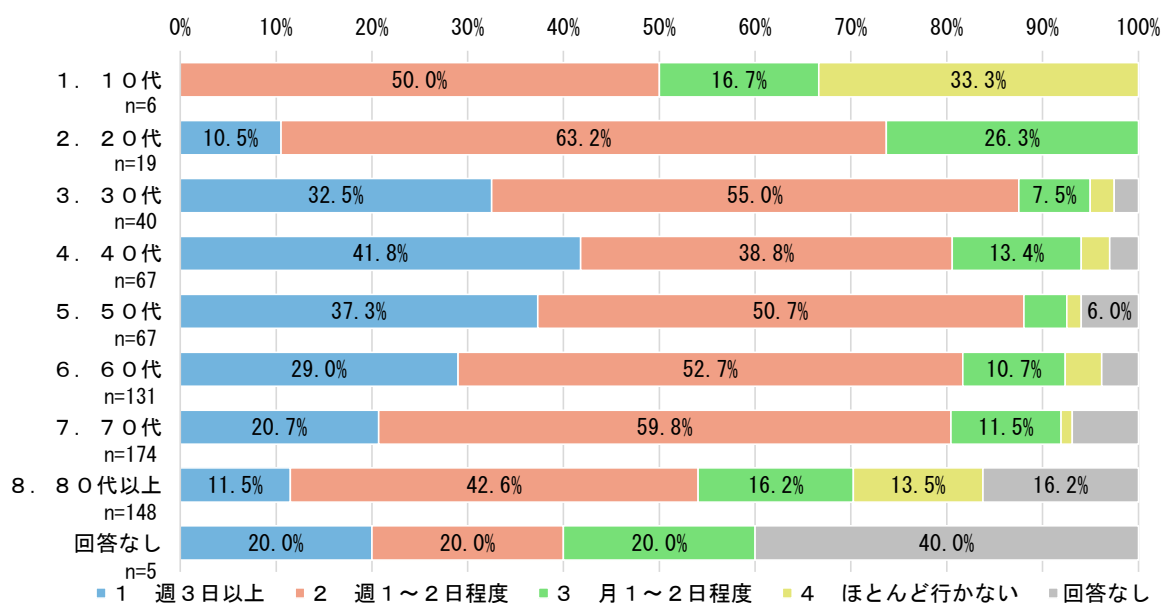
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 食料品・日用品の店舗の利用頻度

【年代別】

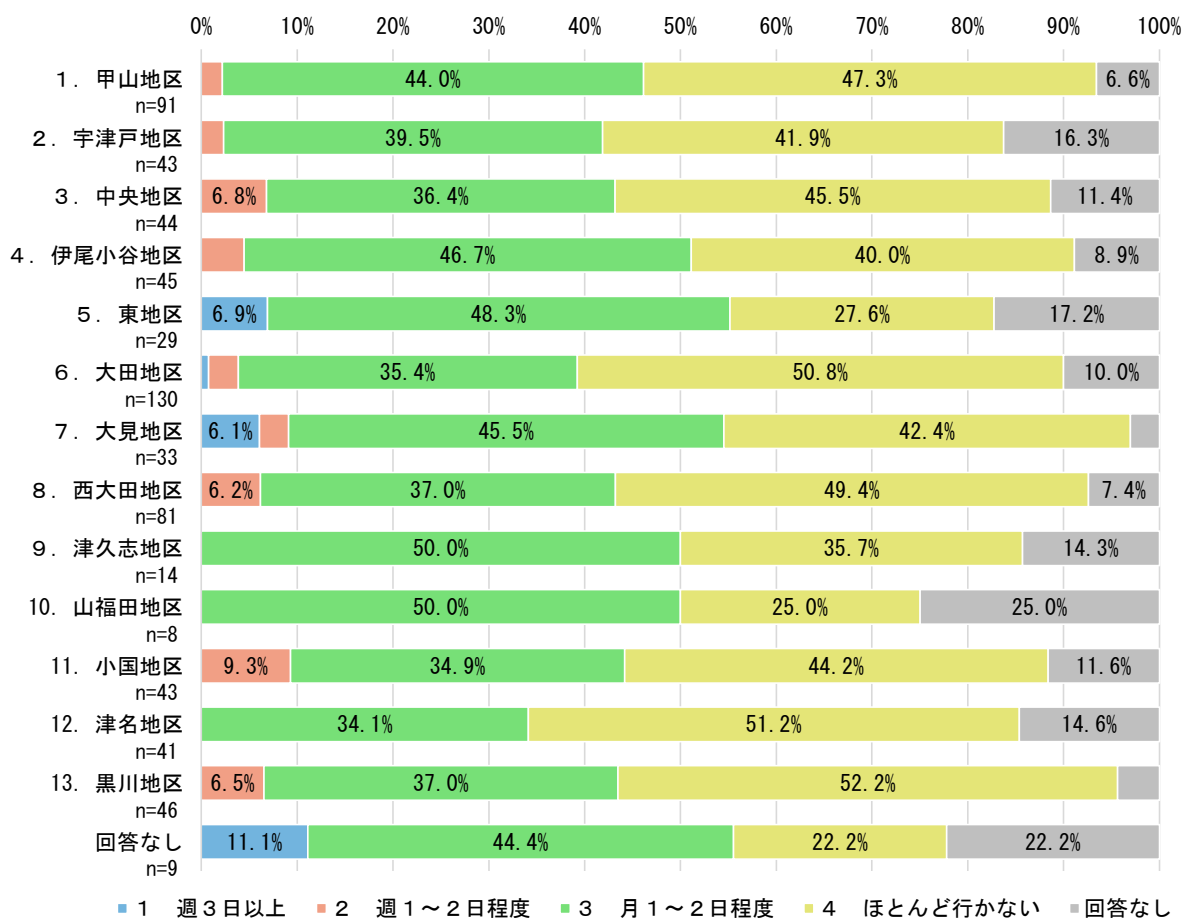


※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 食料品・日用品の店舗の利用頻度

2. 衣料品の店舗

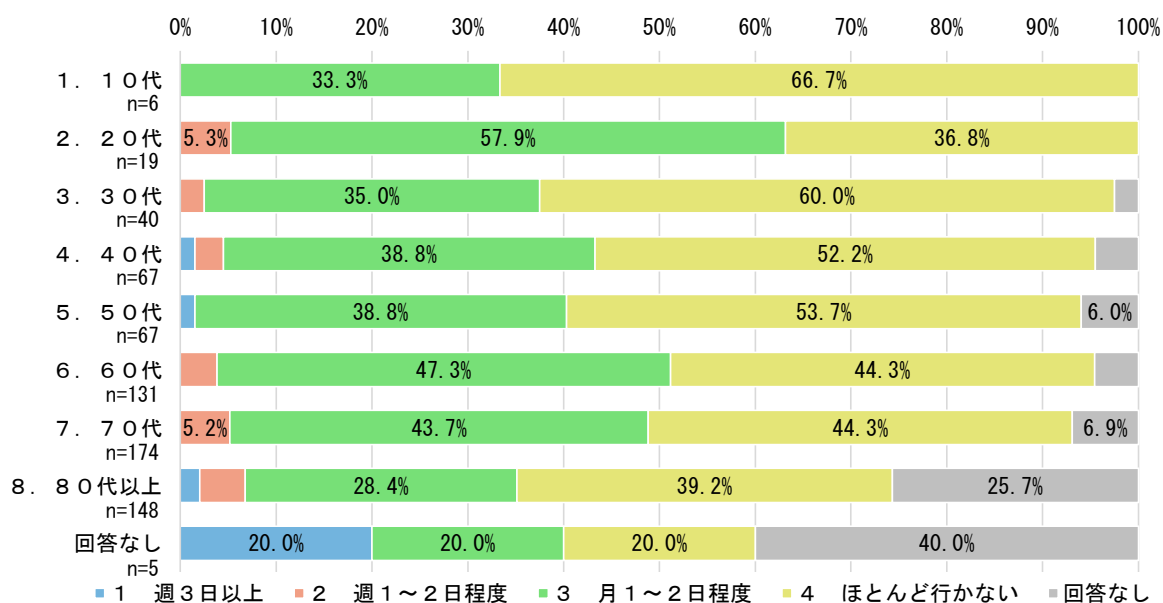
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 衣料品の店舗の利用頻度

【年代別】

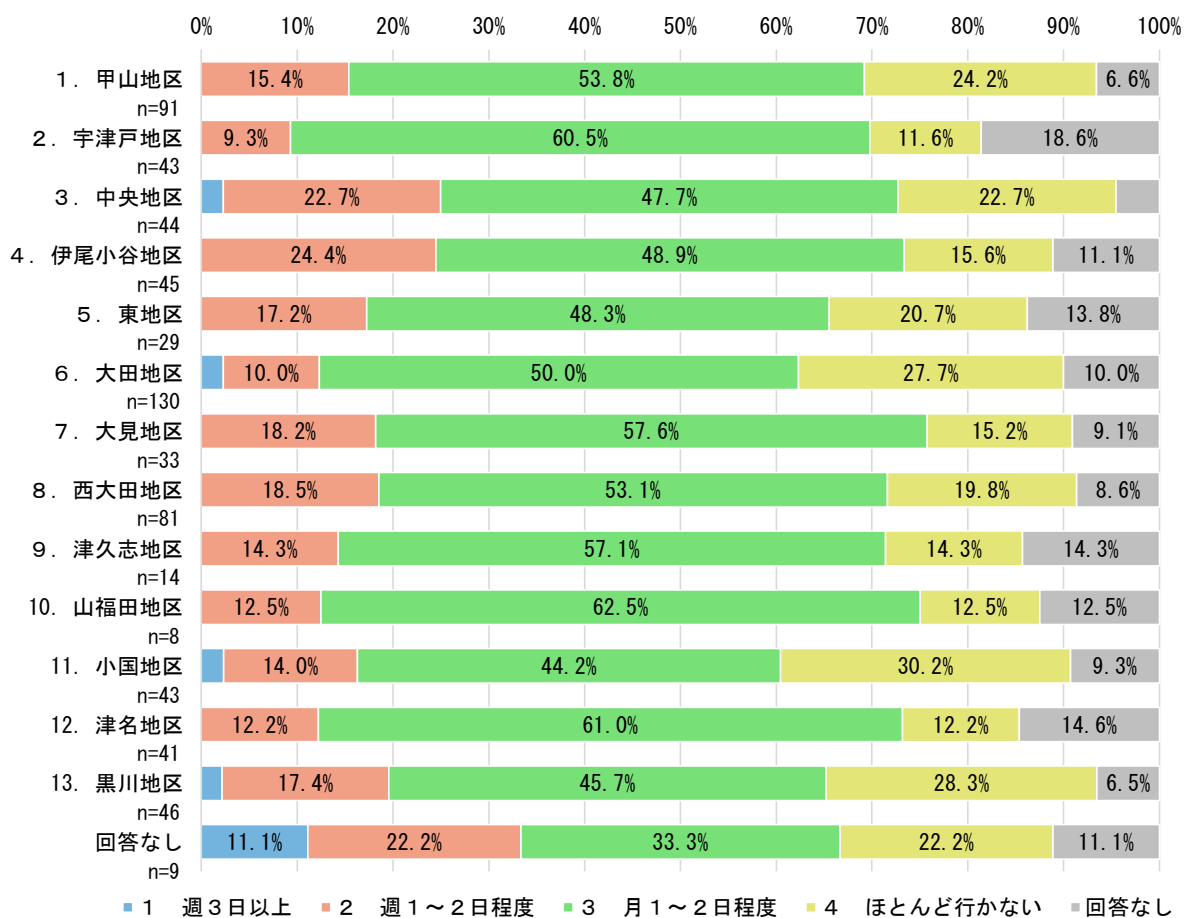


※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 衣料品の店舗の利用頻度

3. ホームセンター

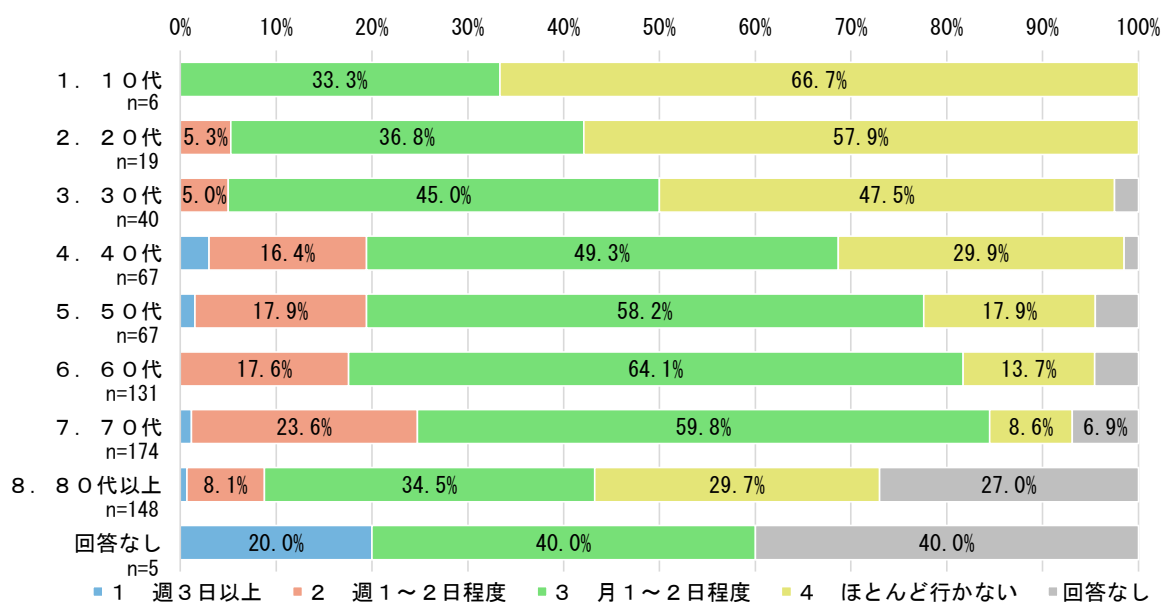
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 ホームセンターの利用頻度

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 ホームセンターの利用頻度

4. 家電用品店

【地域別】

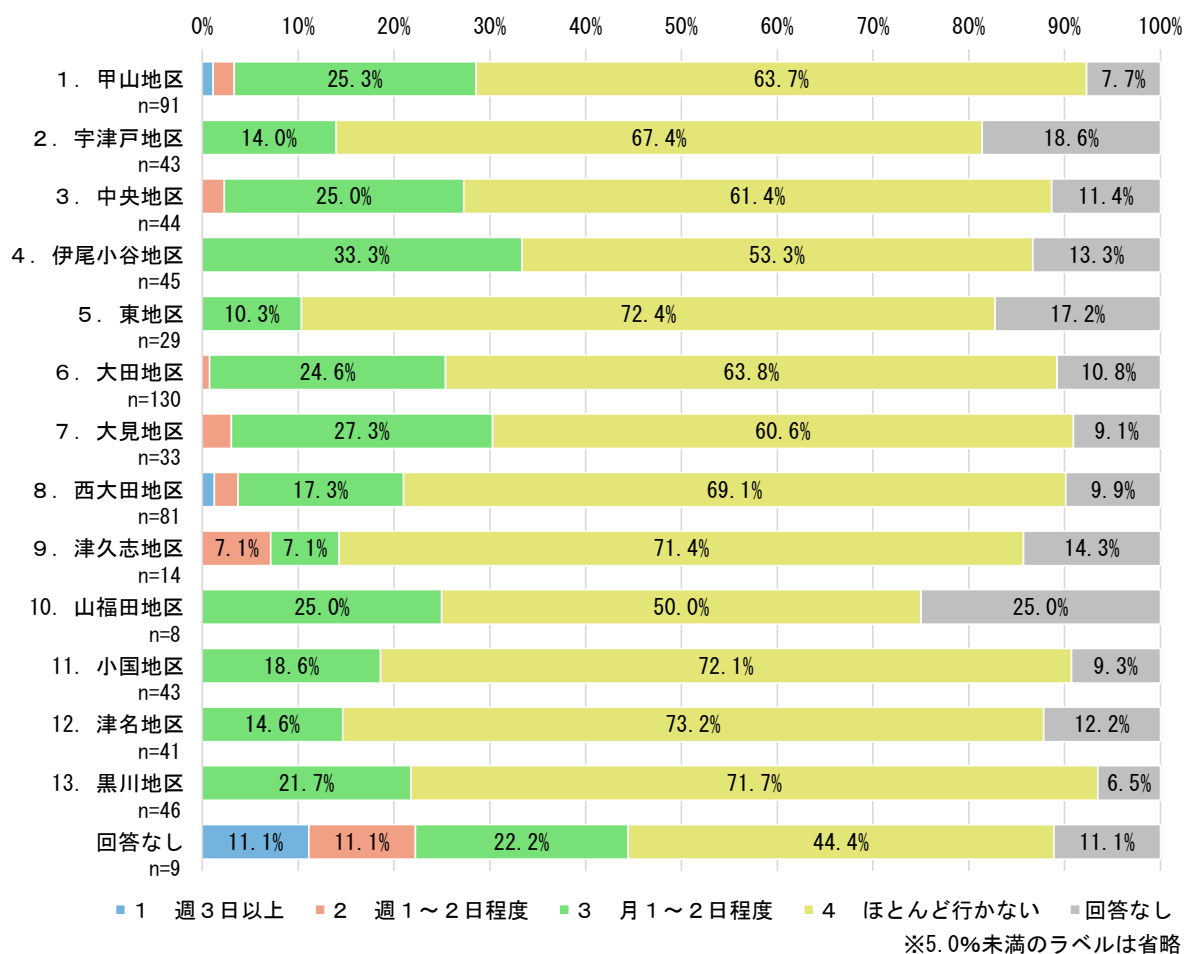


図 地域別 家電用品店の利用頻度

【年代別】

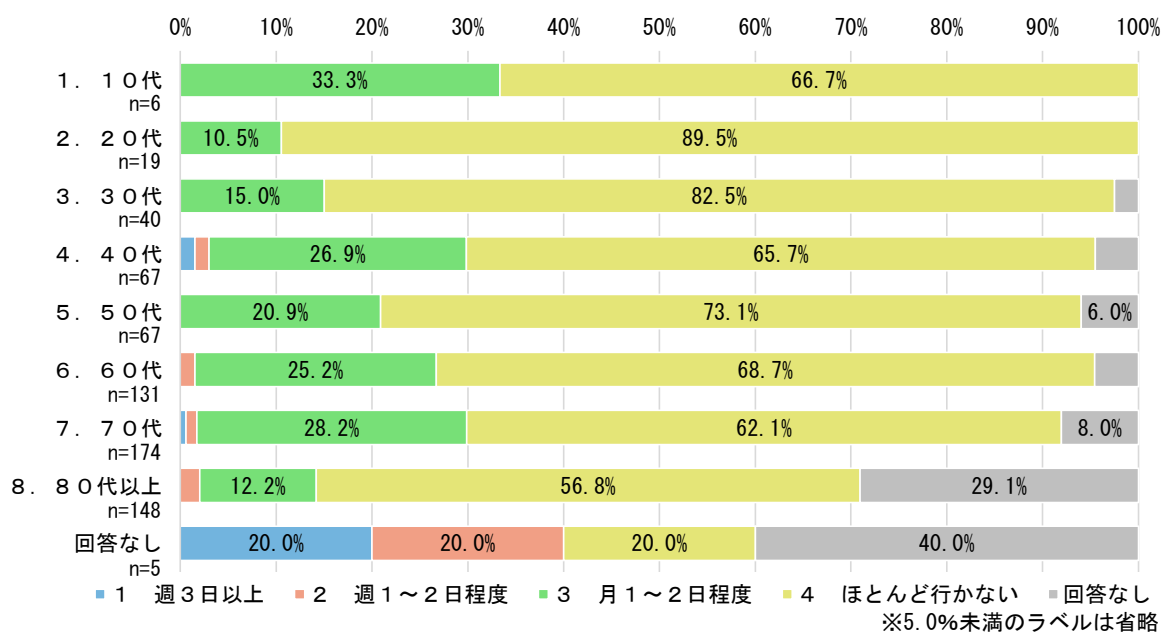


図 年代別 家電用品店の利用頻度

5. コンビニエンスストア

【地域別】

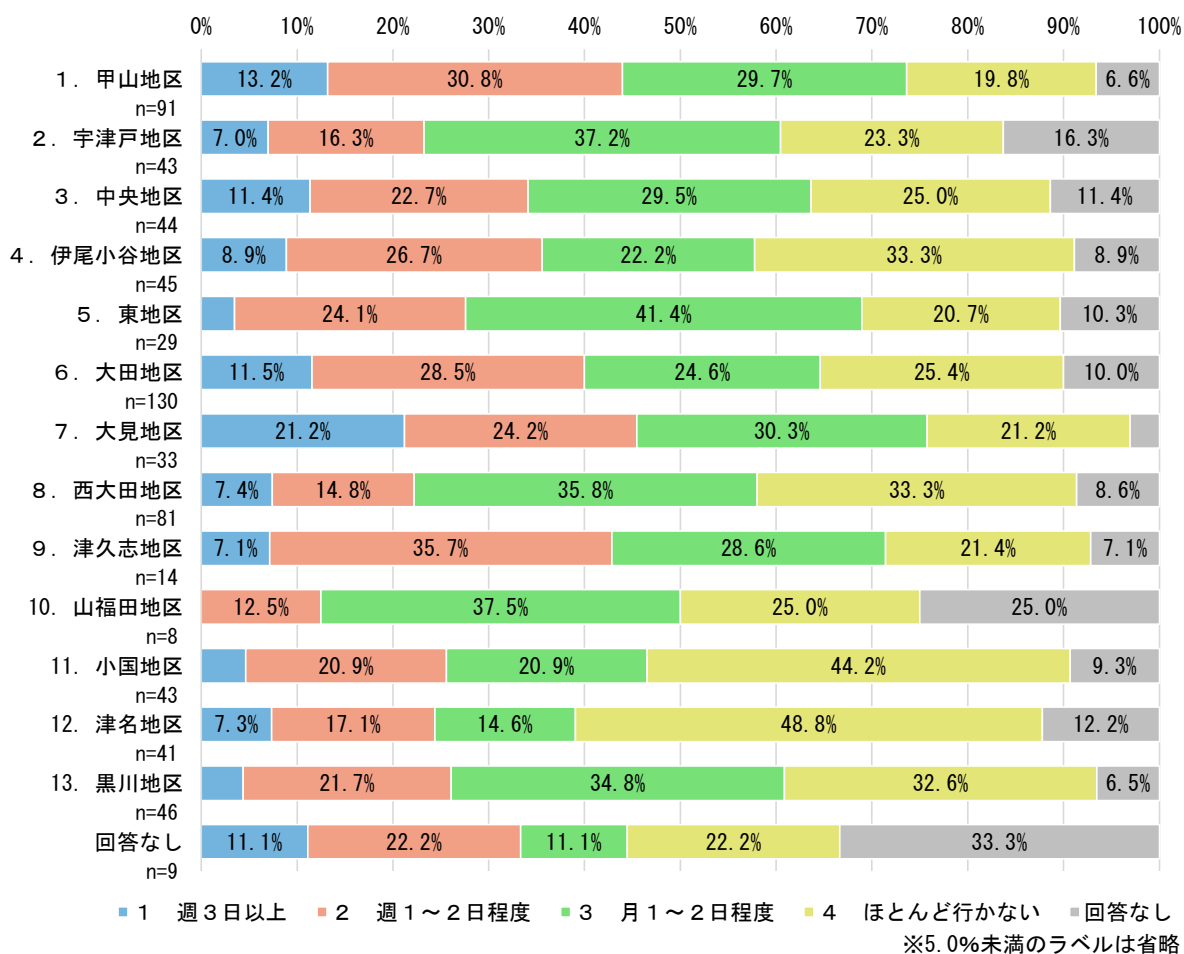


図 地域別 コンビニエンスストアの利用頻度

【年代別】

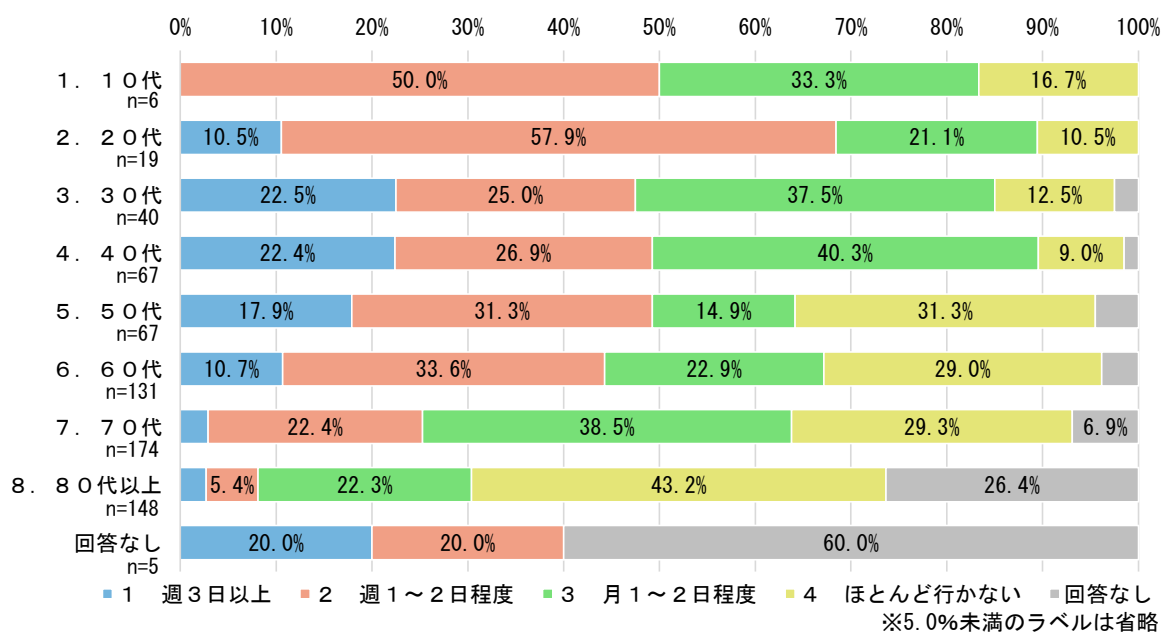
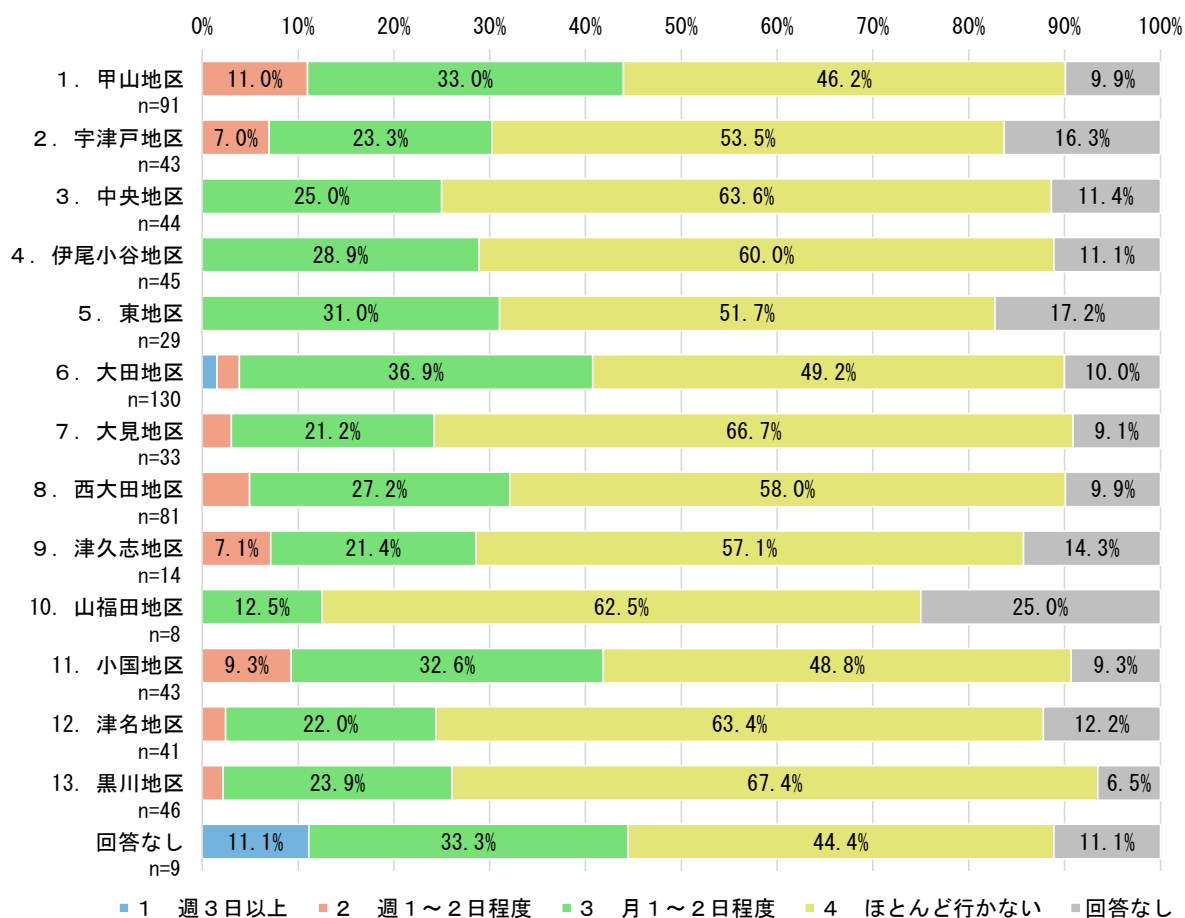


図 年代別 コンビニエンスストアの利用頻度

6. 食堂やレストランなどの飲食店

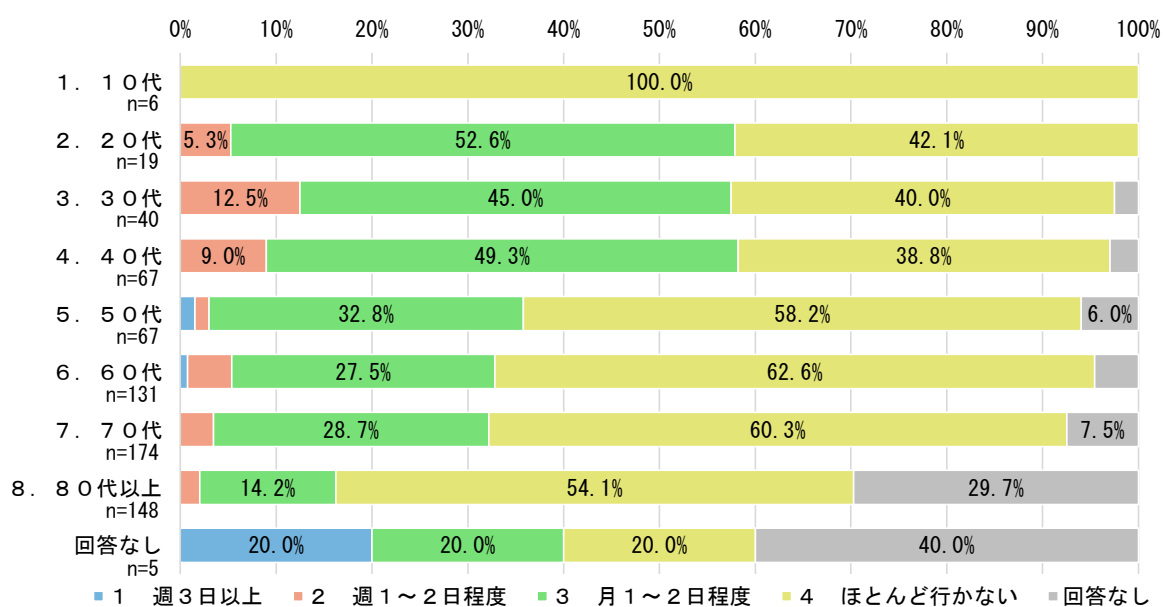
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 食堂やレストランなどの飲食店の利用頻度

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 食堂やレストランなどの飲食店の利用頻度

7. 病院、診療所（クリニック、医院など）

【地域別】

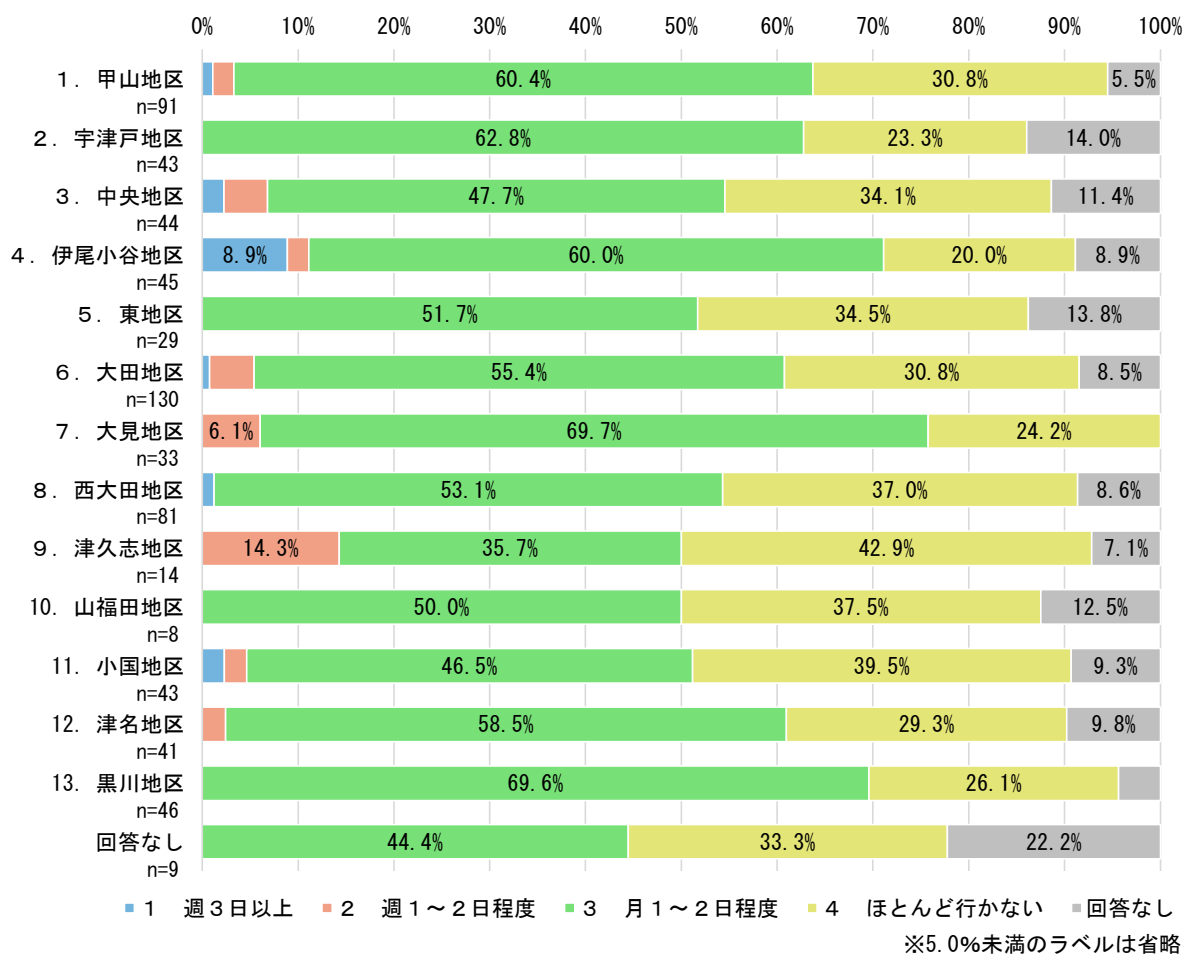


図 地域別 病院、診療所の利用頻度

【年代別】

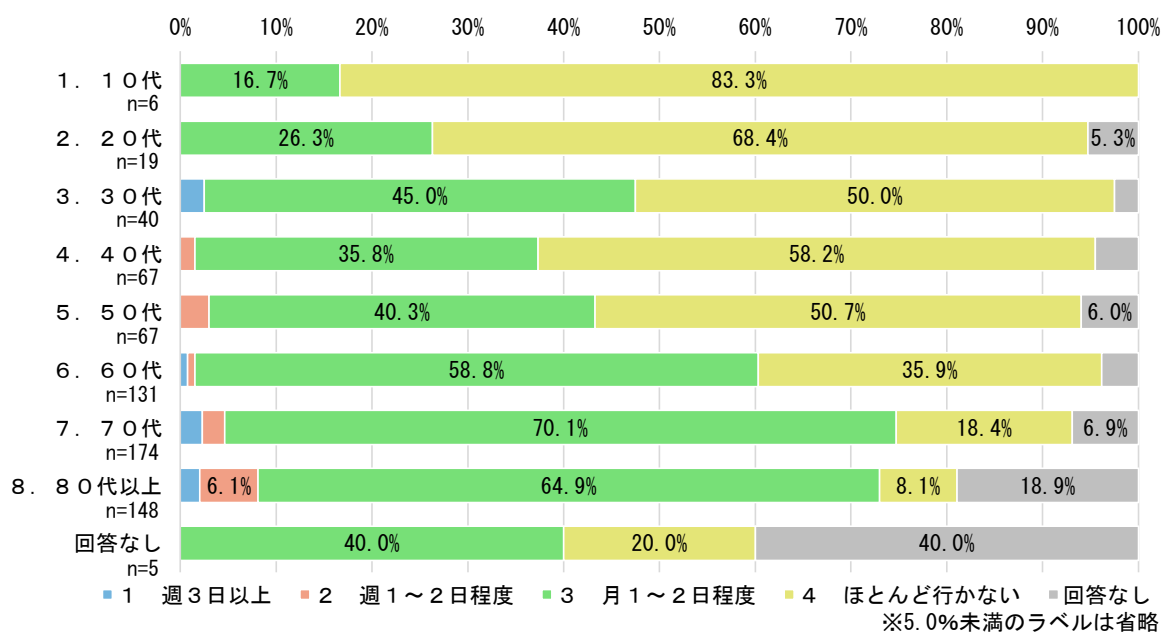
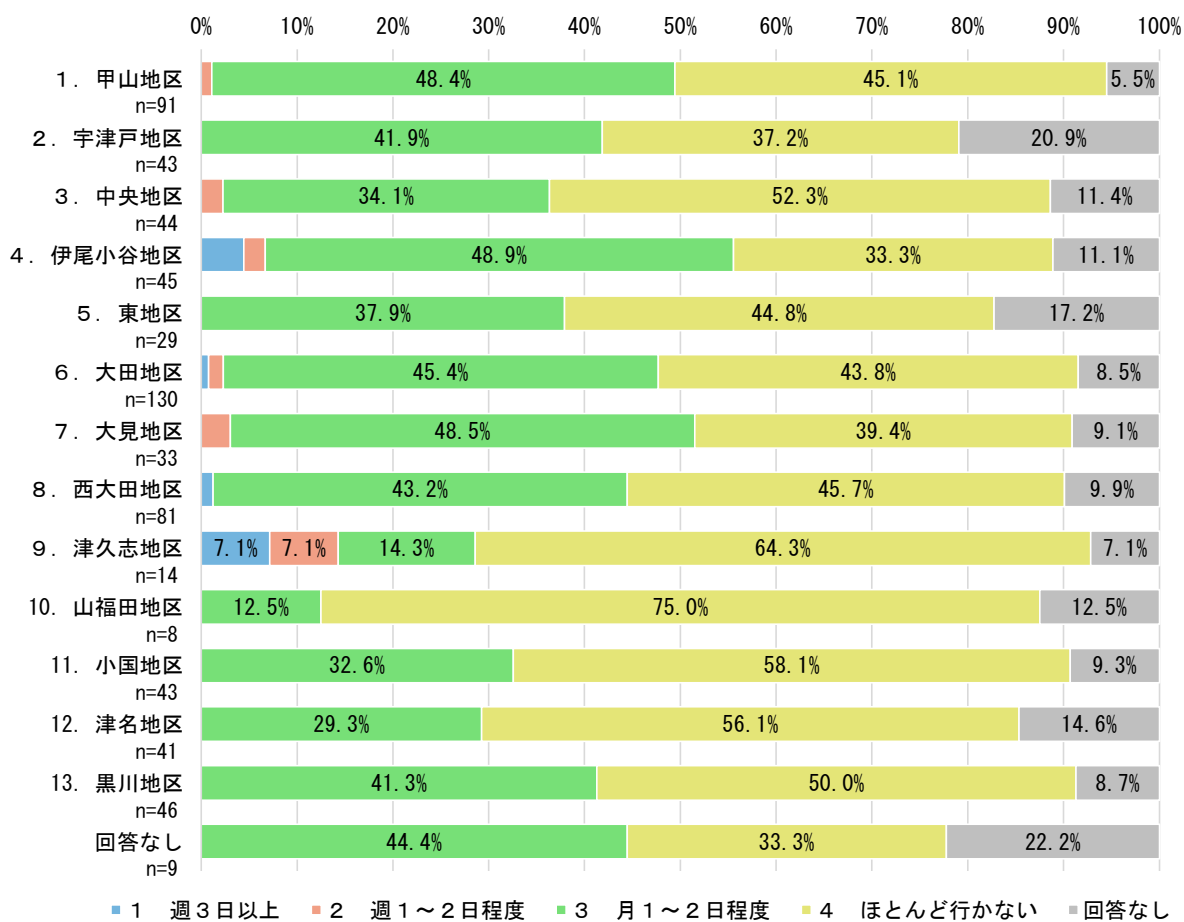


図 年代別 病院、診療所の利用頻度

8. 調剤薬局

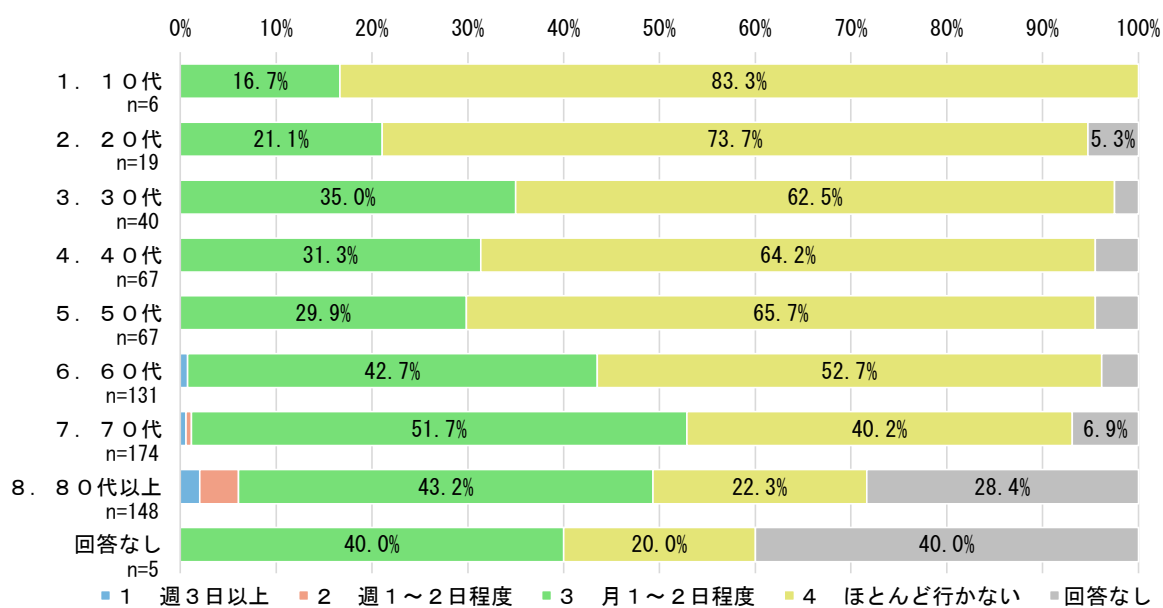
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 調剤薬局の利用頻度

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 調剤薬局の利用頻度

9. 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設

【地域別】

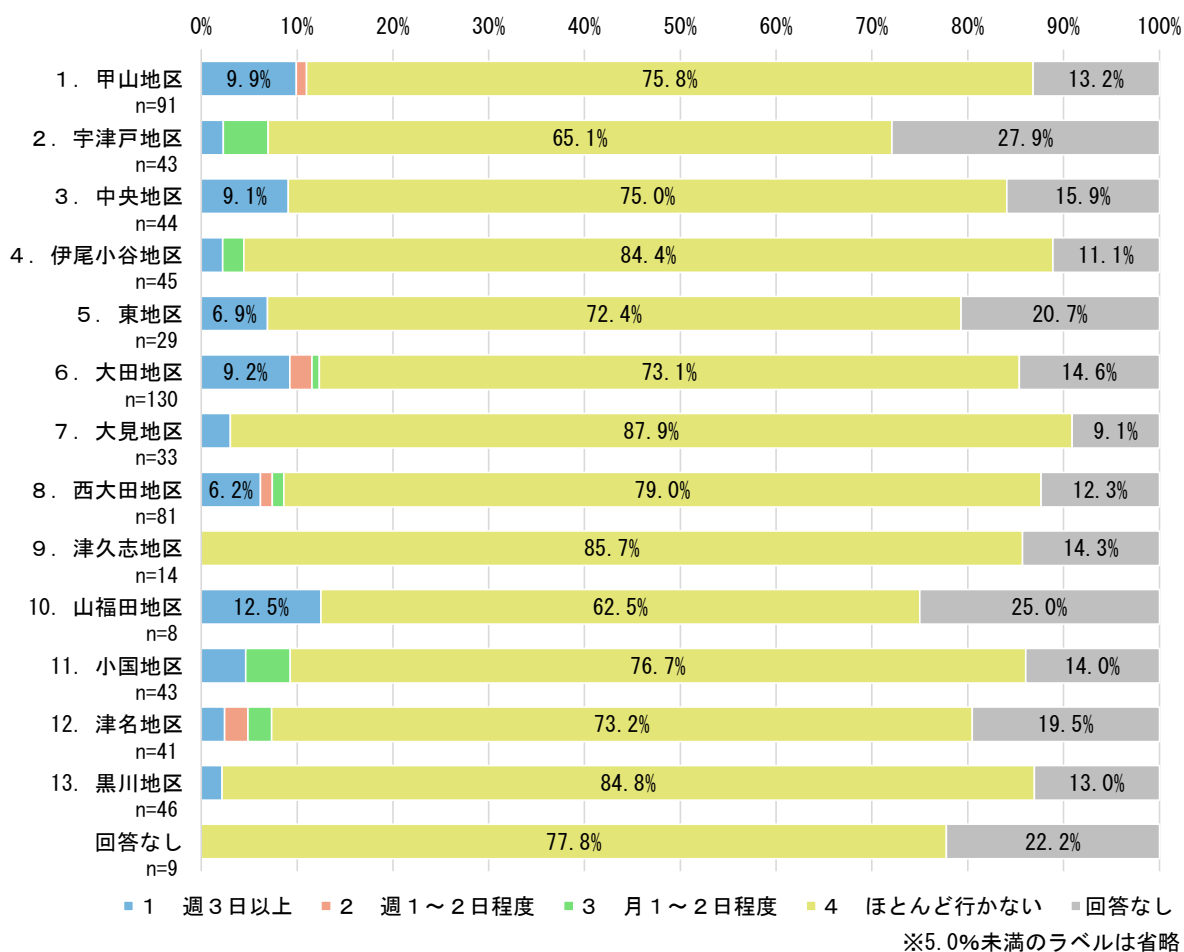


図 地域別 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設の利用頻度

【年代別】

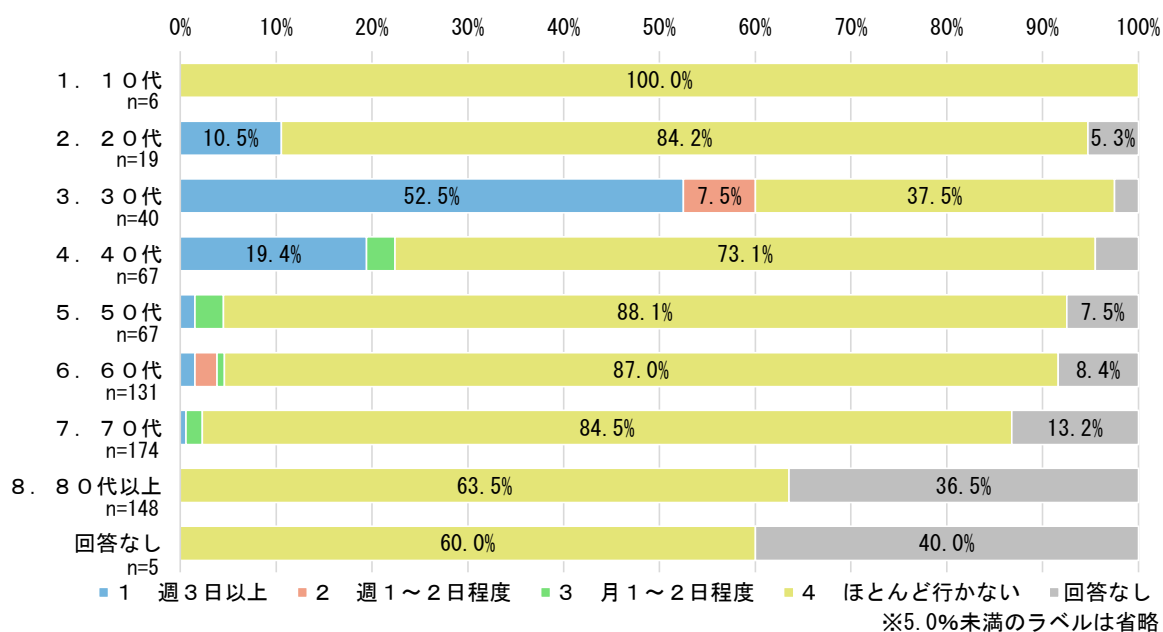
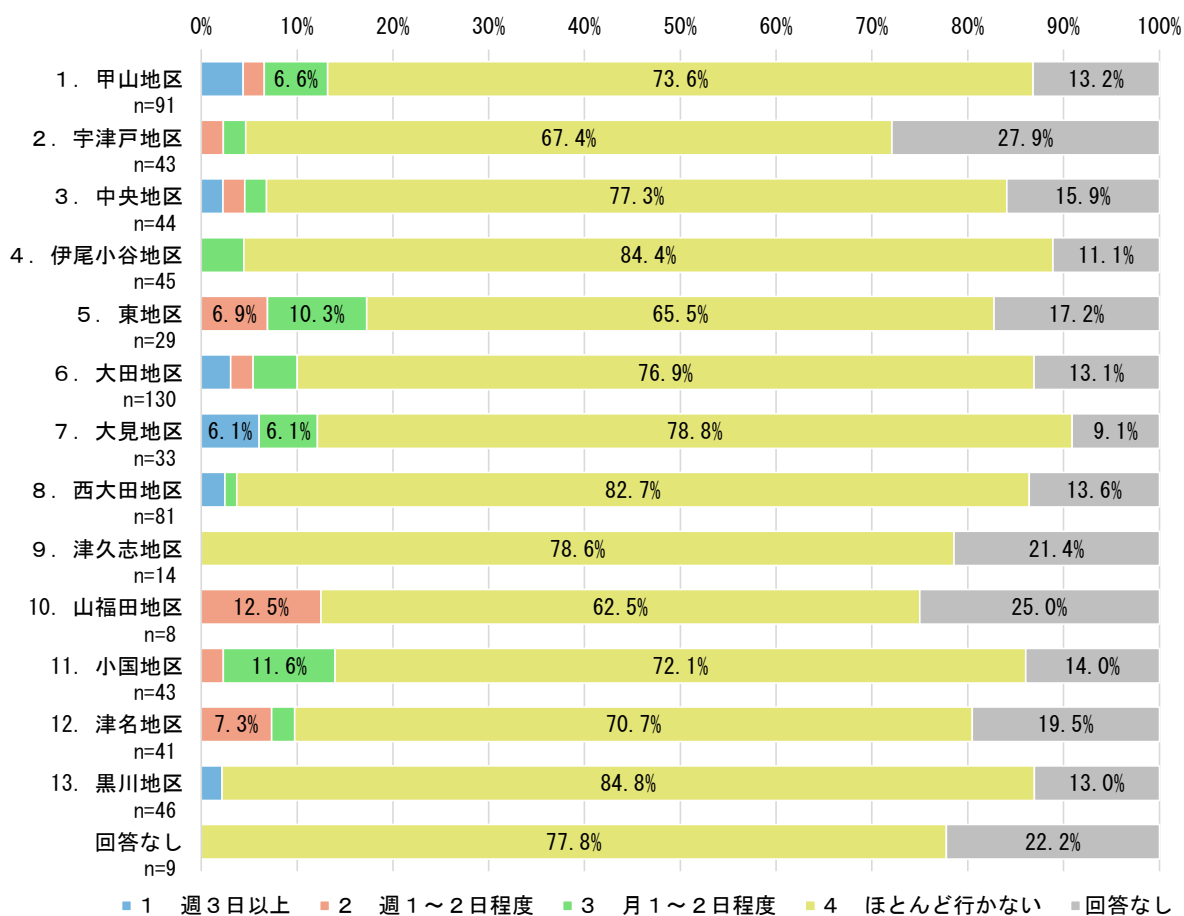


図 年代別 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設の利用頻度

10. 学校などの教育施設

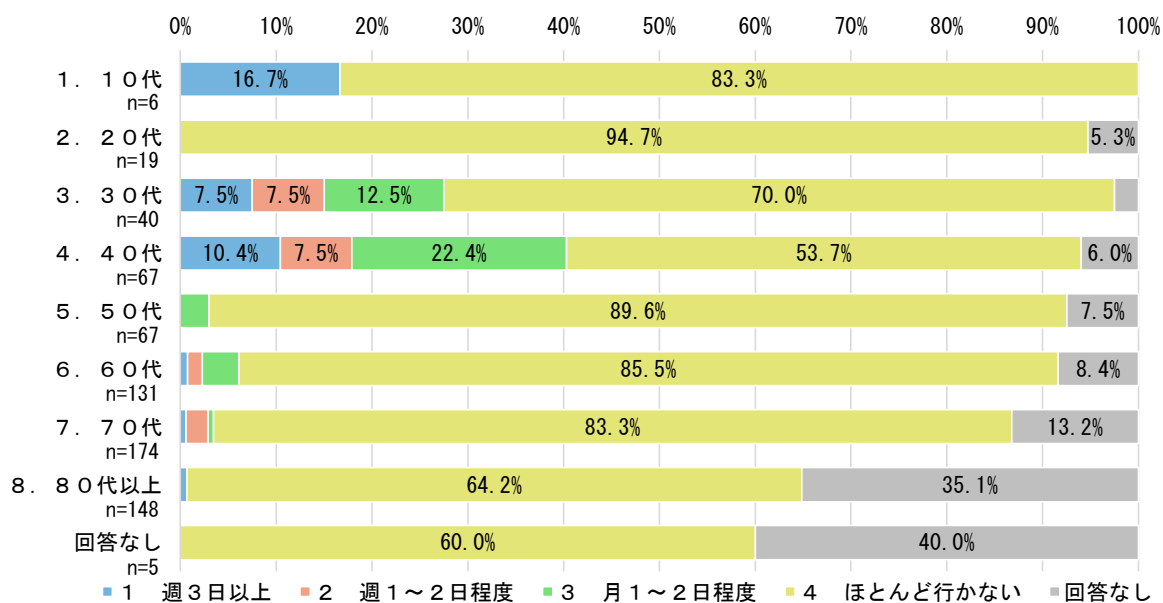
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 学校などの教育施設の利用頻度

【年代別】

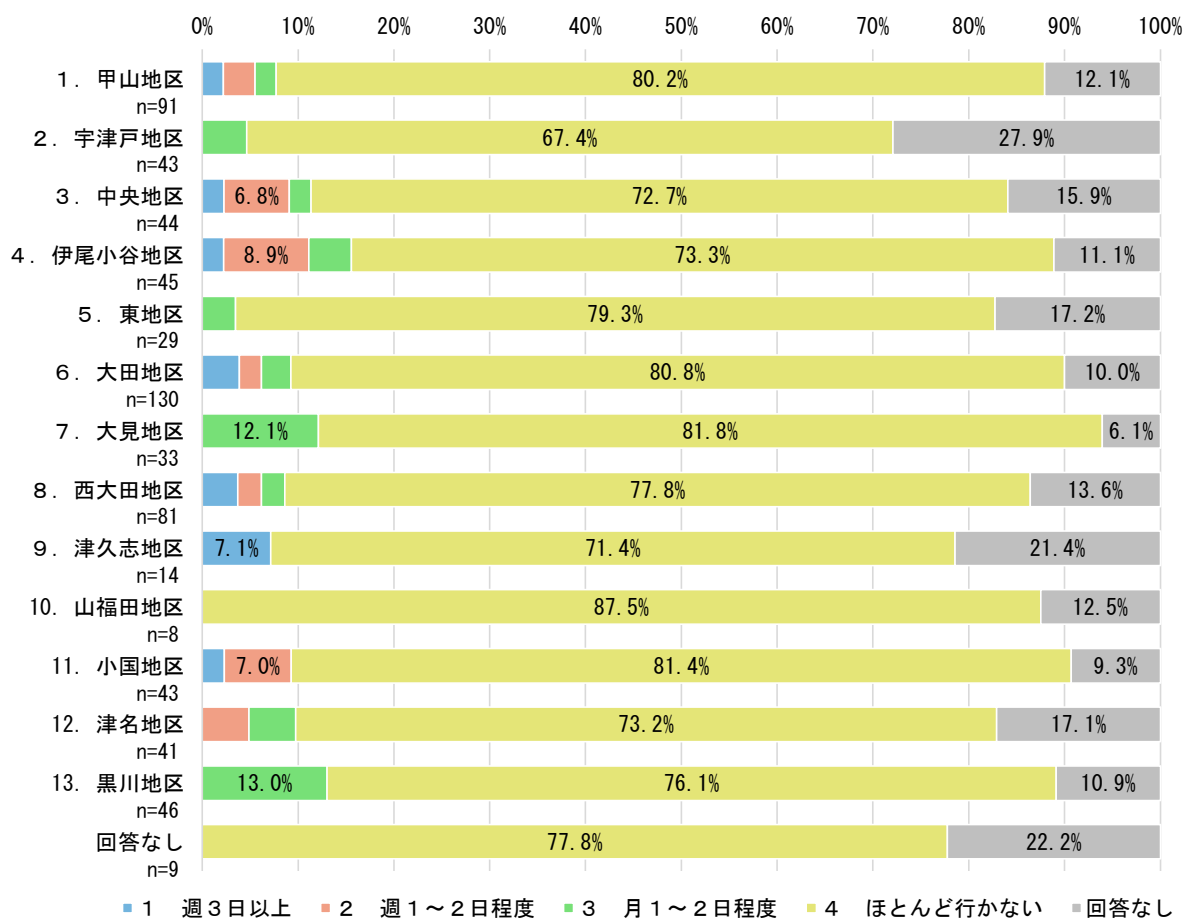


※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 学校などの教育施設の利用頻度

11. 福祉施設（高齢者福祉施設、障がい者福祉施設）

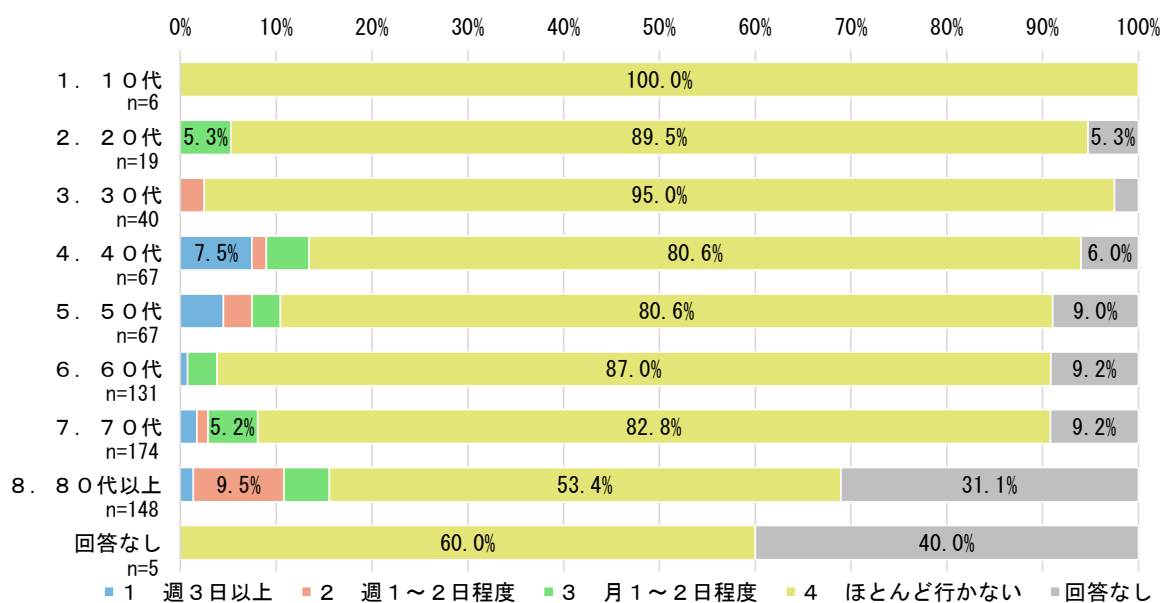
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 福祉施設の利用頻度

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 福祉施設の利用頻度

12. 銀行や郵便局などの金融機関

【地域別】

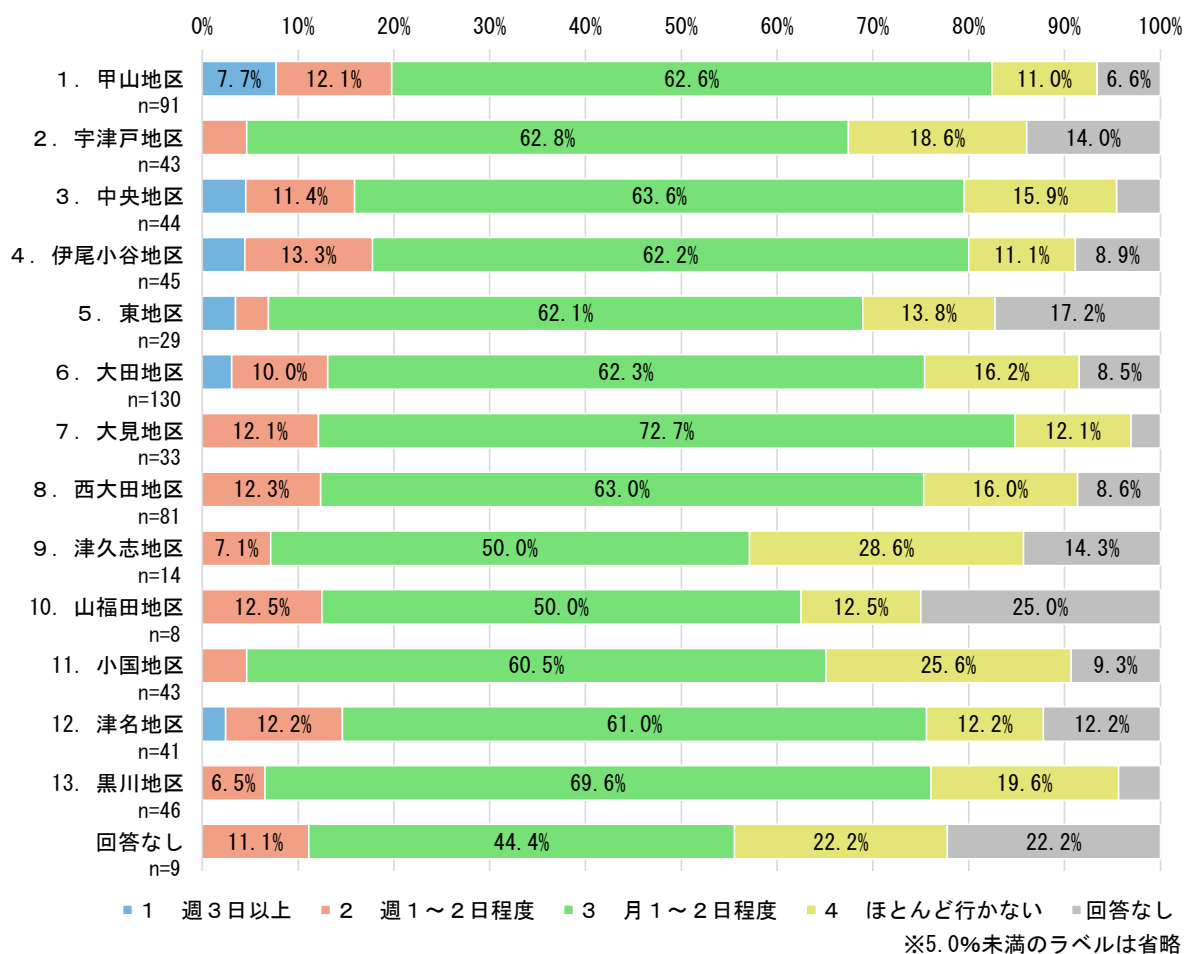


図 地域別 銀行や郵便局などの金融機関の利用頻度

【年代別】

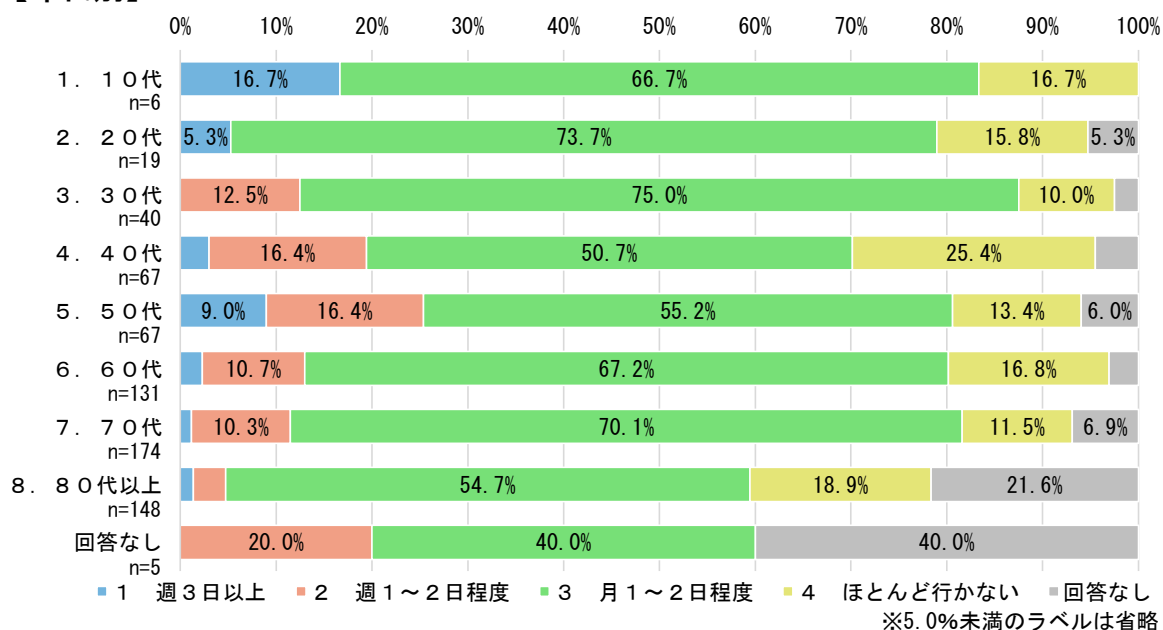


図 年代別 銀行や郵便局などの金融機関の利用頻度

13. 図書館・文化ホールなどの文化施設

【地域別】

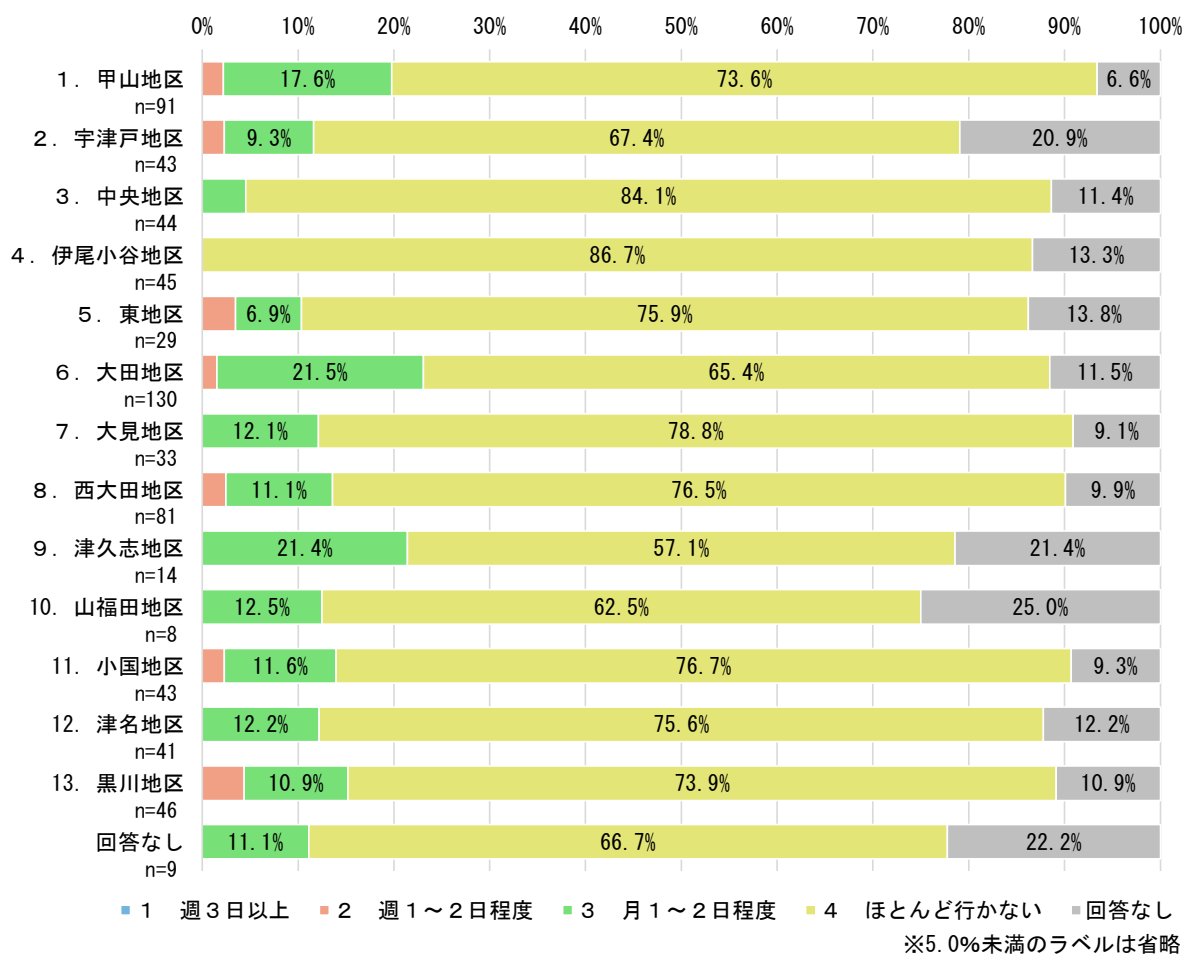


図 地域別 図書館・文化ホールなどの文化施設の利用頻度

【年代別】

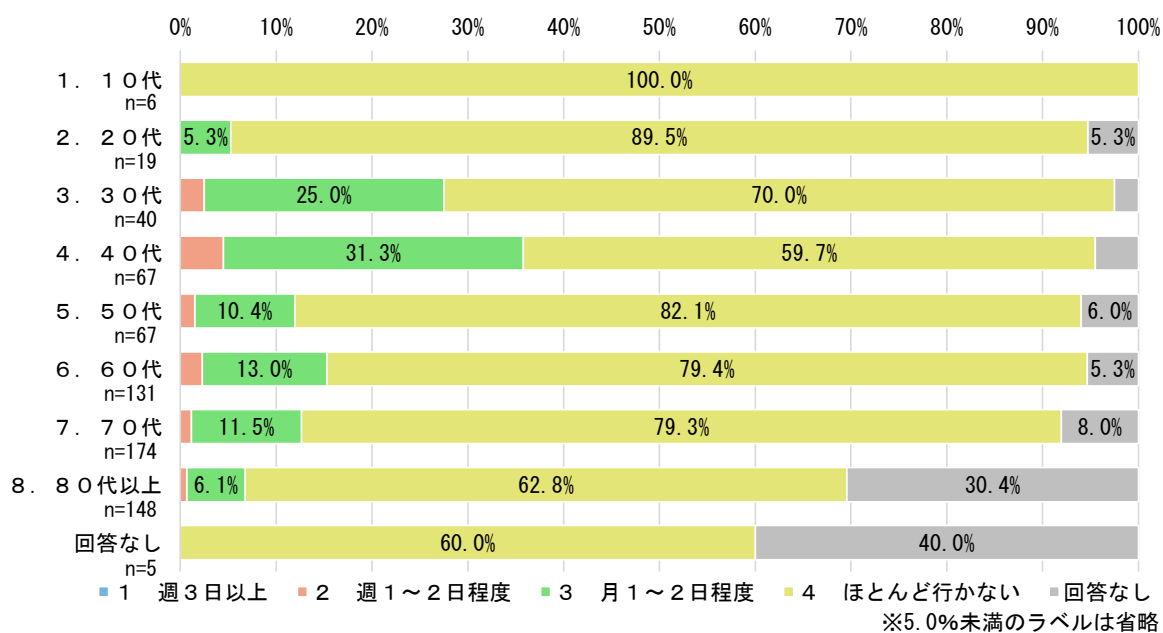


図 年代別 図書館・文化ホールなどの文化施設の利用頻度

14. 行政窓口 【地域別】

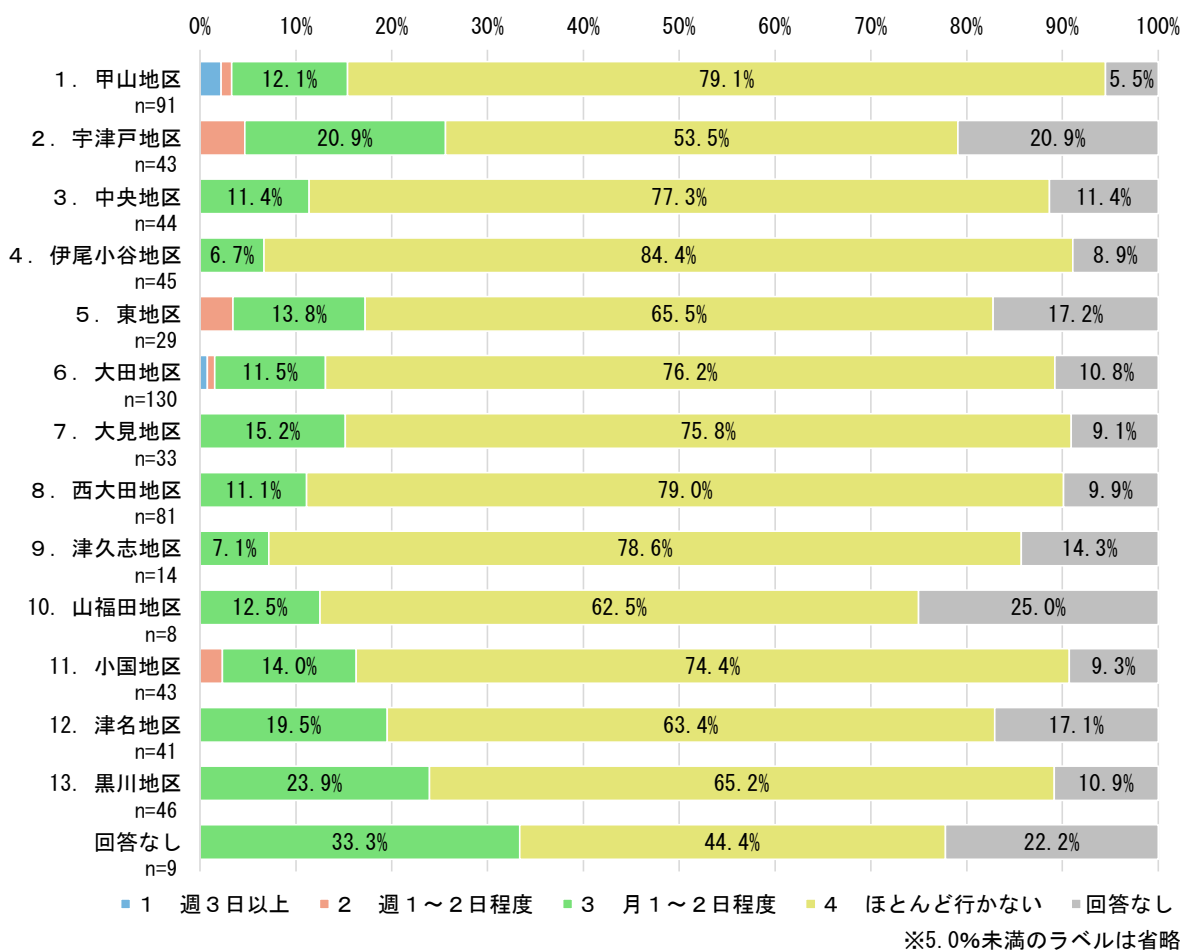


図 地域別 行政窓口の利用頻度

【年代別】

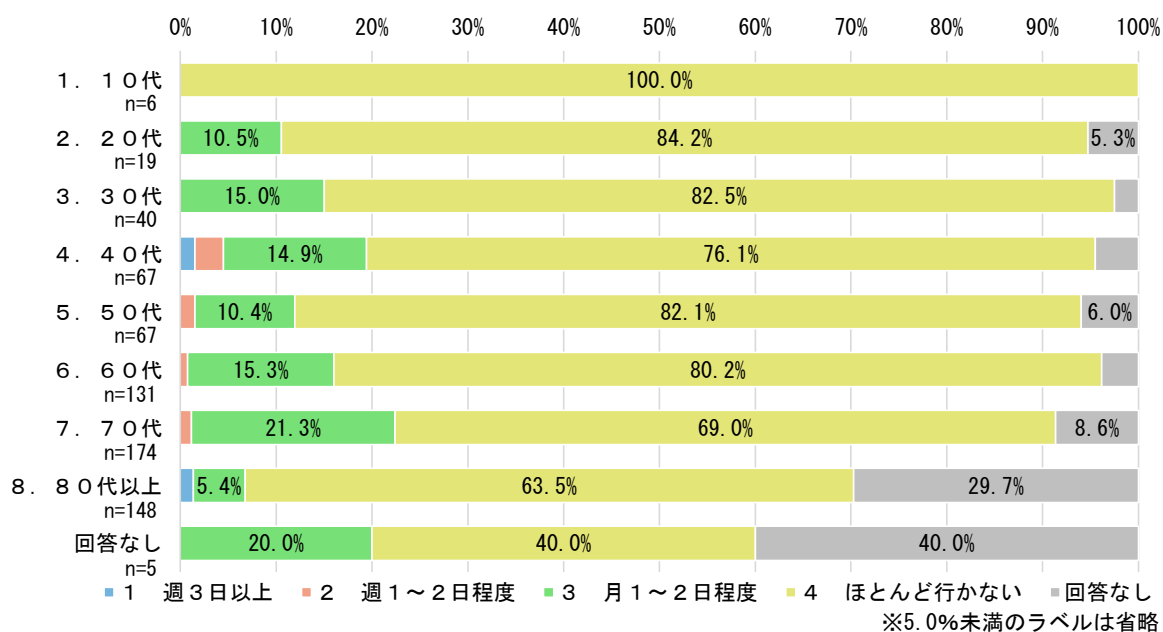
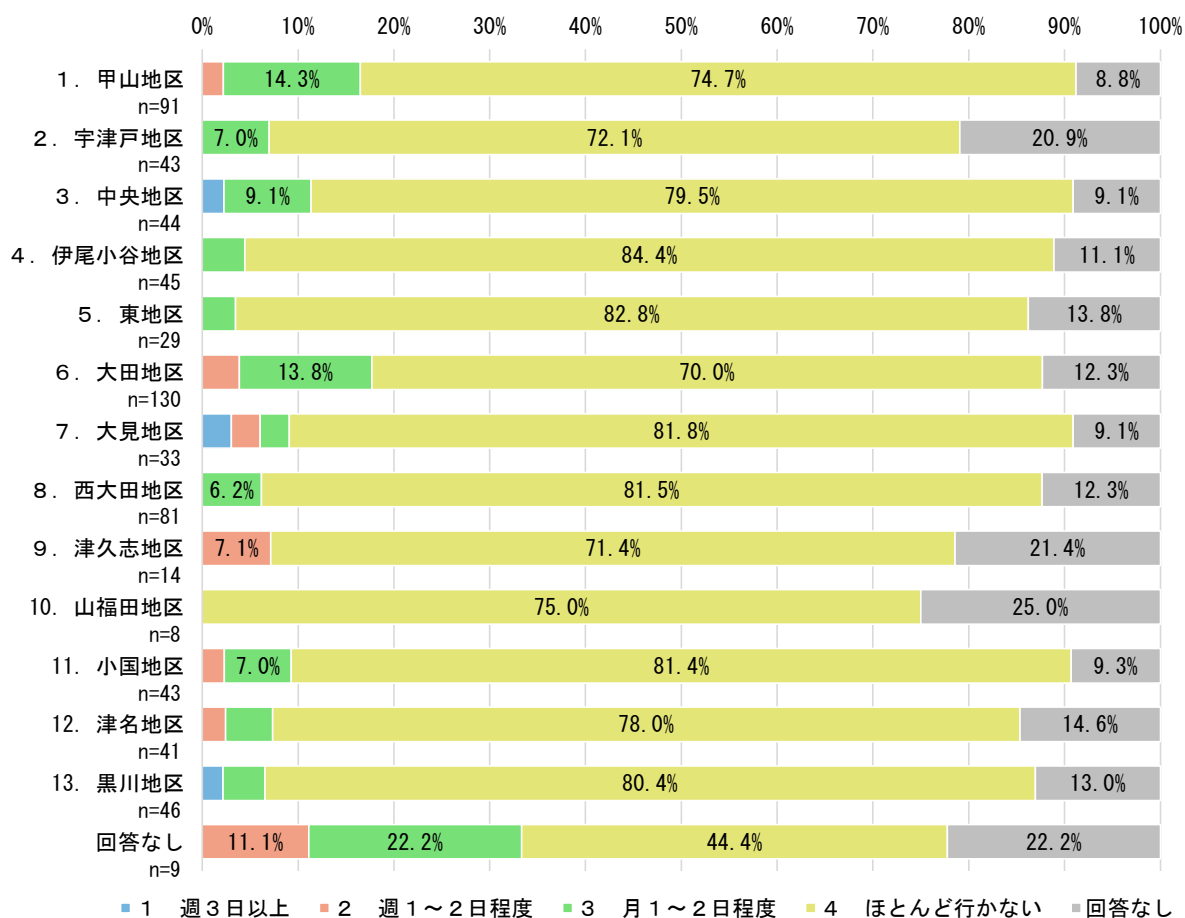


図 年代別 行政窓口の利用頻度

15. 身近に利用できる公園や広場

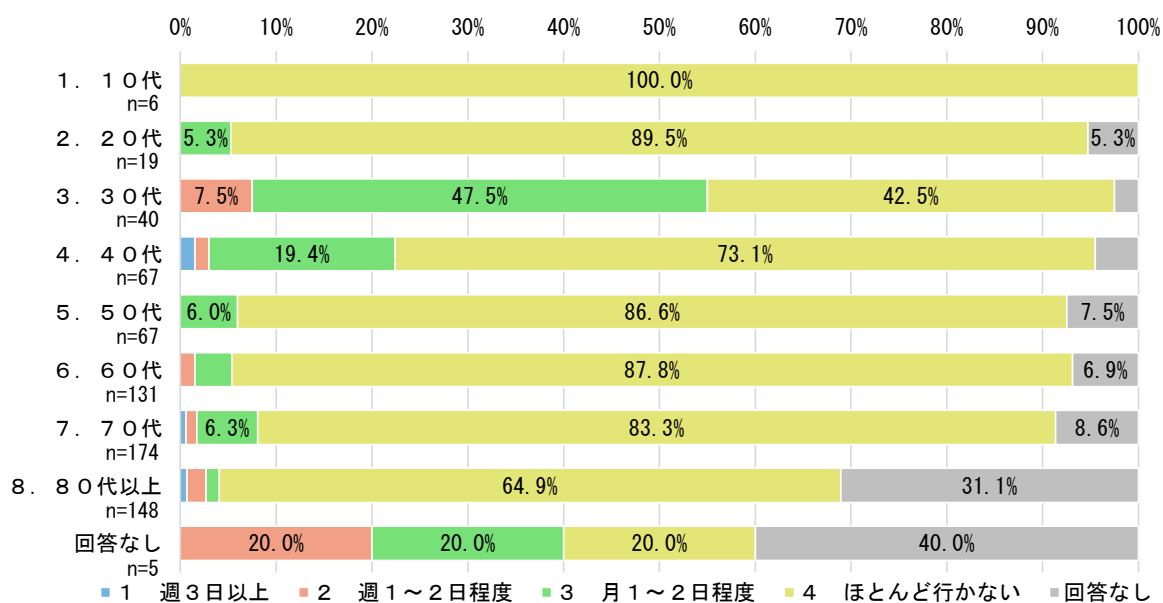
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 身近に利用できる公園や広場の利用頻度

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 身近に利用できる公園や広場の利用頻度

（２）移動手段

施設への主な移動手段は自家用車が全ての施設において最も多く挙げられ、特に日常的な利用頻度が高い食料品・日用品の店舗へは８割以上が自家用車を利用しています。

銀行や郵便局などの金融機関についてみると、他施設と同様に自家用車の利用が大半ではあるものの、徒歩や自転車を選択した回答者は、地域別では甲山地区が１割強、年代別では１０代が１割台半ばを占め、やや高くなっています。

銀行や郵便局などの金融機関以外の全ての施設については、全ての地域、年代においても自家用車以外の利用はごくわずかとなっています。

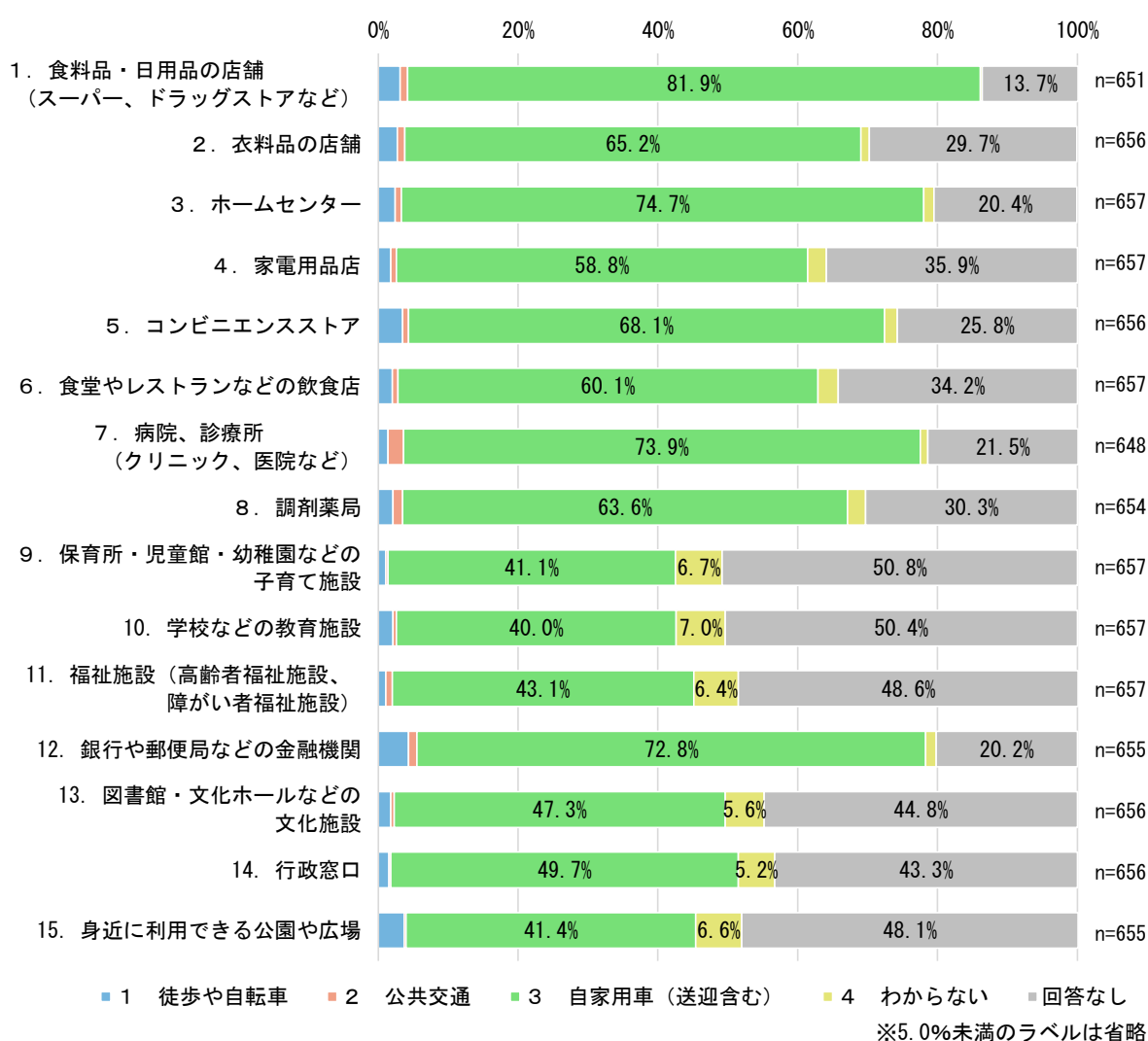
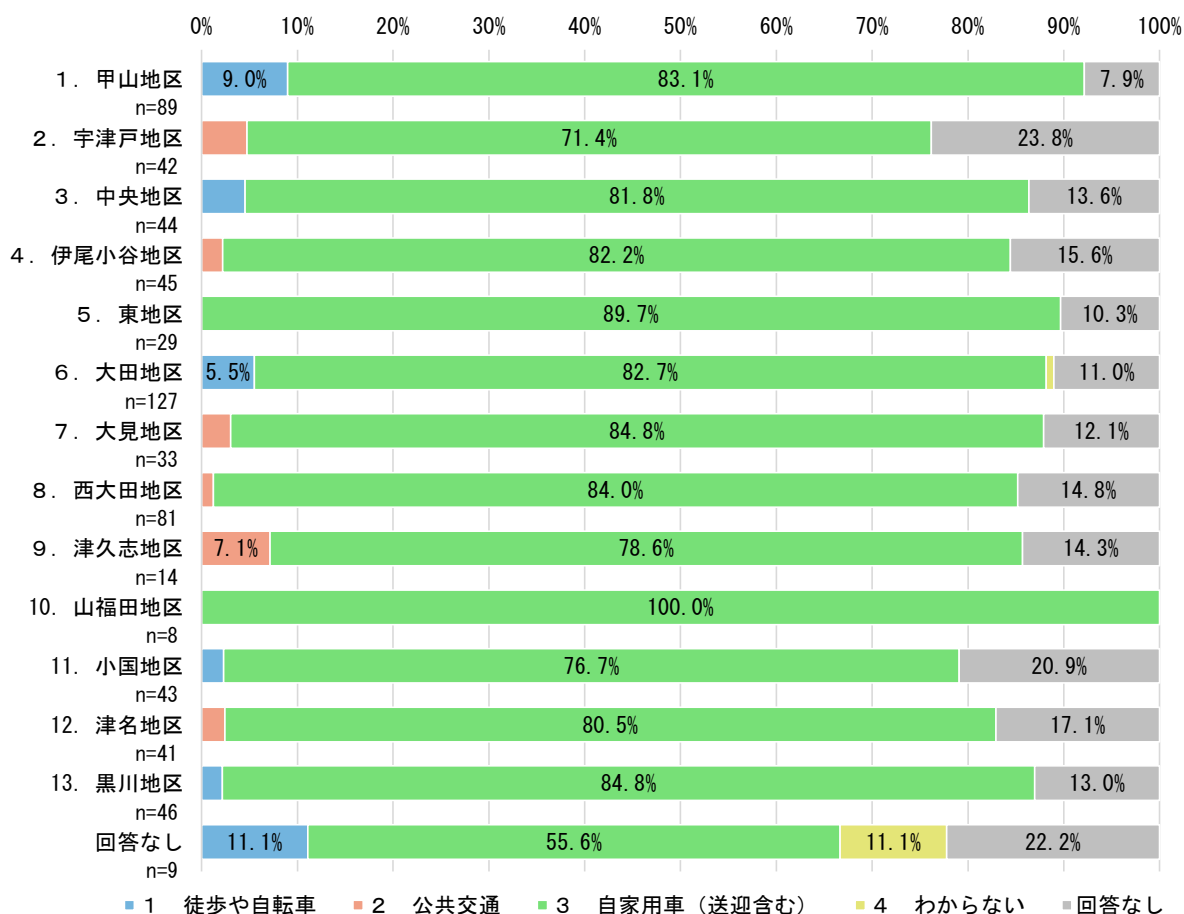


図 施設への主な移動手段

1. 食料品・日用品の店舗（スーパー、ドラッグストアなど）

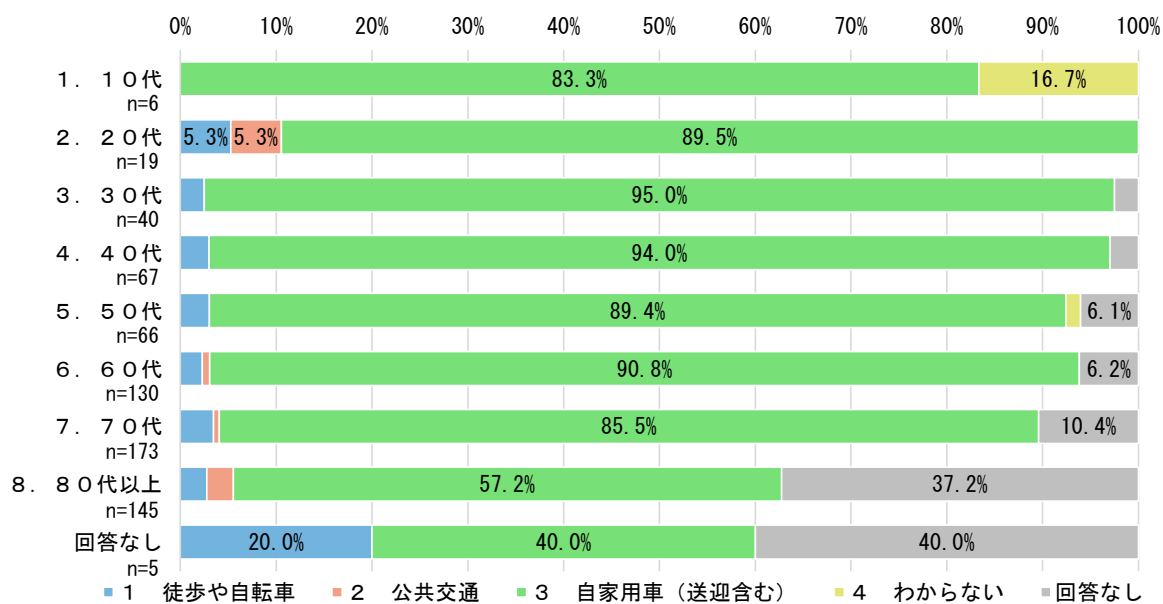
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 食料品・日用品の店舗への主な移動手段

【年代別】

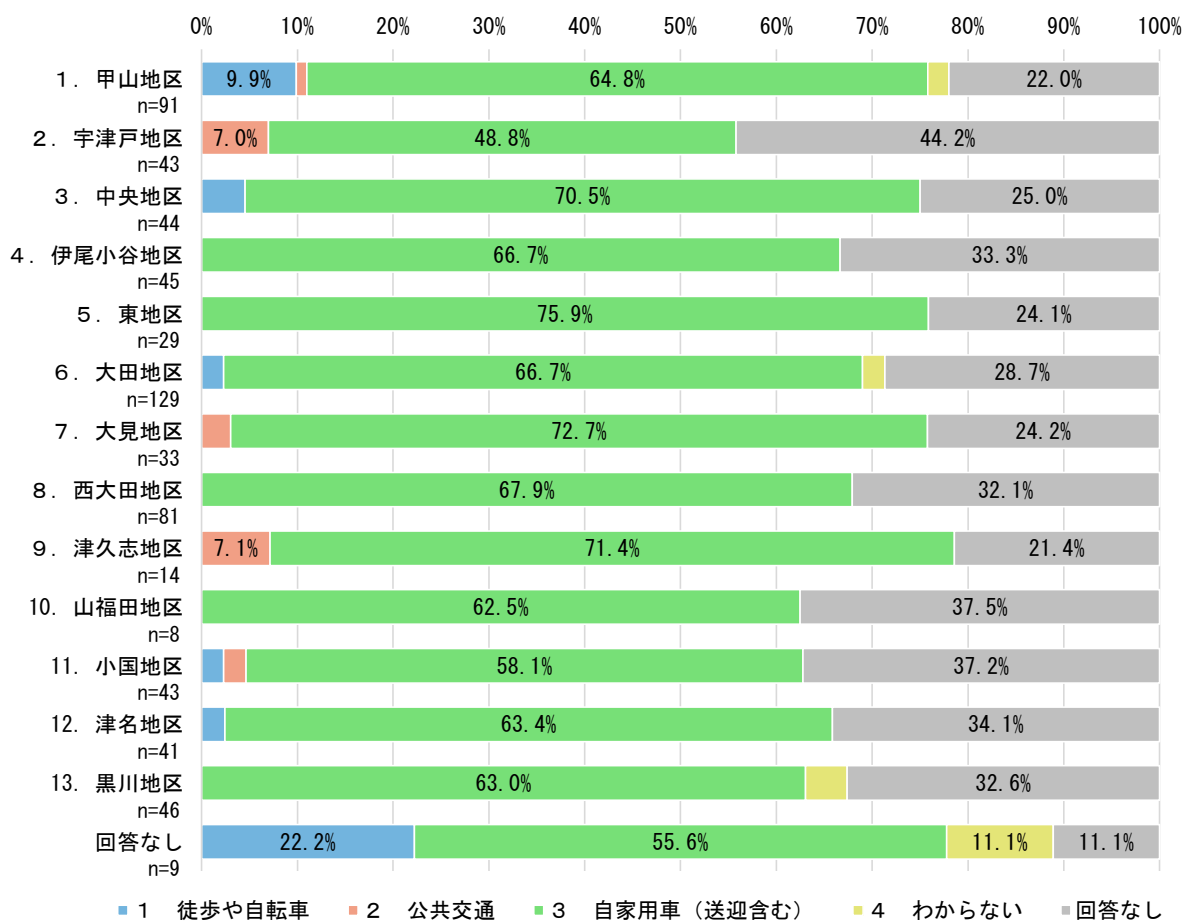


※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 食料品・日用品の店舗への主な移動手段

2. 衣料品の店舗

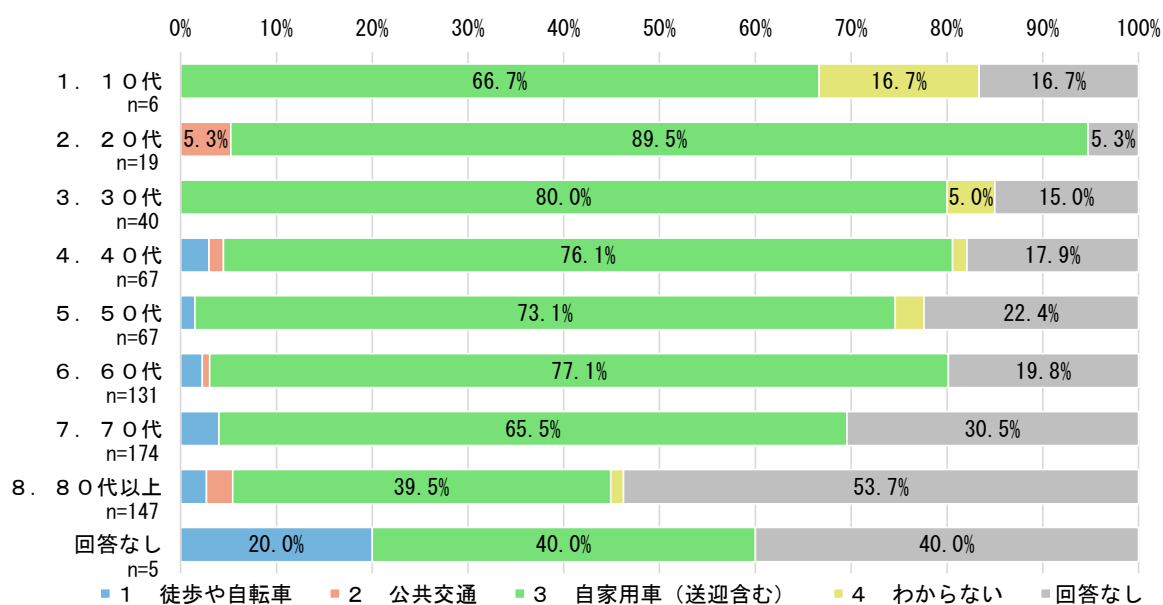
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 衣料品の店舗への主な移動手段

【年代別】

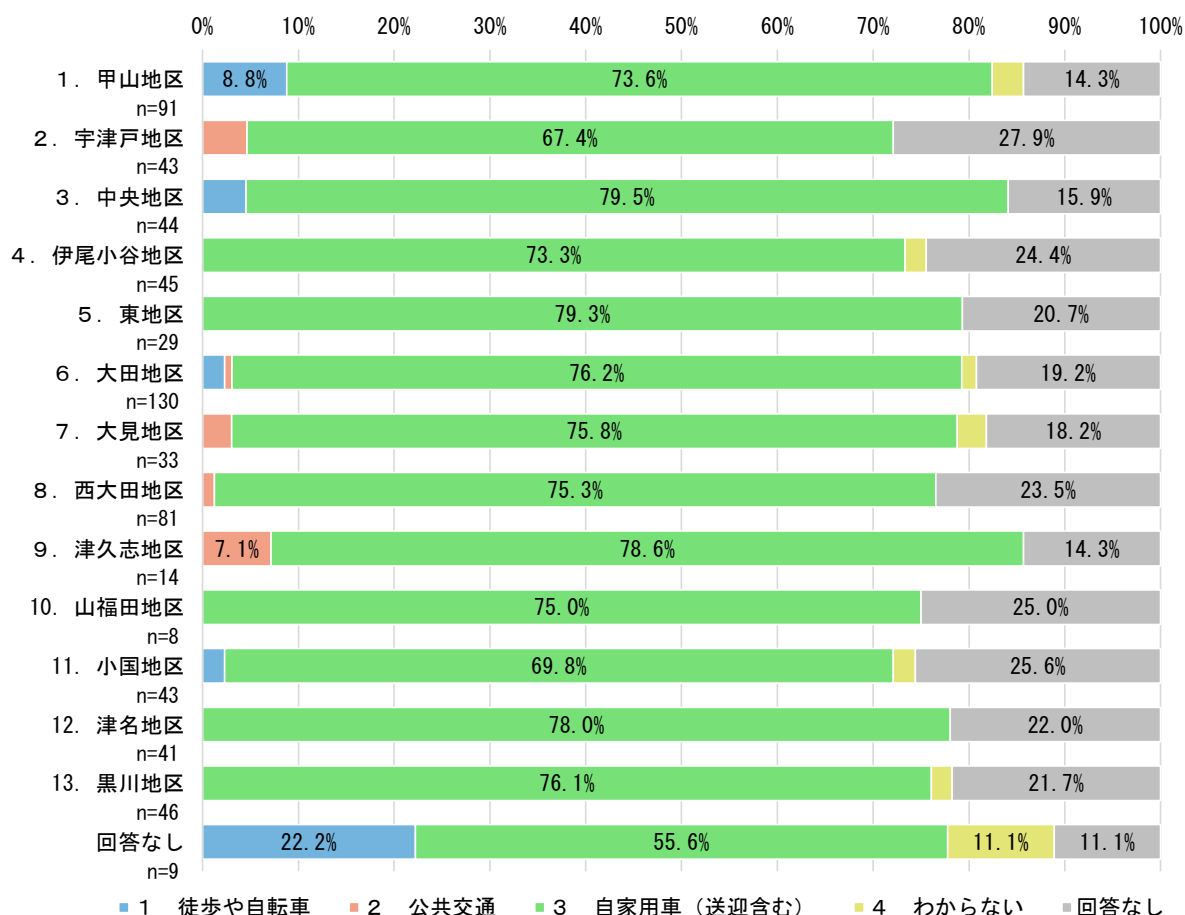


※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 衣料品の店舗への主な移動手段

3. ホームセンター

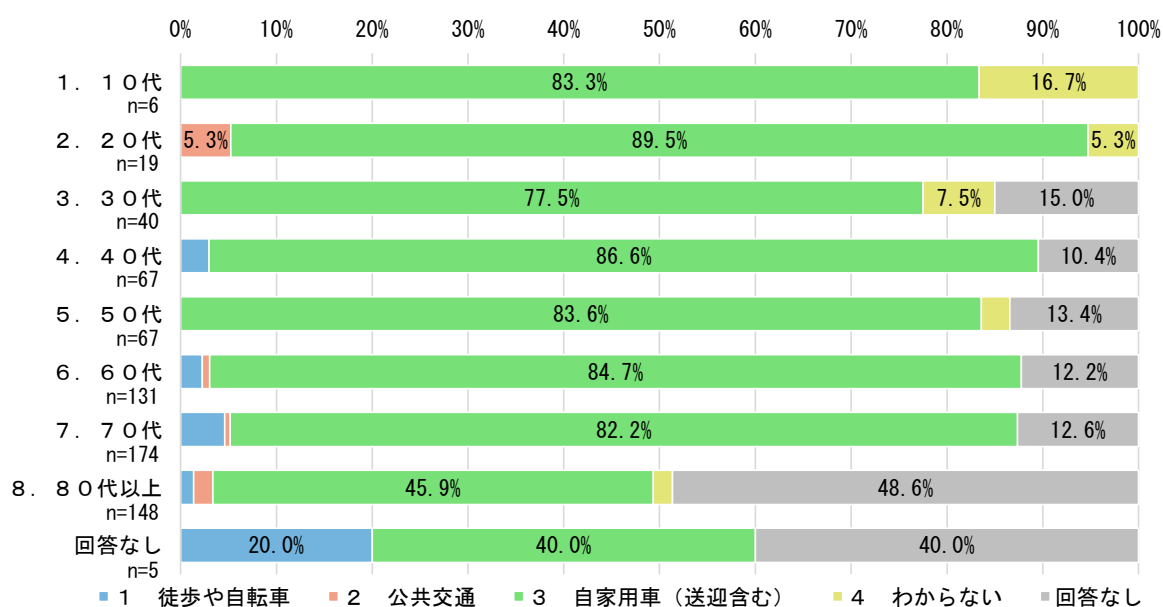
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 ホームセンターへの主な移動手段

【年代別】

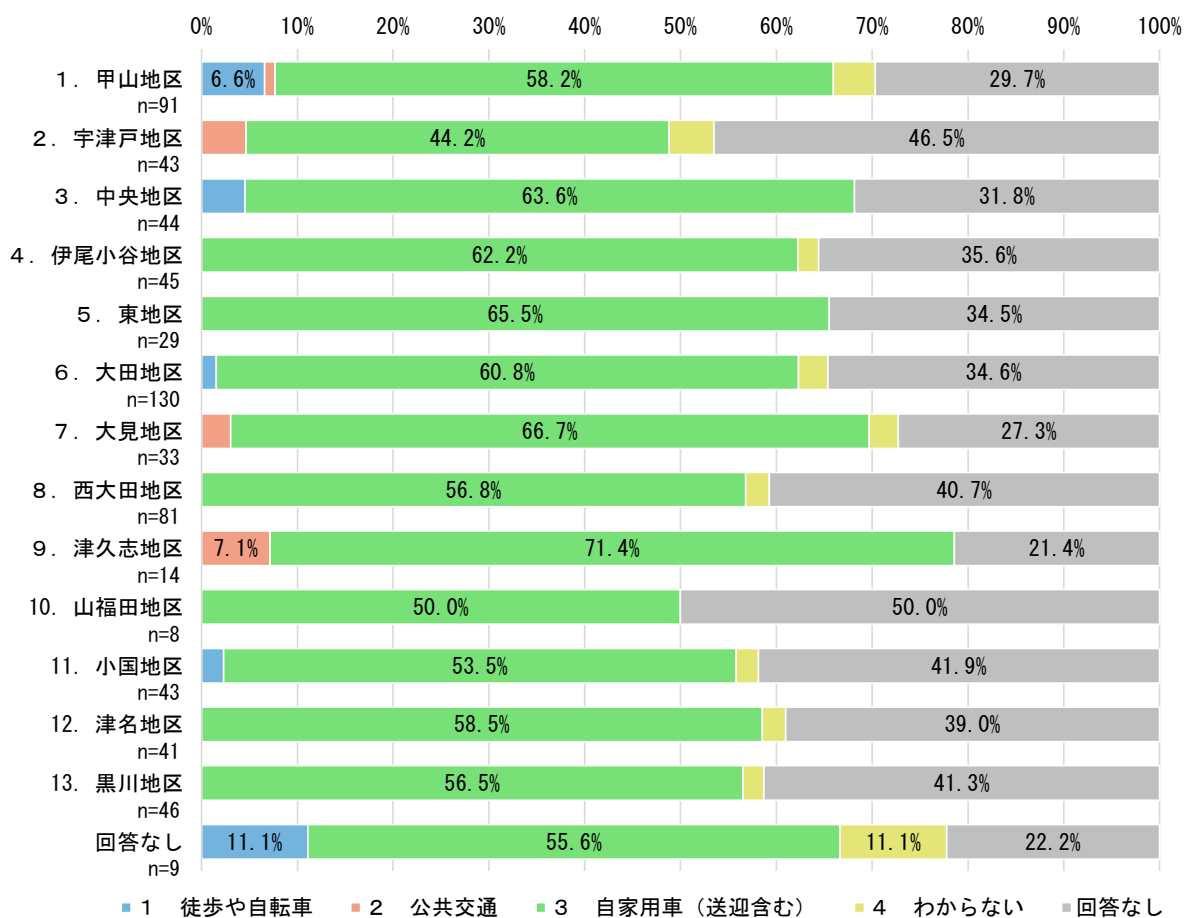


※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 ホームセンターへの主な移動手段

4. 家電用品店

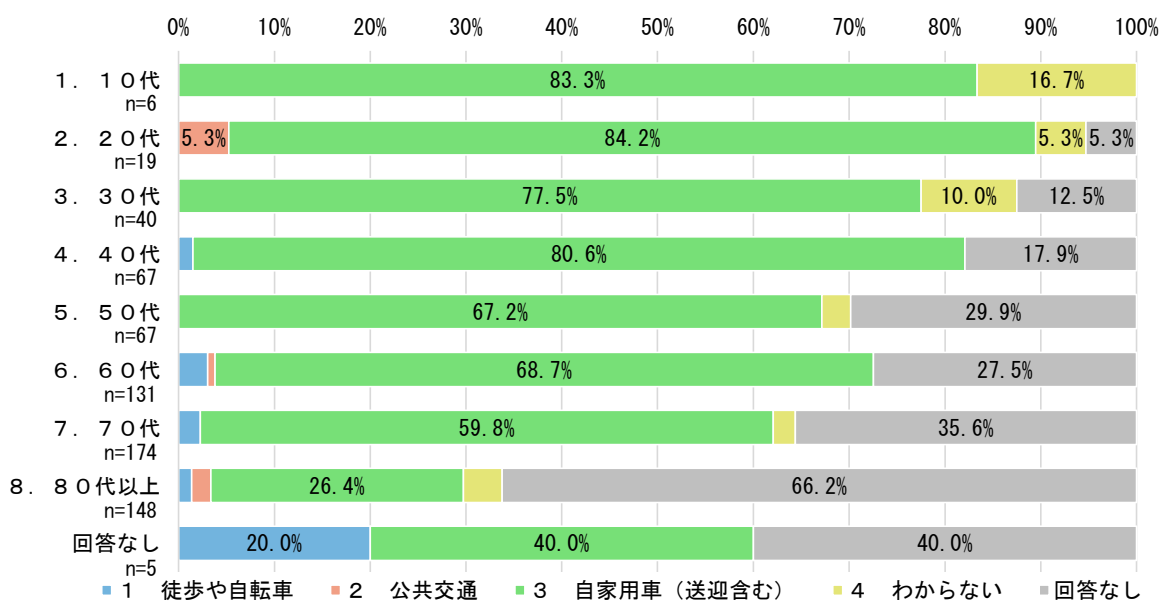
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 家電用品店への主な移動手段

【年代別】

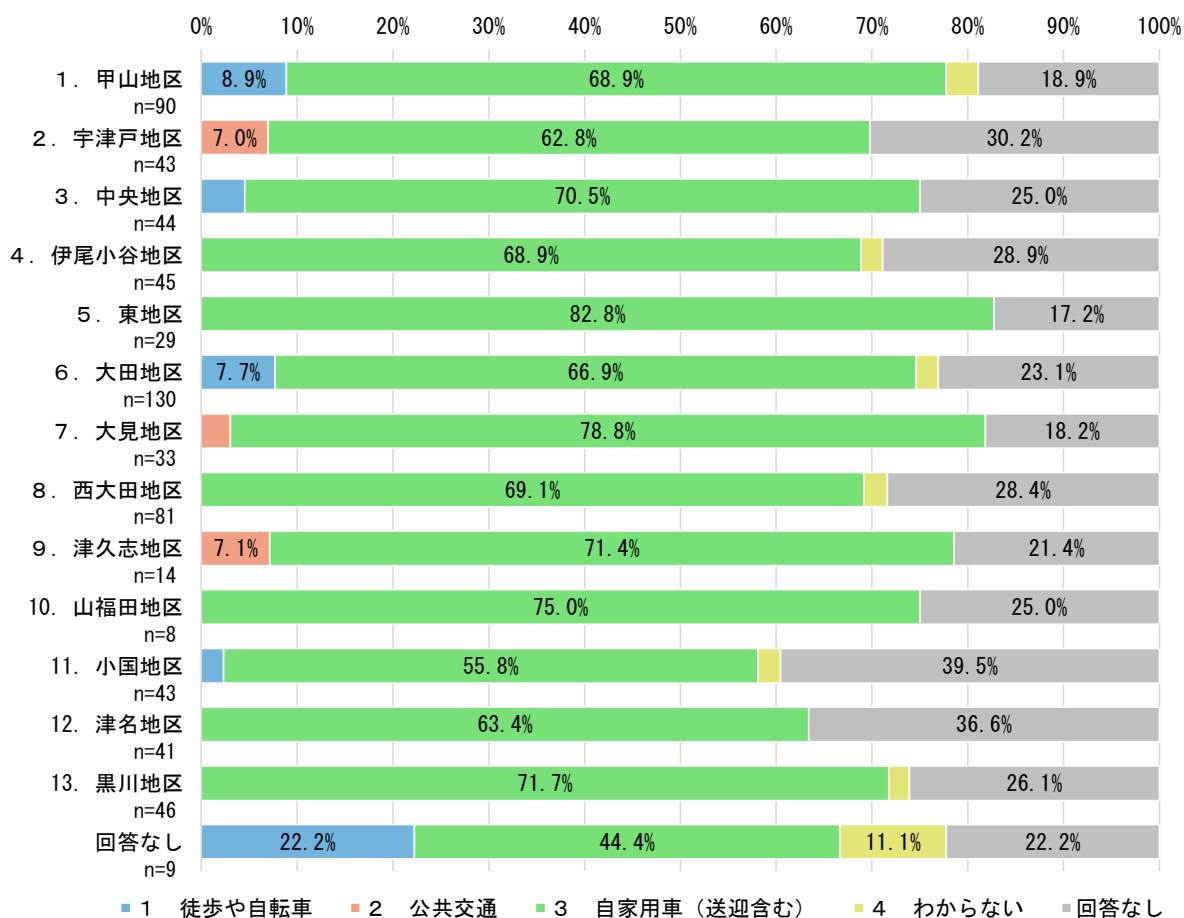


※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 家電用品店への主な移動手段

5. コンビニエンスストア

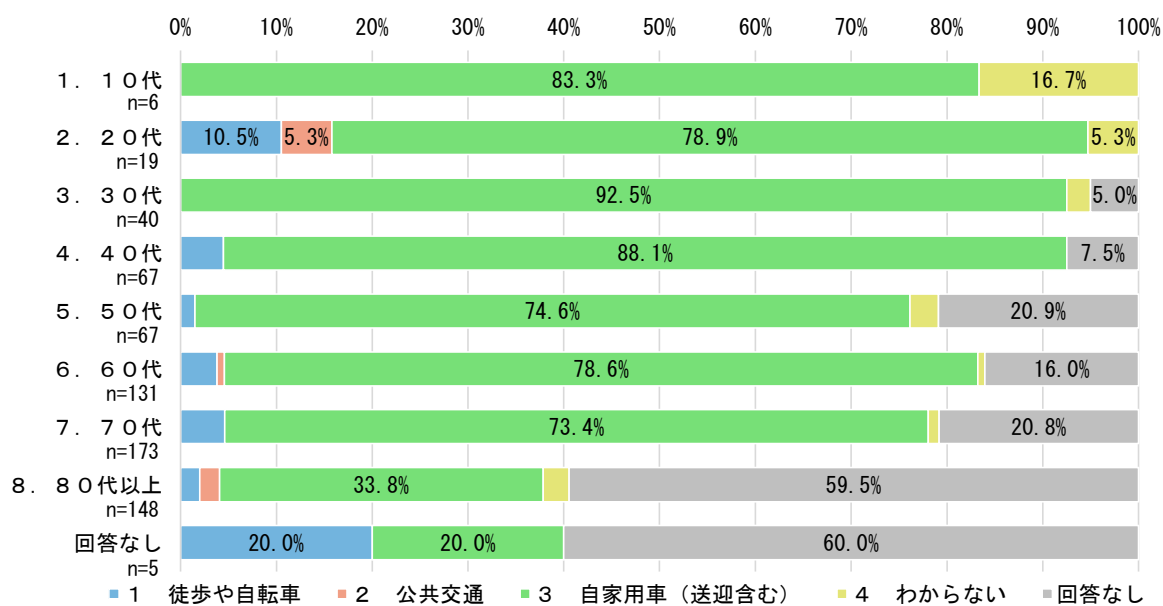
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 コンビニエンスストアへの主な移動手段

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 コンビニエンスストアへの主な移動手段

6. 食堂やレストランなどの飲食店

【地域別】

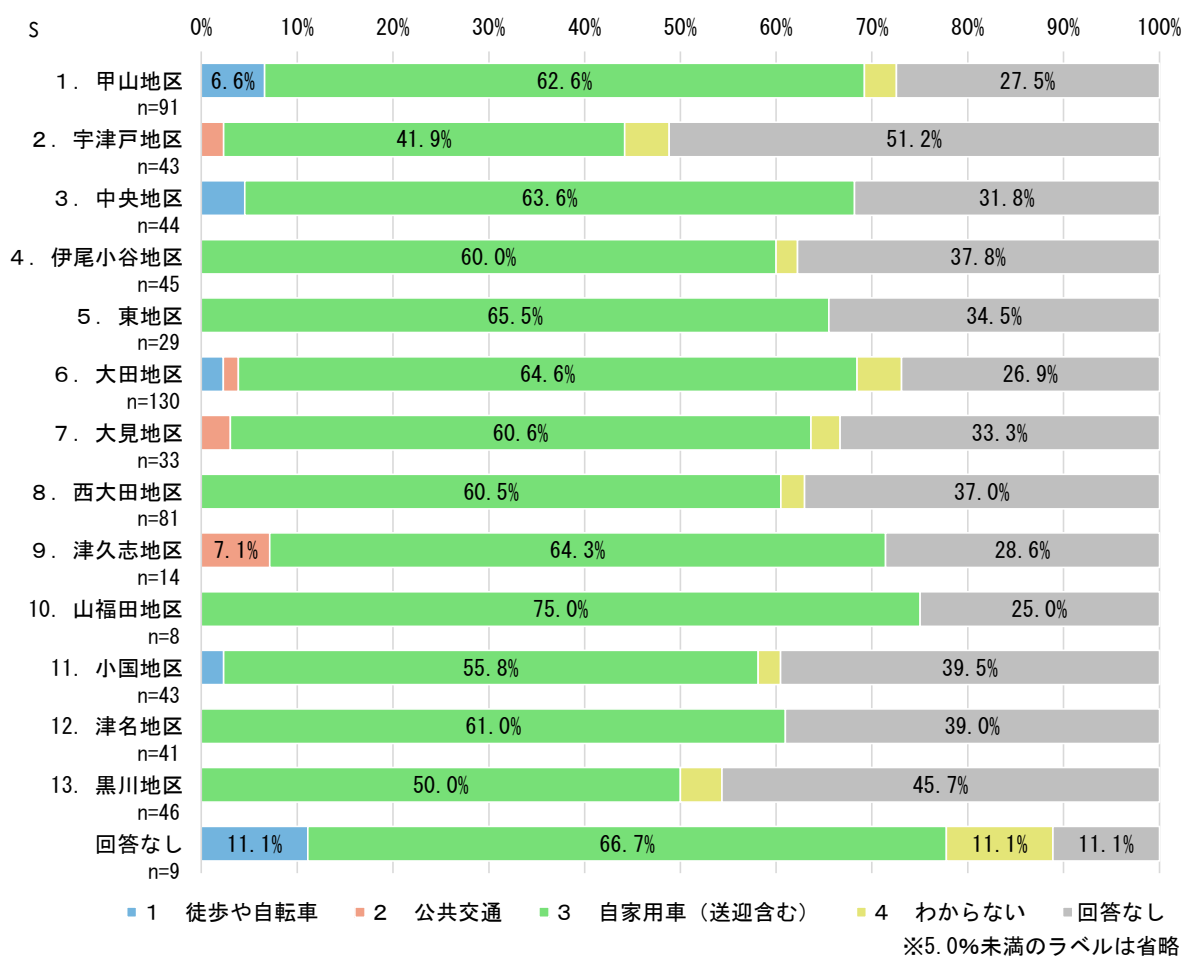


図 地域別 食堂やレストランなどの飲食店への主な移動手段

【年代別】

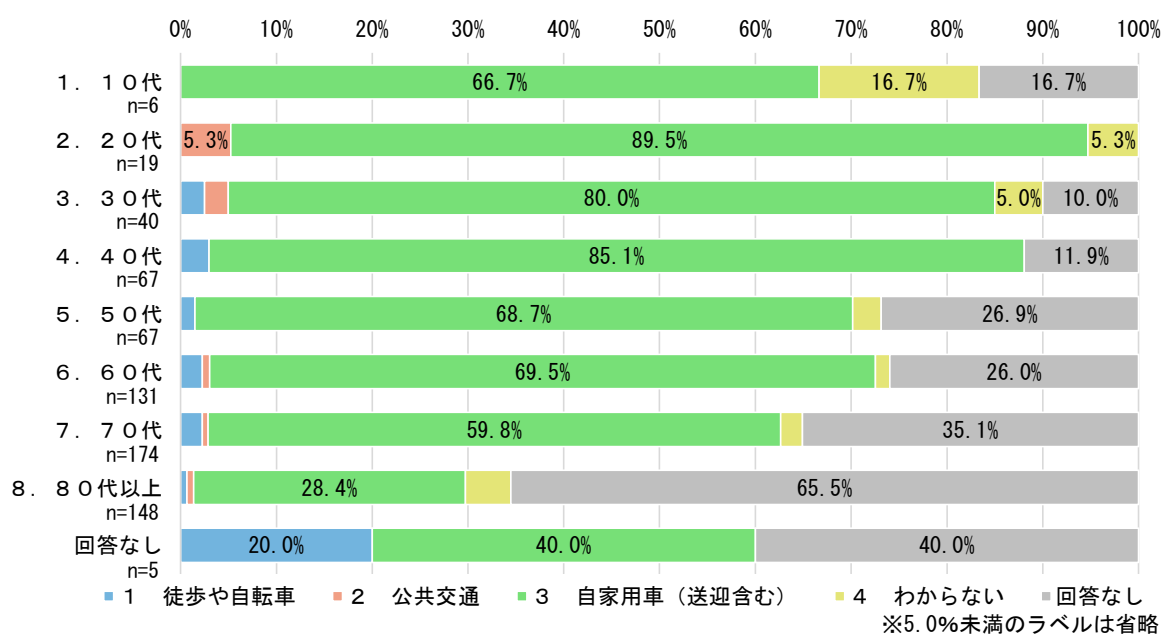
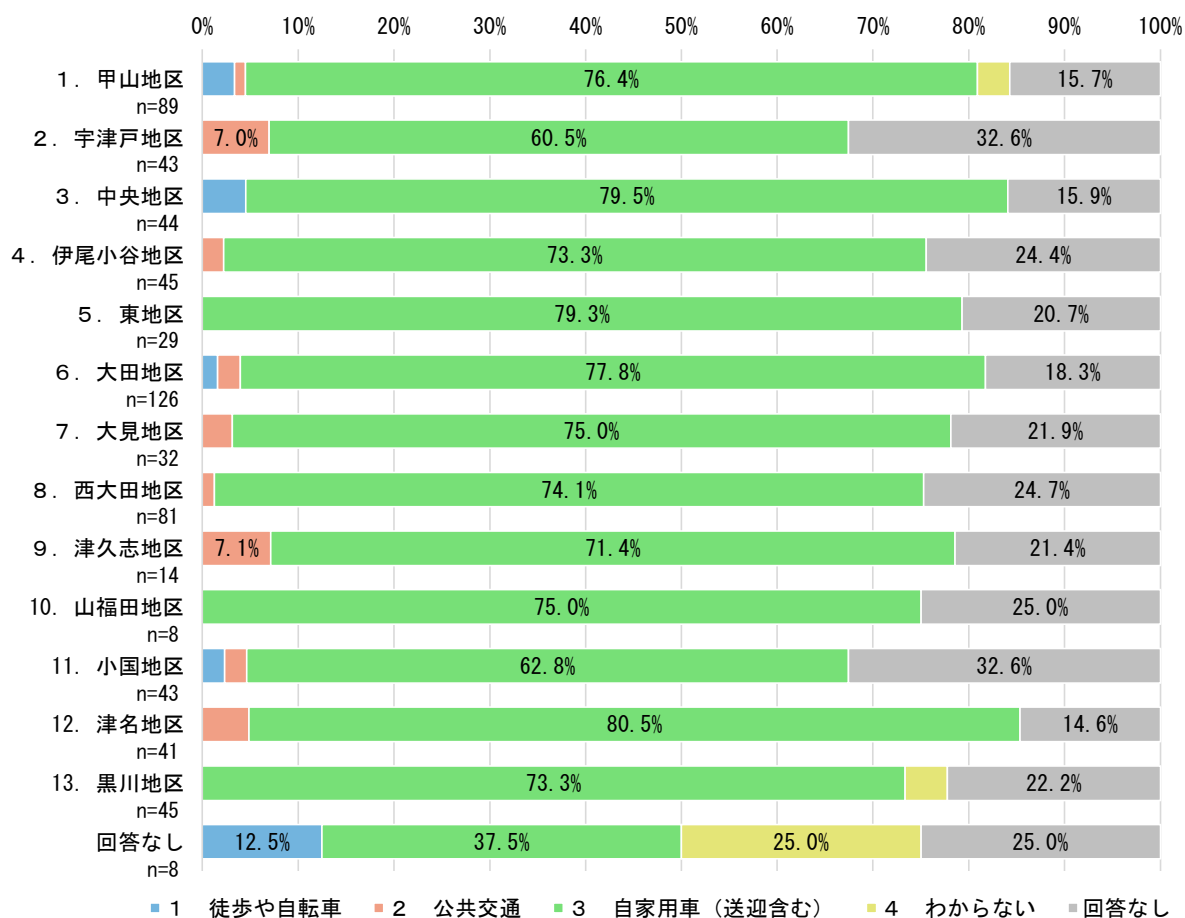


図 年代別 食堂やレストランなどの飲食店への主な移動手段

7. 病院、診療所（クリニック、医院など）

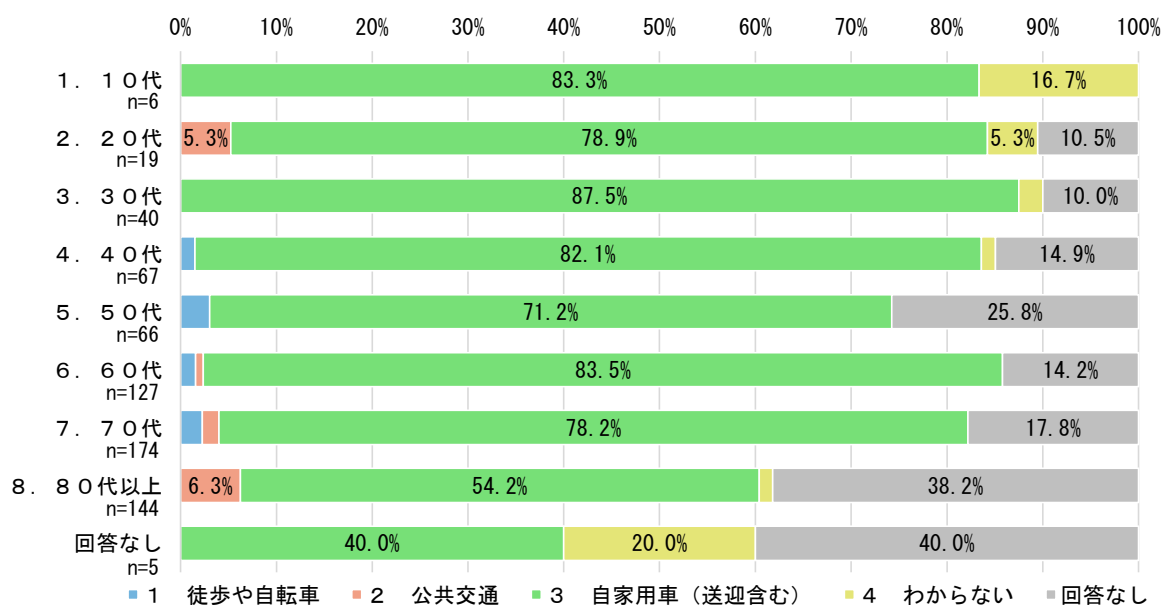
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 病院、診療所への主な移動手段

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 病院、診療所への主な移動手段

8. 調剤薬局

【地域別】

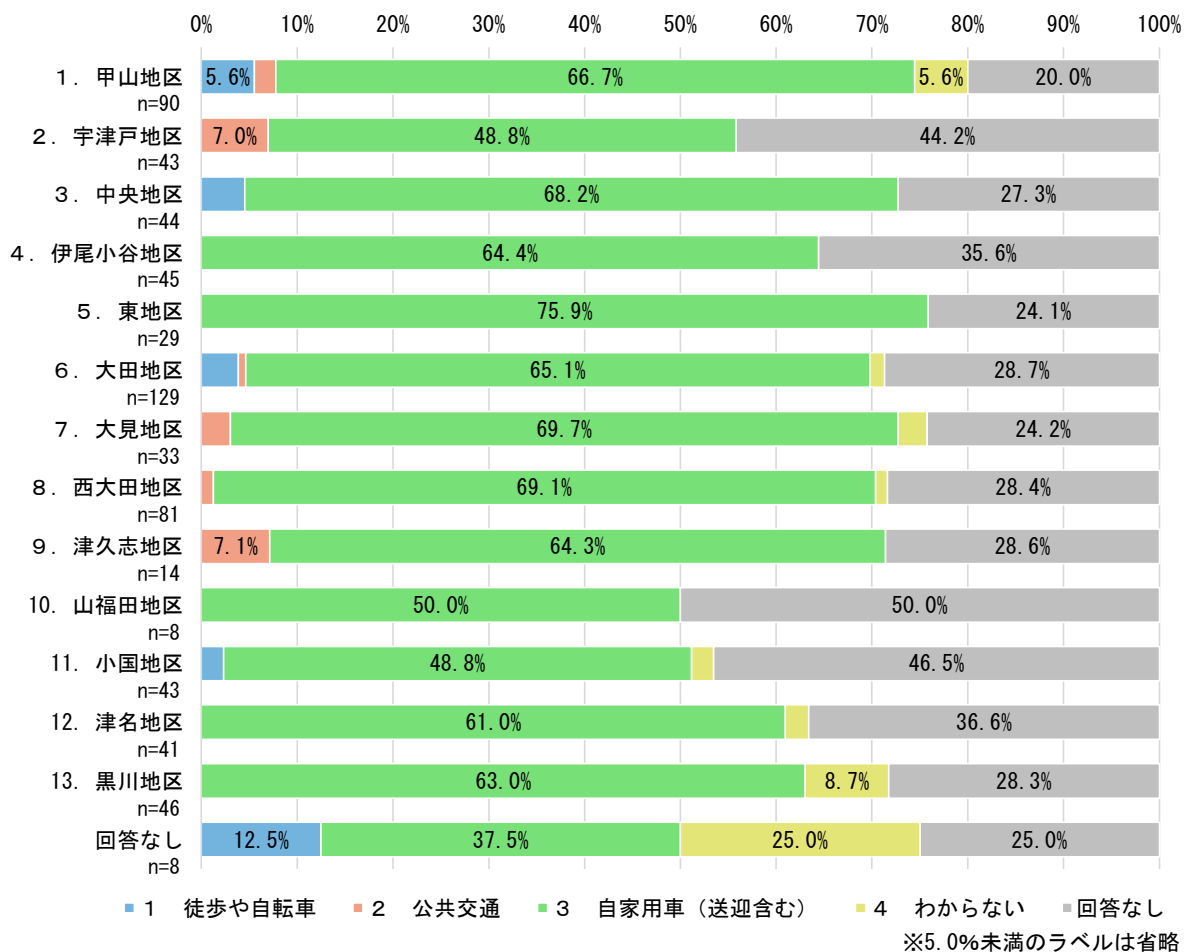


図 地域別 調剤薬局への主な移動手段

【年代別】

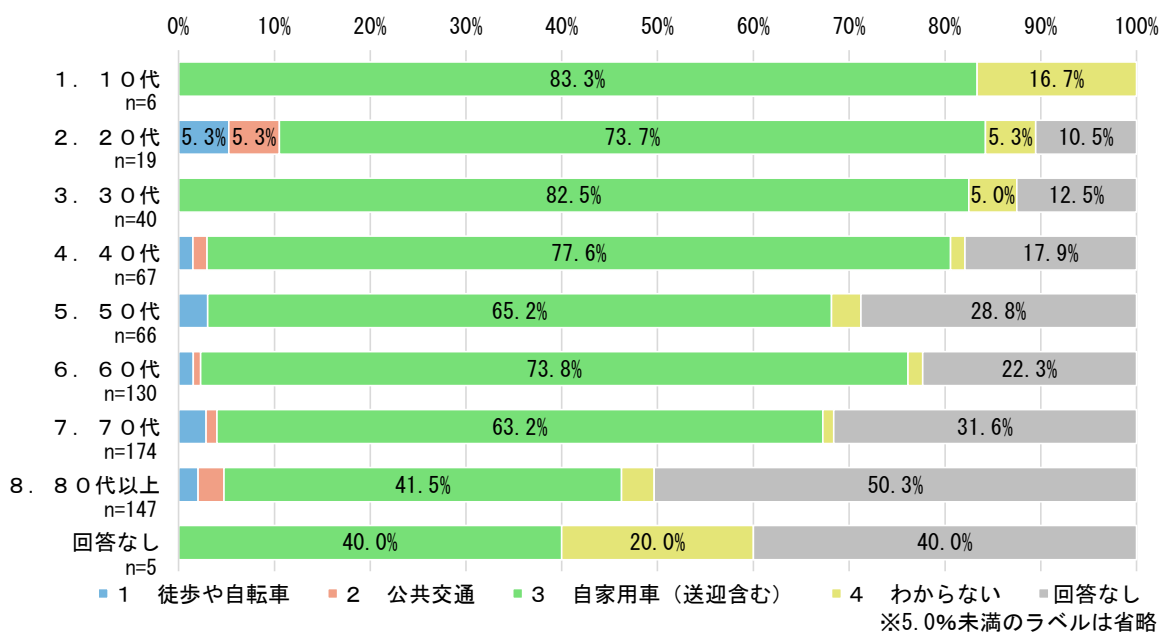


図 年代別 調剤薬局への主な移動手段

9. 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設

【地域別】

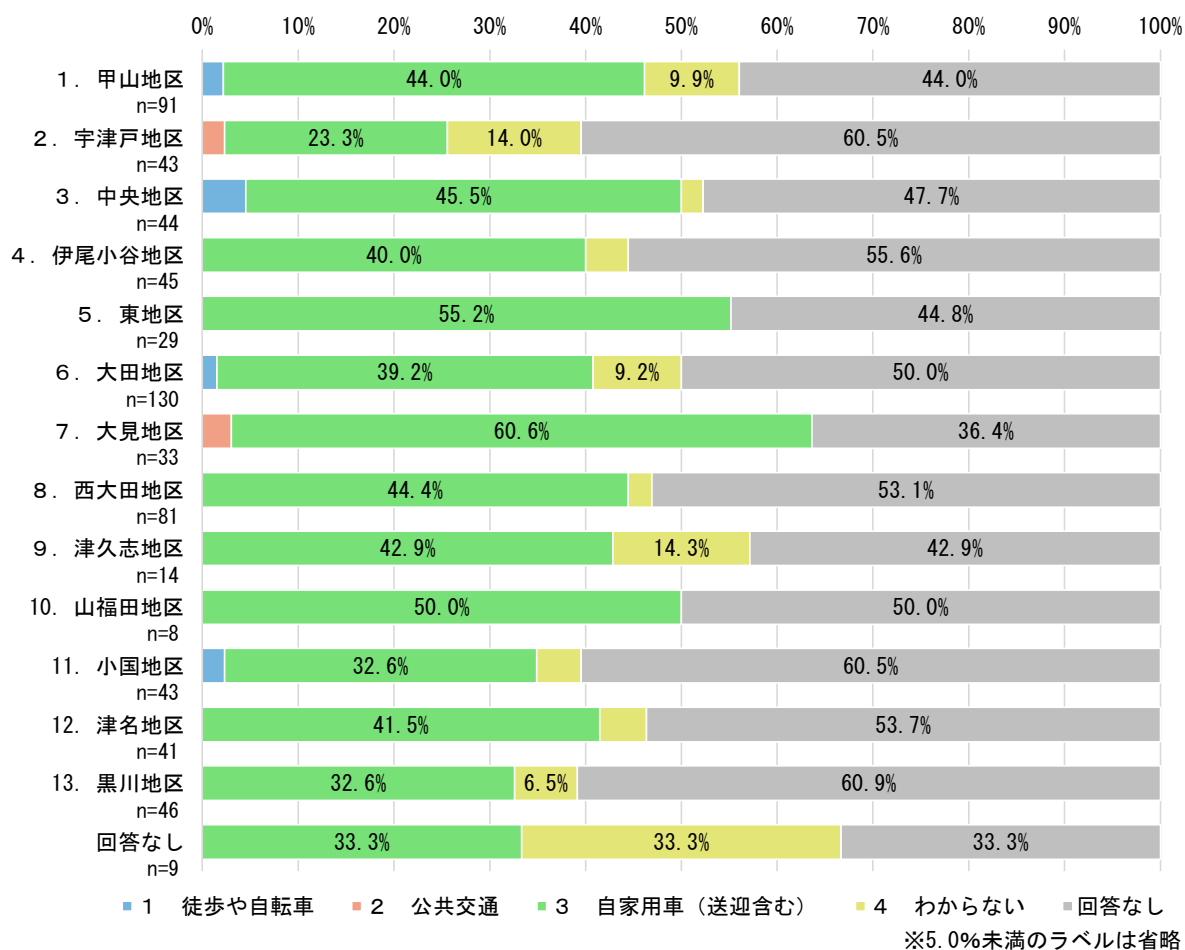


図 地域別 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設への主な移動手段

【年代別】

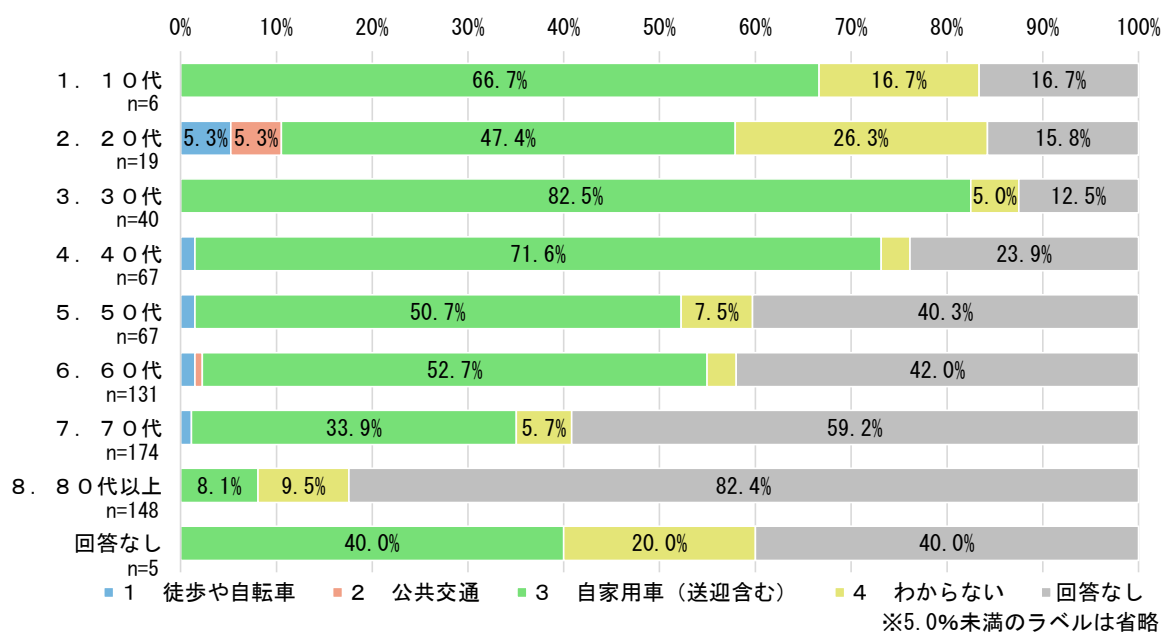
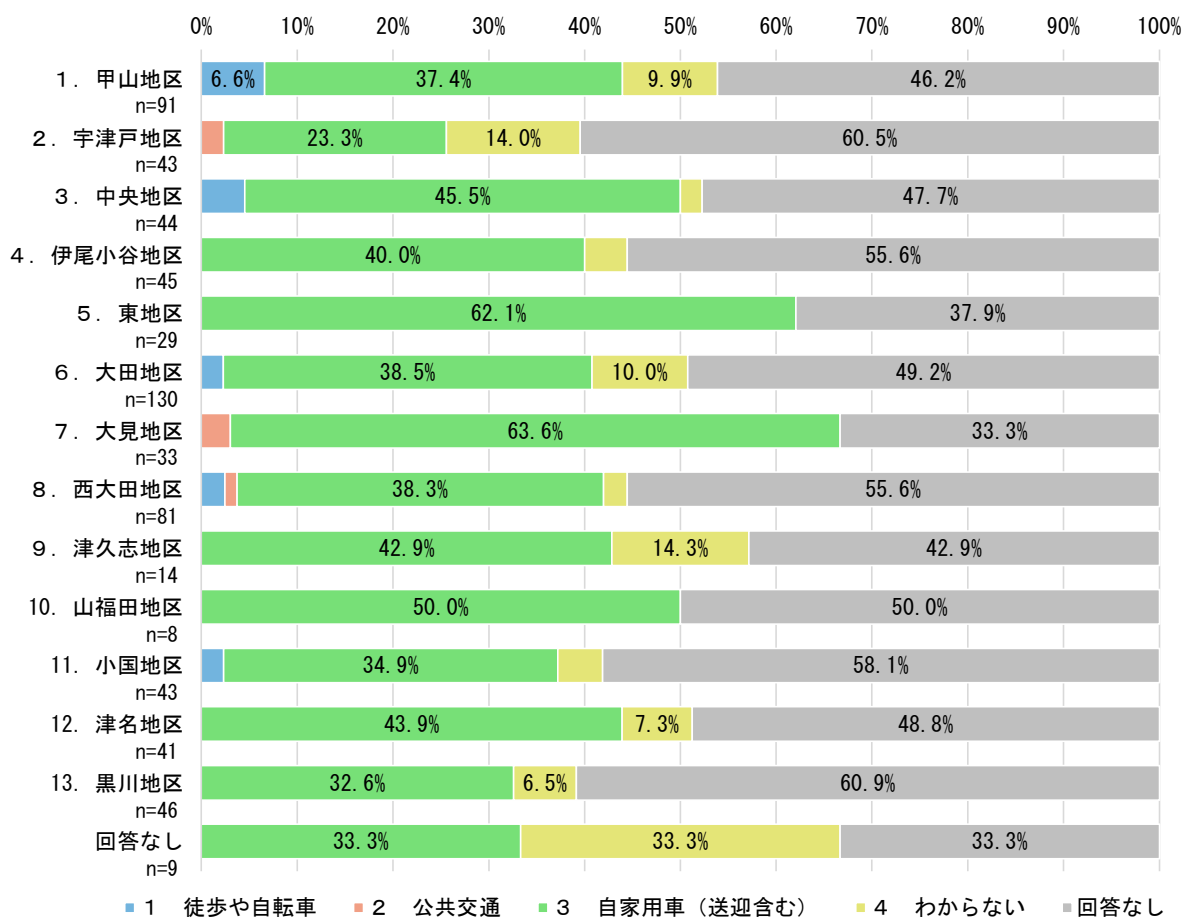


図 年代別 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設への主な移動手段

10. 学校などの教育施設

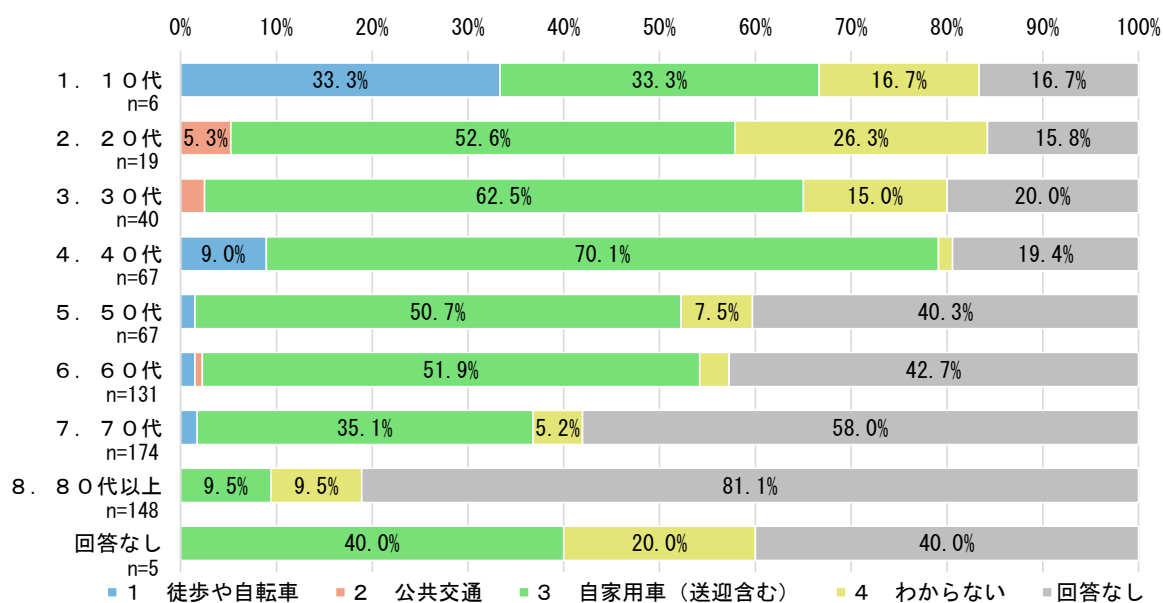
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 学校などの教育施設への主な移動手段

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 学校などの教育施設への主な移動手段

11. 福祉施設（高齢者福祉施設、障がい者福祉施設）

【地域別】

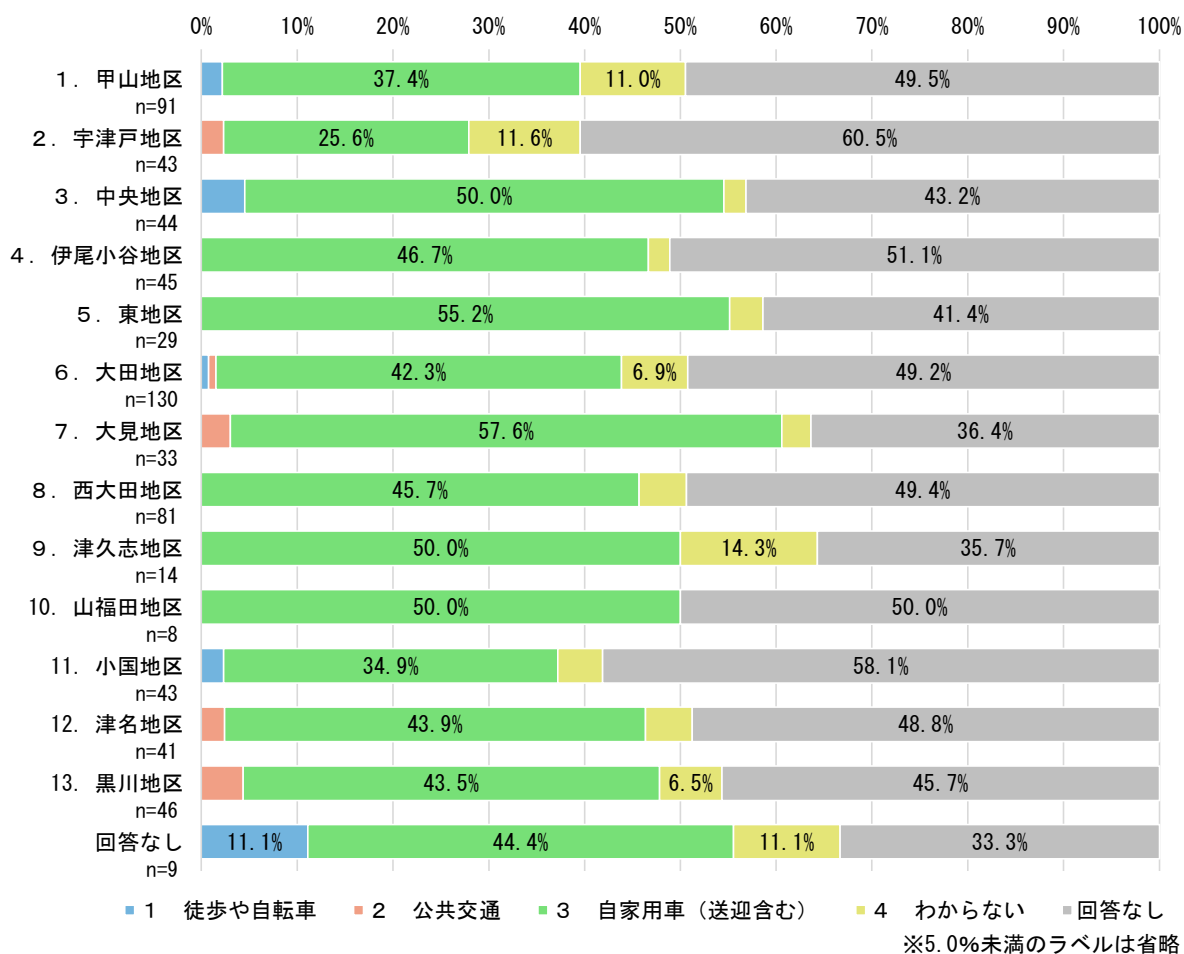


図 地域別 福祉施設への主な移動手段

【年代別】

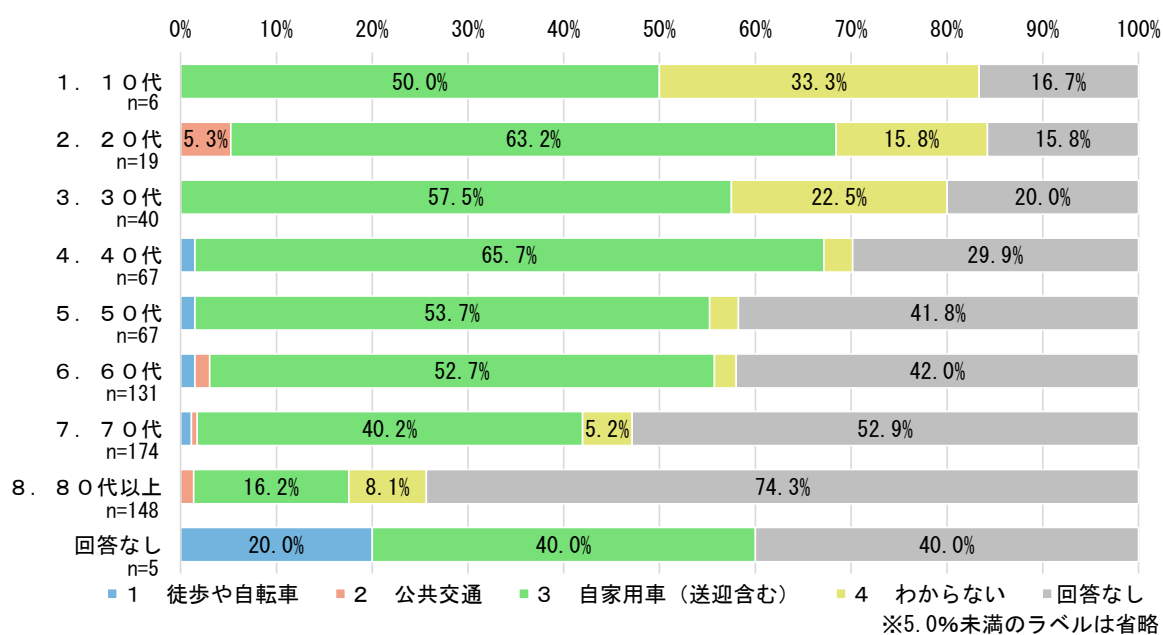
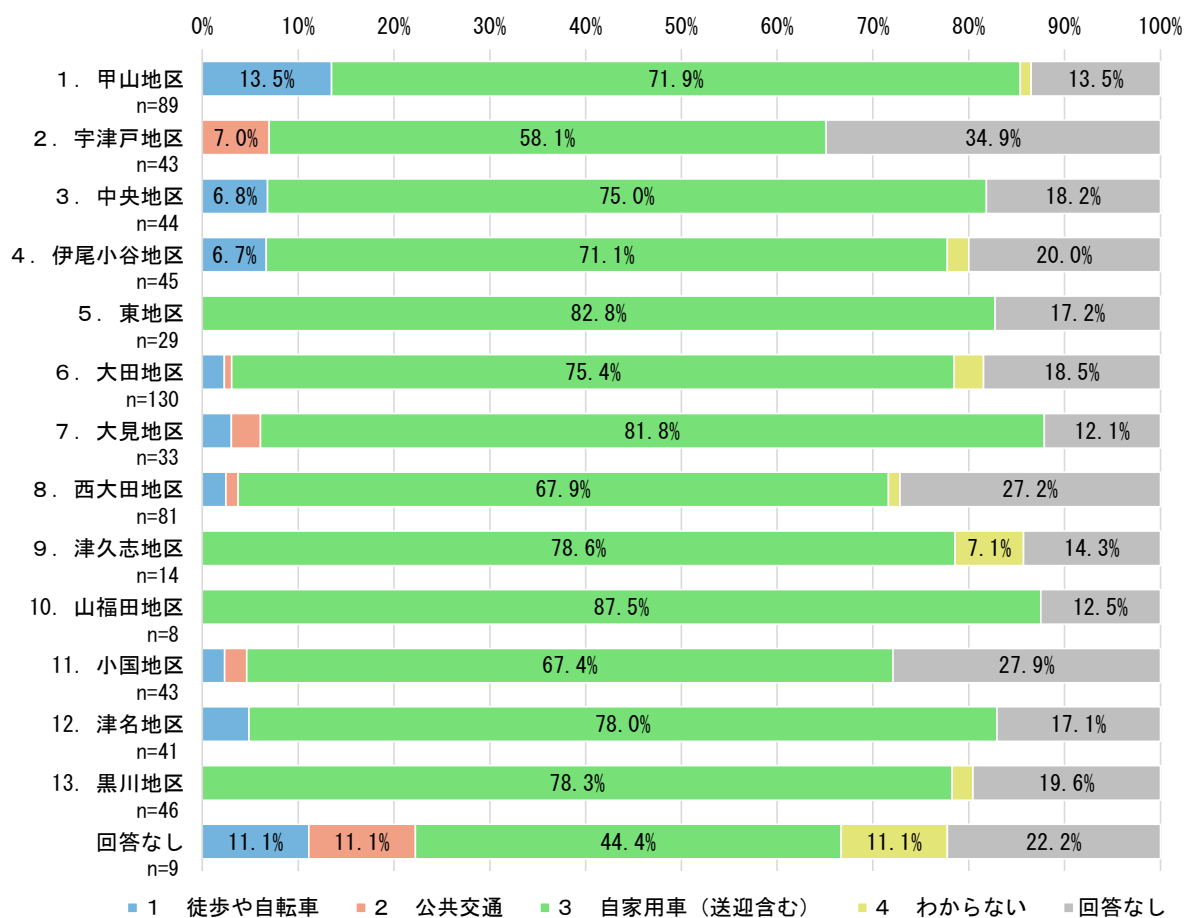


図 年代別 福祉施設への主な移動手段

12. 銀行や郵便局などの金融機関

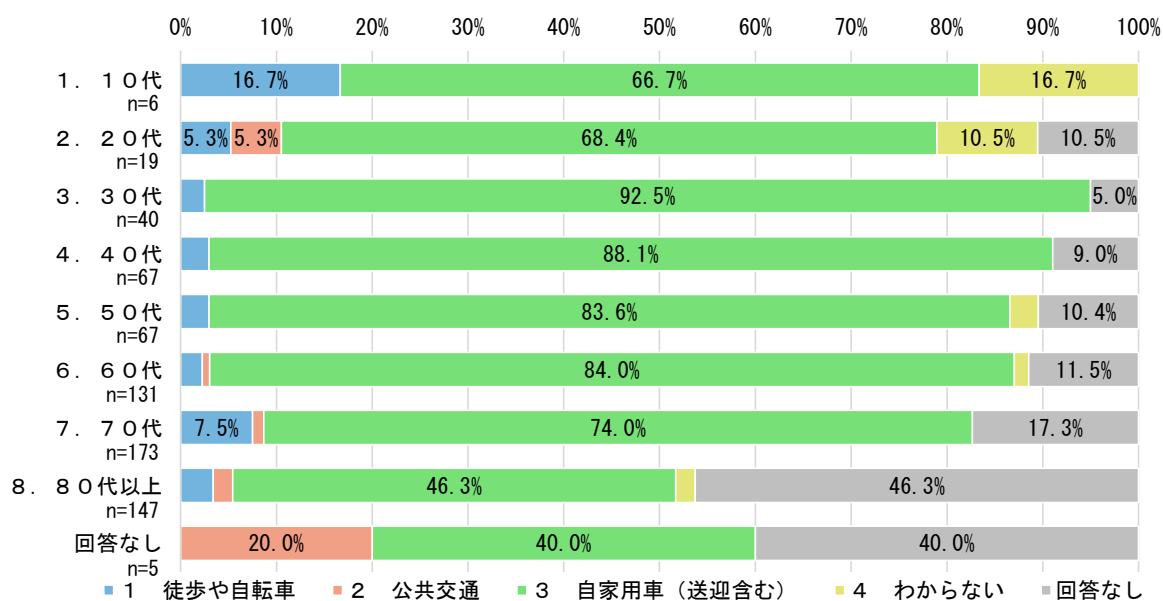
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 銀行や郵便局などの金融機関への主な移動手段

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 銀行や郵便局などの金融機関への主な移動手段

13. 図書館・文化ホールなどの文化施設

【地域別】

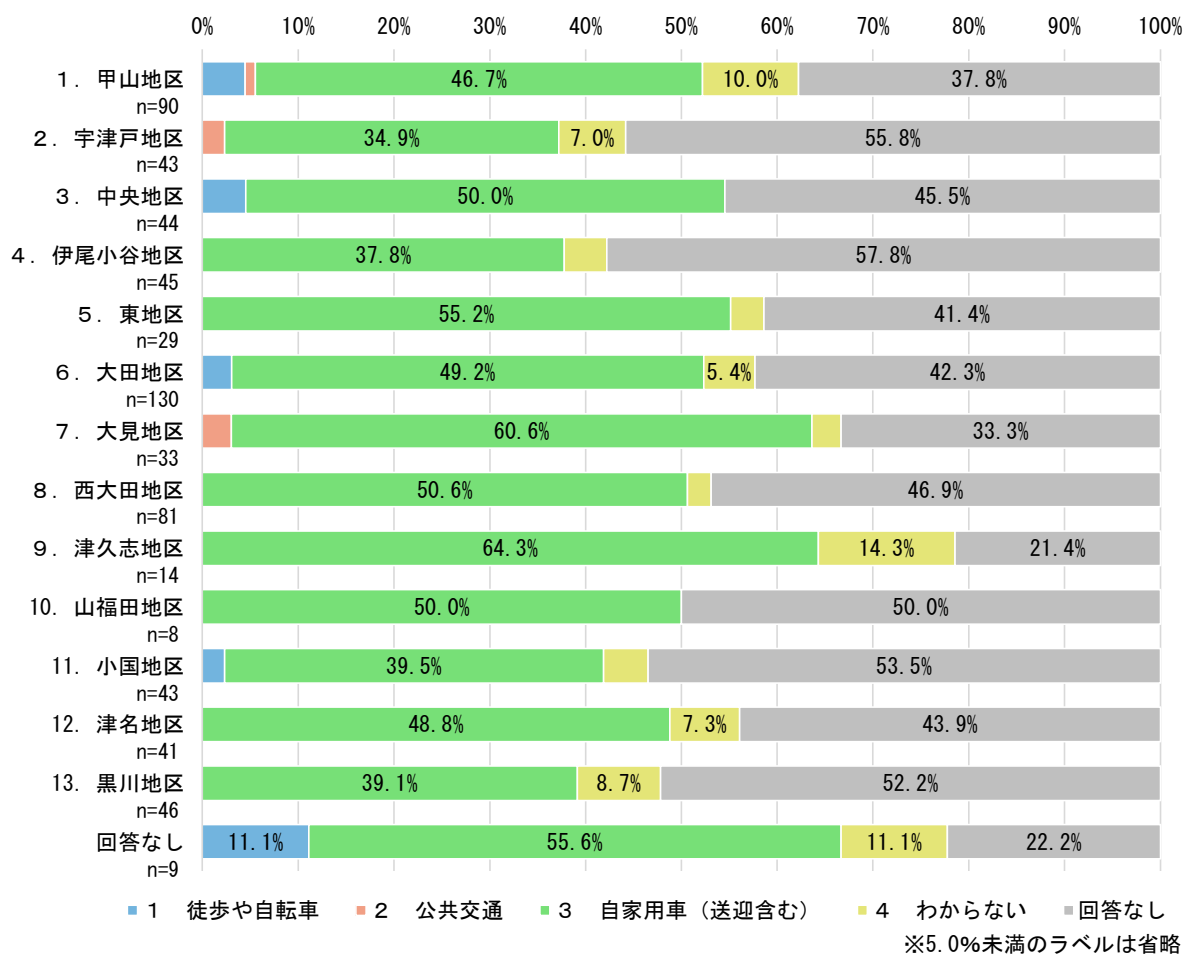


図 地域別 図書館・文化ホールなどの文化施設への主な移動手段

【年代別】

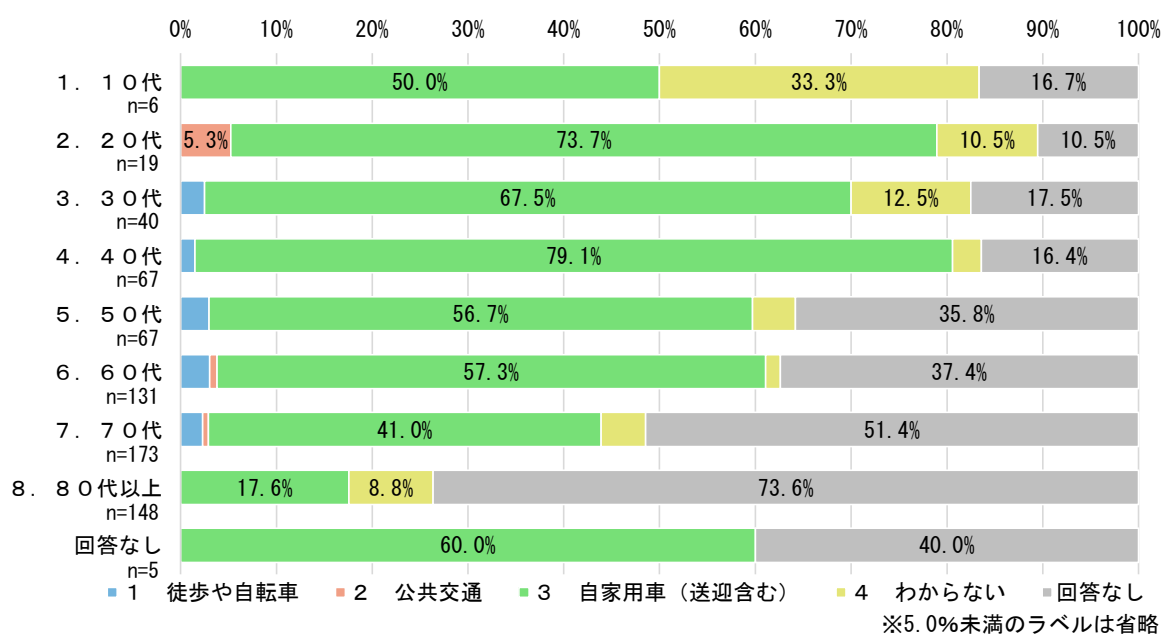


図 年代別 図書館・文化ホールなどの文化施設への主な移動手段

14. 行政窓口

【地域別】

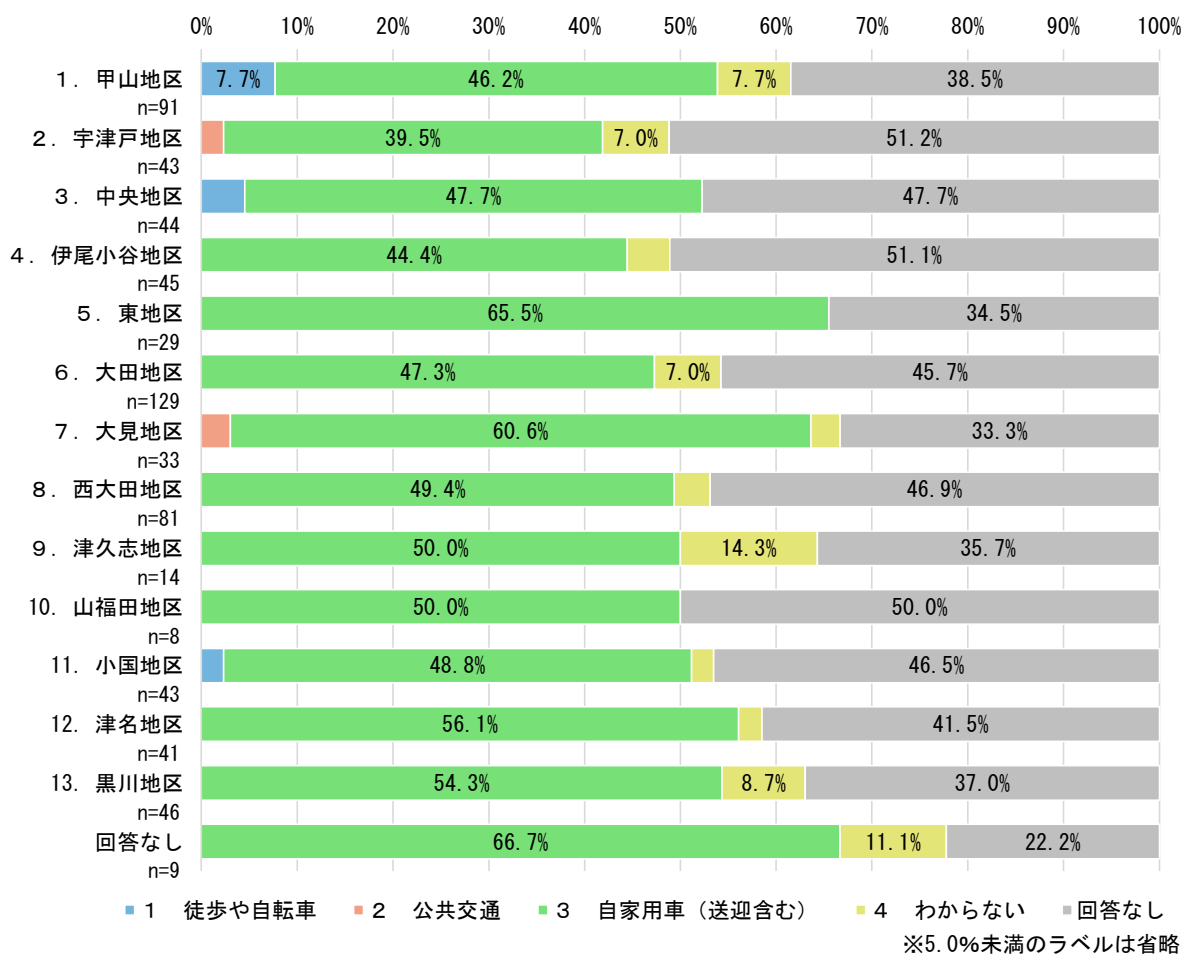


図 地域別 行政窓口への主な移動手段

【年代別】

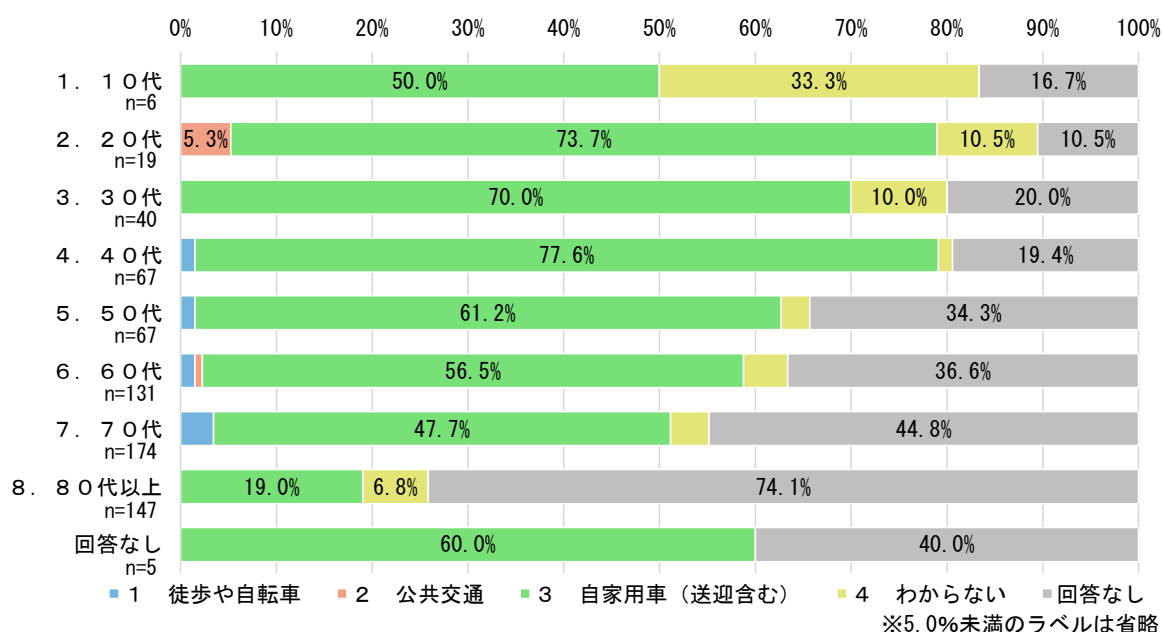
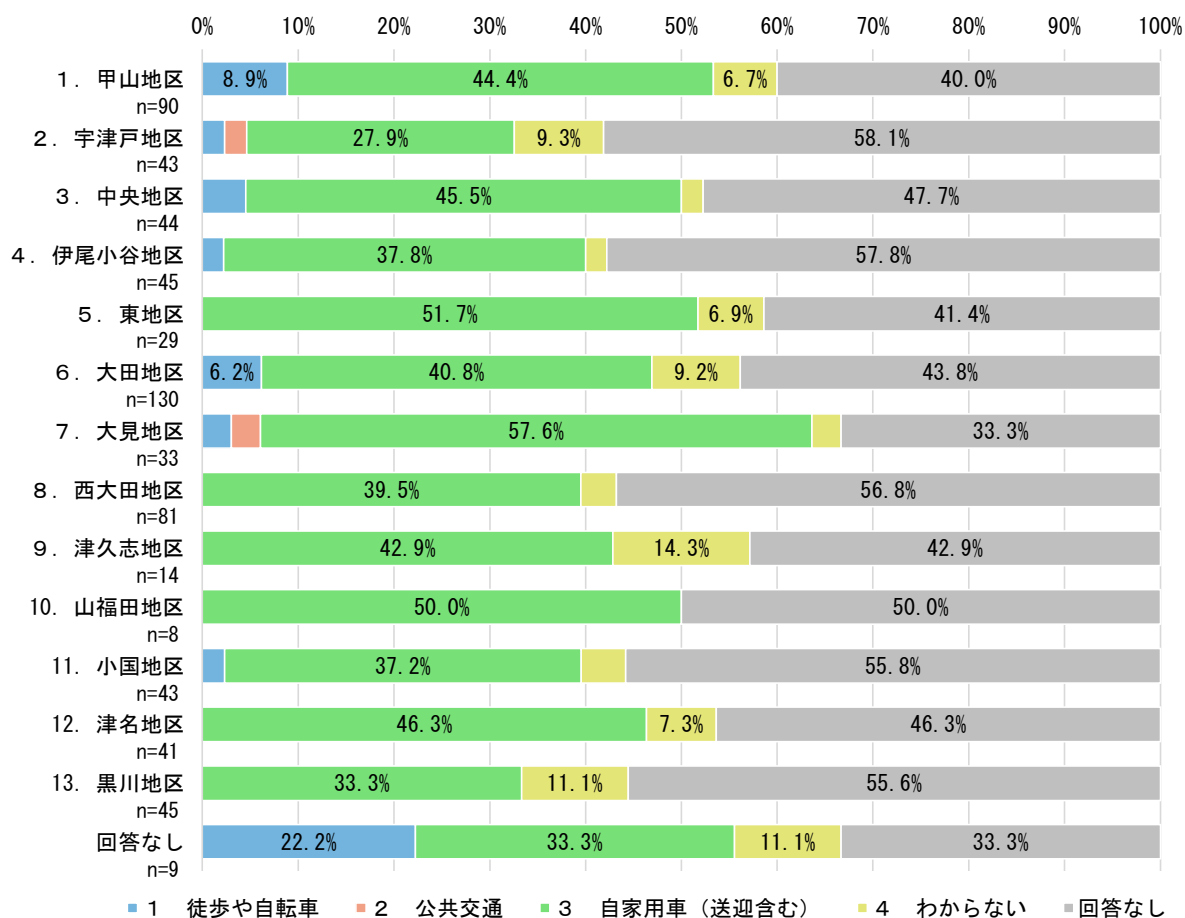


図 年代別 行政窓口への主な移動手段

15. 身近に利用できる公園や広場

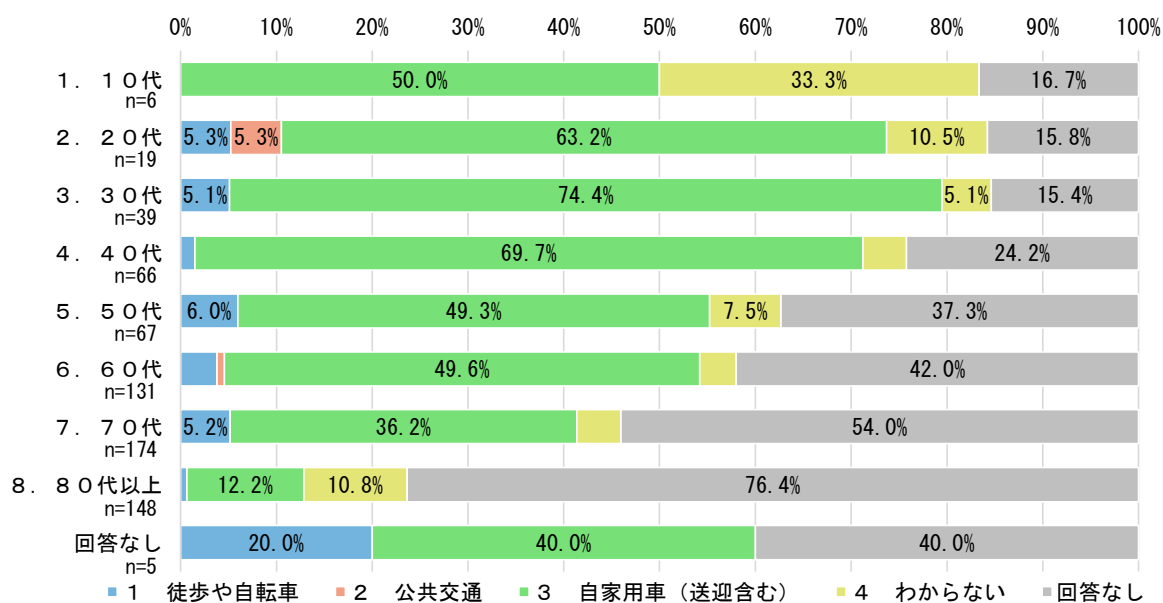
【地域別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 身近に利用できる公園や広場への主な移動手段

【年代別】



※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 身近に利用できる公園や広場への主な移動手段

**問5-2 つぎの施設について、現在特に不便で困っている施設があれば教えてください。
(3つまで)**

回答者全体の約2割が、特に不便で困っている施設があると回答しています。

特に不便で困っている施設があると回答した人のうち、食料品・日用品の店舗と回答した人は4割以上で最も多く挙げられ、次いで衣料品の店舗が3割台半ば、病院、診療所が3割強の順となっています。

特に不便で困っている施設があると回答した人が多い地域をみると、甲山地区では、身近に利用できる公園や広場や衣料品の店舗、大田地区では衣料品の店舗が多く挙げられています。同様に年代別にみると、10代や80代では食料品・日用品の店舗と回答した人は3割以上で最も多く、50代では衣料品の店舗と回答した人が3割以上で最も多く挙げられています。

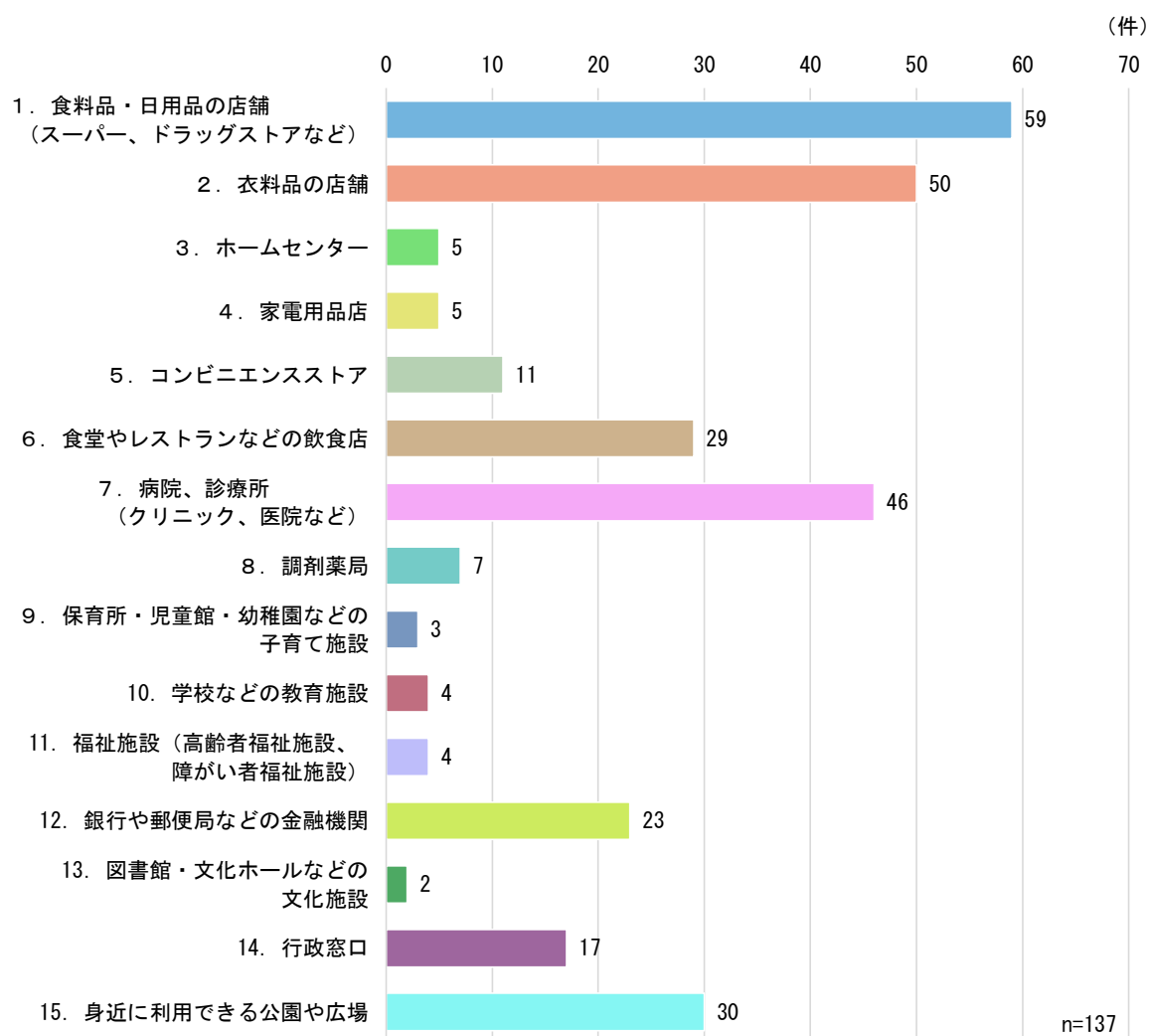
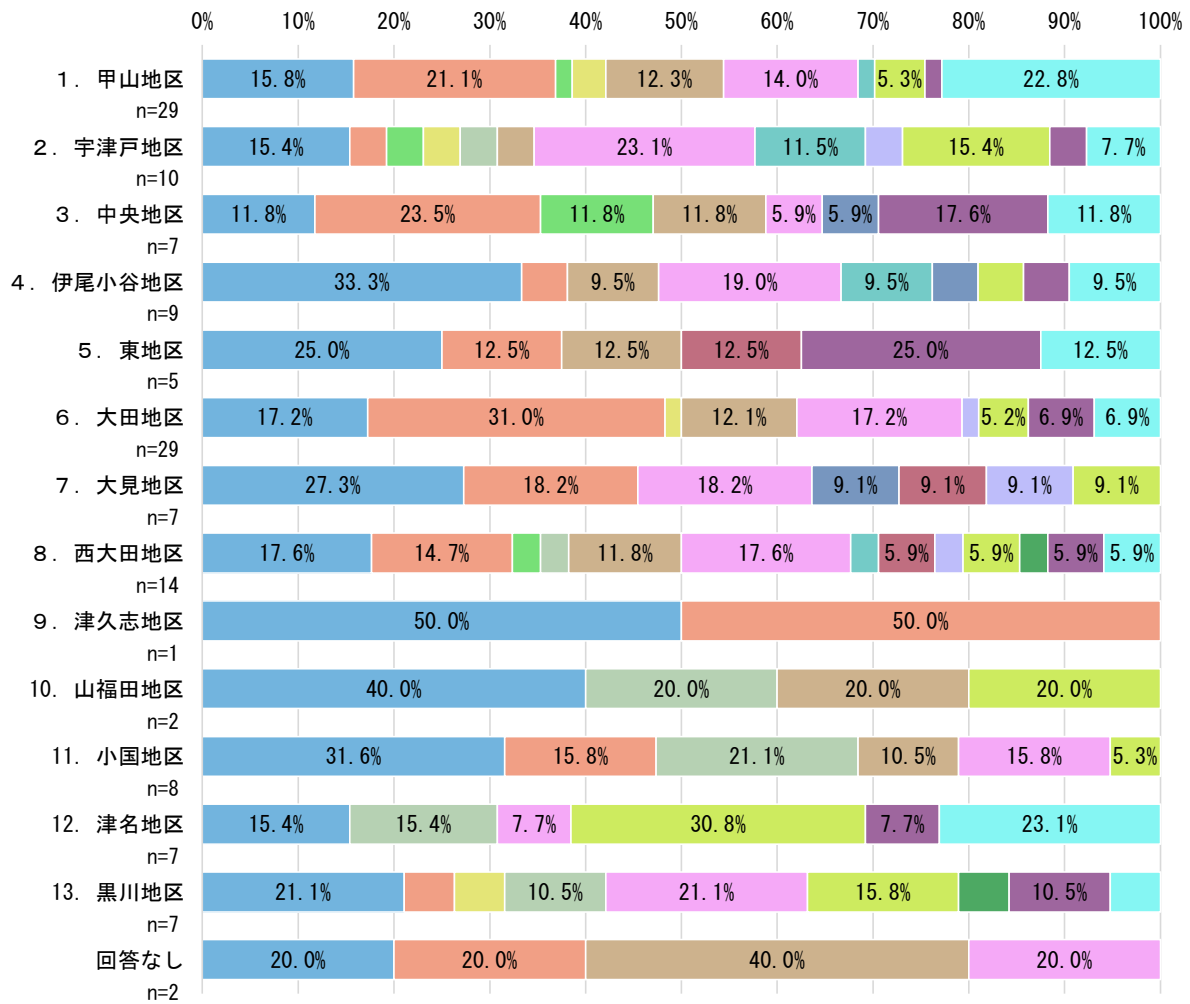


図 特に不便で困っている施設

【地域別】



- 1. 食料品・日用品の店舗（スーパー、ドラッグストアなど）
- 2. 衣料品の店舗
- 3. ホームセンター
- 4. 家電用品店
- 5. コンビニエンスストア
- 6. 食堂やレストランなどの飲食店
- 7. 病院、診療所（クリニック、医院など）
- 8. 調剤薬局
- 9. 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設
- 10. 学校などの教育施設
- 11. 福祉施設（高齢者福祉施設、障がい者福祉施設）
- 12. 銀行や郵便局などの金融機関
- 13. 図書館・文化ホールなどの文化施設
- 14. 行政窓口
- 15. 身近に利用できる公園や広場

※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 特に不便で困っている施設

【年代別】

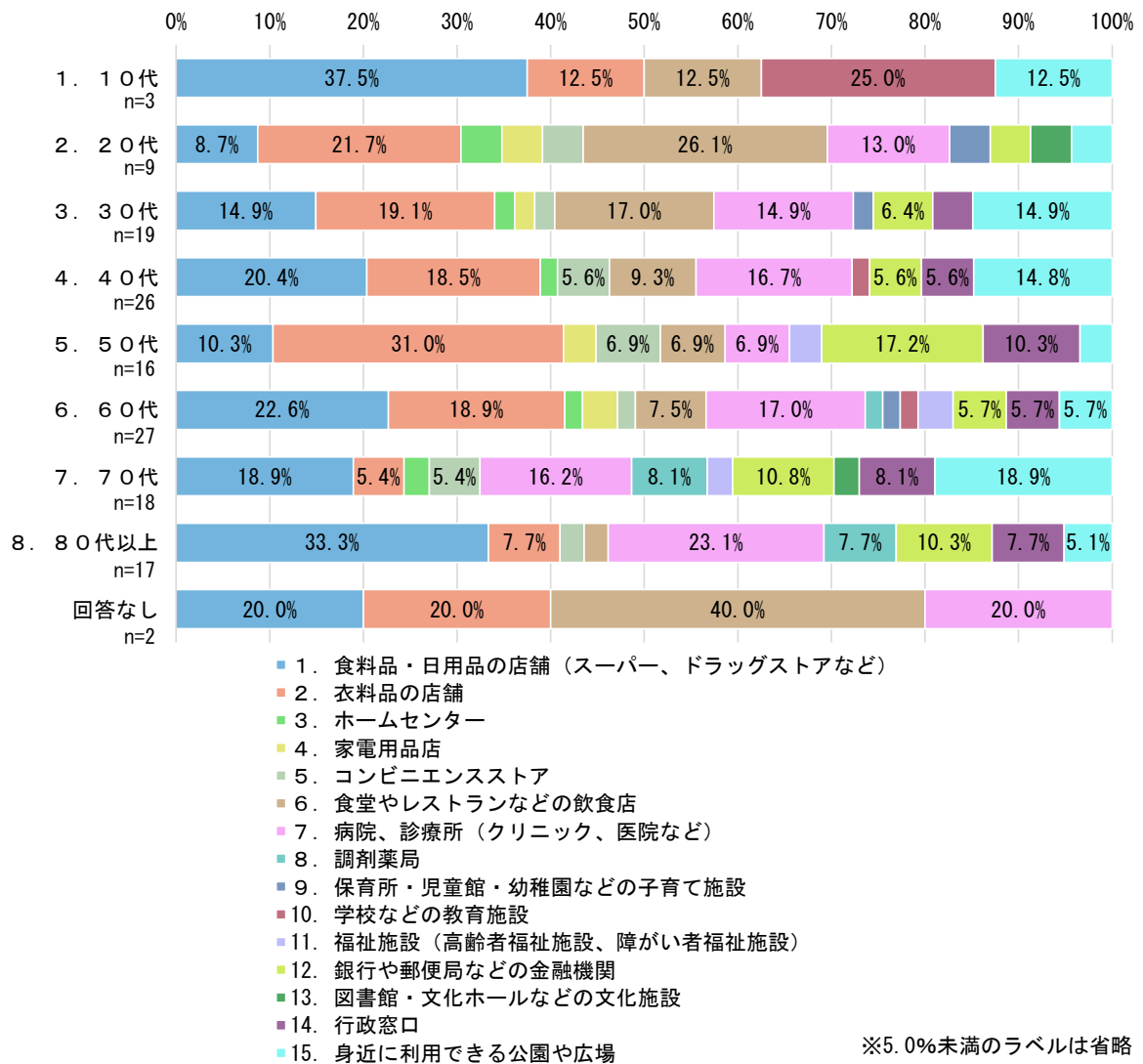


図 年代別 特に不便で困っている施設

**問6. 商業施設や公共施設等の各施設について、現在の有無に関わらず、役場周辺（町中心部）に「必要な施設」と「なくてもよい施設」をお伺いします。
該当する施設の欄に○を記入してください。（それぞれ3つまで）**

役場周辺に必要な施設については、食料品・日用品の店舗、病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関が多く挙げられており、反対にこれらの施設がなくても良いとの回答はごく少数となっています。また、これらの施設は全ての地域、年代において「必要」が、「なくてもよい」を大きく上回っています。

なくても良い施設として多く挙げられたのは、身近に利用できる公園や広場が圧倒的で、必要な施設として挙げた人数を大きく上回っています。

衣料品の店舗や、ホームセンター、コンビニエンスストア、調剤薬局、子育て施設、教育施設、文化施設については、必要と回答した人数と、なくても良いと回答した人数がおおむね均衡しています。

衣料品の店舗やホームセンターについてみると、大田地区や甲山地区で必要な施設として多く挙げられているものの、「なくてもよい」施設として挙げる回答者もほぼ同程度となっています。年代別にみると、衣料品の店舗については、年代が上がるほど「なくてもよい」が「必要」よりも多くなっています。また、ホームセンターについては、50代の回答者は「必要」が「なくてもよい」を上回っています。

家電用品店については、全ての地域、年代において、「なくてもよい」が「必要」を大きく上回っています。

コンビニエンスストアについて回答の多かった地域をみると、甲山地区や、小国地区では「なくてもよい」よりも「必要」が上回っており、大田地区については均衡しています。

食堂やレストランなどの飲食店について回答の多かった地域をみると、大田地区や、西大田地区、甲山地区では「必要」が「なくてもよい」の倍以上挙げられています。年代別にみると、60～70代は「なくてもよい」が「必要」を上回っていますが、他の年代では「必要」が「なくてもよい」を上回っています。

調剤薬局については、「必要」、「なくてもよい」のどちらの回答も他施設に比べ少なくなっています。

保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設についても、「必要」、「なくてもよい」のどちらの回答も他施設に比べ少ないものの、多く挙げられている地域をみると、大田地区では「必要」が「なくてもよい」を上回り、甲山地区では「なくてもよい」が「必要」を上回っています。また、年代別にみると、30代では「必要」の回答が多く「なくてもよい」が少なくなっていますが、70代では「なくてもよい」がどの年代よりも多くなっています。

学校などの教育施設について、多く挙げられている地域をみると、大田地区では「必要」の回答数が「なくてもよい」の倍以上となっており、反対に、甲山地区では「必要」よりも、「なくてもよい」が顕著に多くなっています。年代別では、どの年代でも「必要」と「なくてもよい」の回答数はほぼ同程度となっています。

福祉施設についてみると、大田地区や西大田地区で必要な施設として多く挙げられていますが、西大田地区では「必要」が「なくてもよい」を大きく上回っているのに対し、大田地区では「な

くてもよい」という回答も「必要」と同じぐらい多くなっています。年代別にみると、40代以下では「必要」と「なくてもよい」が同程度ですが、50代以上ではどの年代も「必要」が「なくてもよい」の3倍以上となっています。

図書館・ホールなどの文化施設について回答の多かった地域をみると、大田地区では、「必要」が「なくてもよい」を上回っており、甲山地区では「なくてもよい」が「必要」を上回っています。また、年代別にみると、60代では「必要」の回答が「なくてもよい」の倍となっていますが、70代では「なくてもよい」がどの年代よりも多く、「必要」を上回っています。

行政窓口については、全ての地域、年代において「必要」が「なくてもよい」を上回るか同程度となっています。

身近に利用できる公園や広場については、全ての地域において、「なくてもよい」が「必要」を上回るか同程度となっています。年代別にみると、30代と40代では「必要」が「なくてもよい」を上回っていますが、他の年代では「なくてもよい」が「必要」を上回っています。

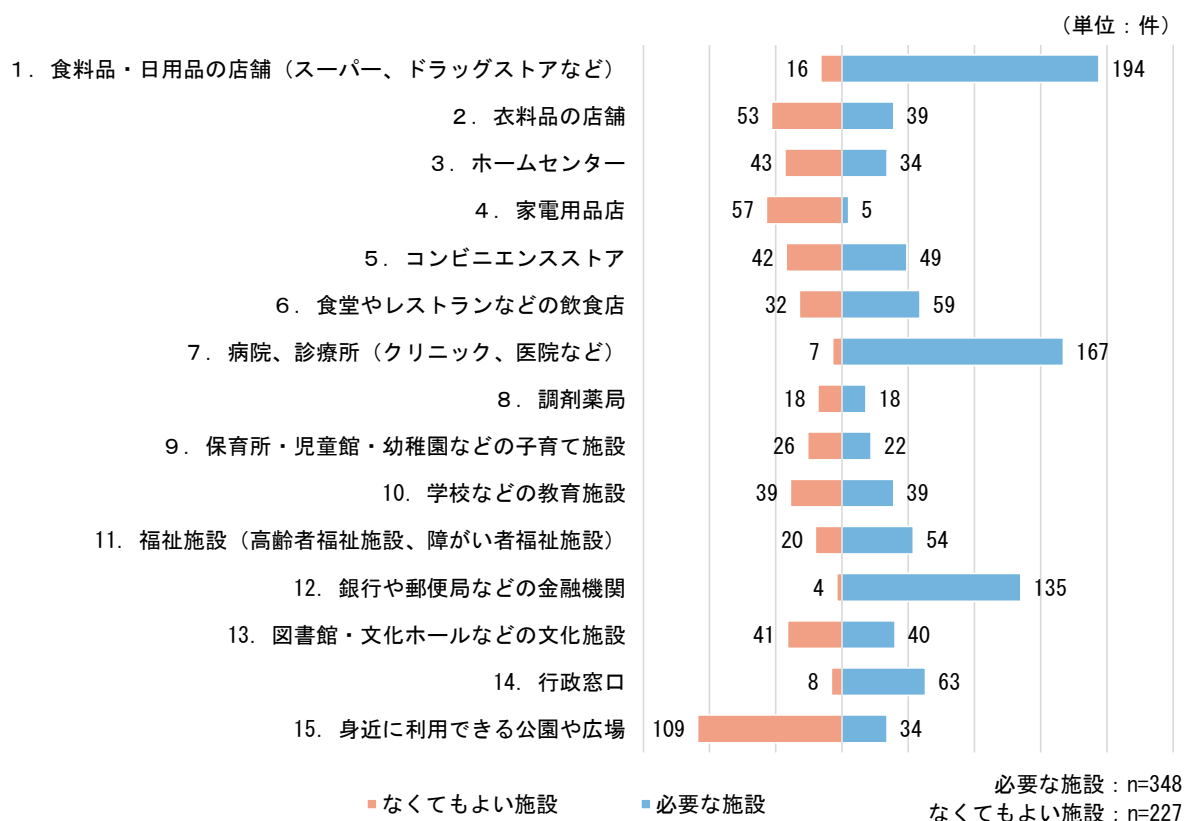


図 役場周辺に必要な施設となくてもよい施設

1. 食料品・日用品の店舗（スーパー、ドラッグストアなど）

【地域別】

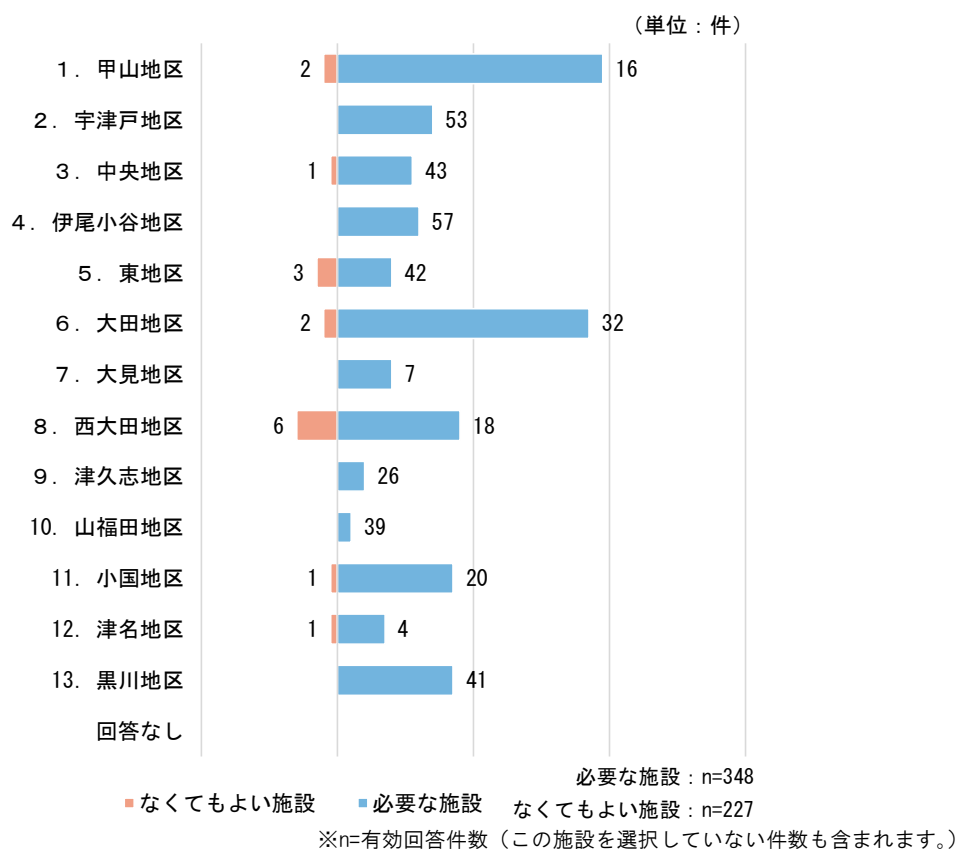


図 地域別 食料品・日用品の店舗の必要不要

【年代別】

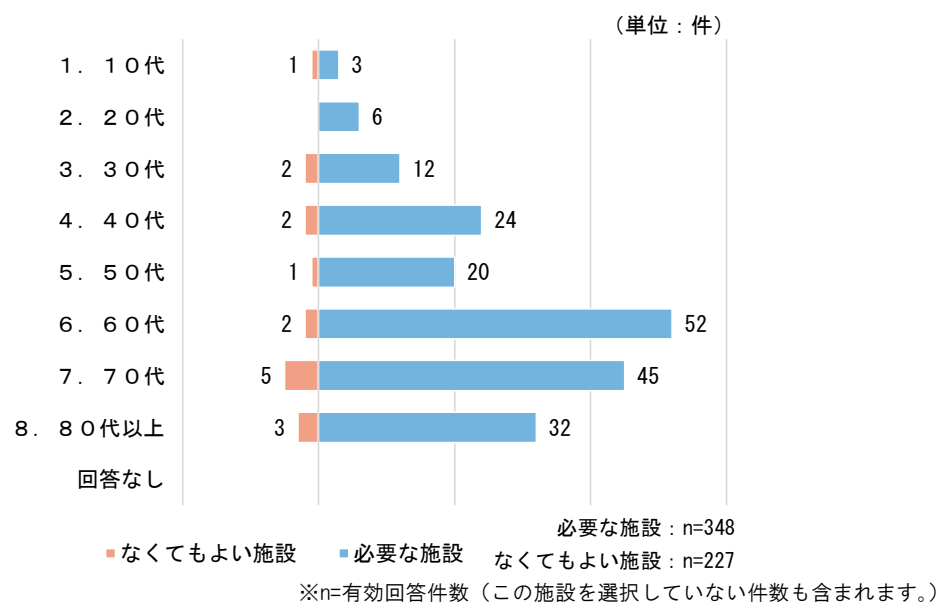


図 年代別 食料品・日用品の店舗の必要不要

2. 衣料品の店舗

【地域別】

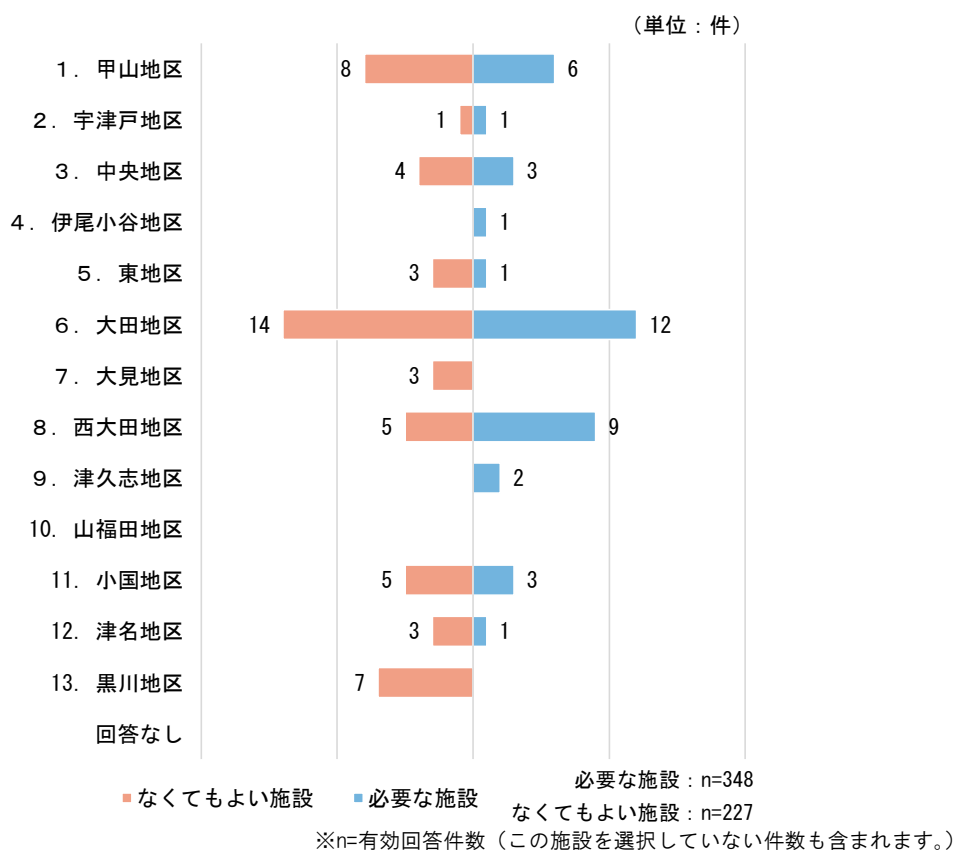


図 地域別 衣料品の店舗の必要不要

【年代別】

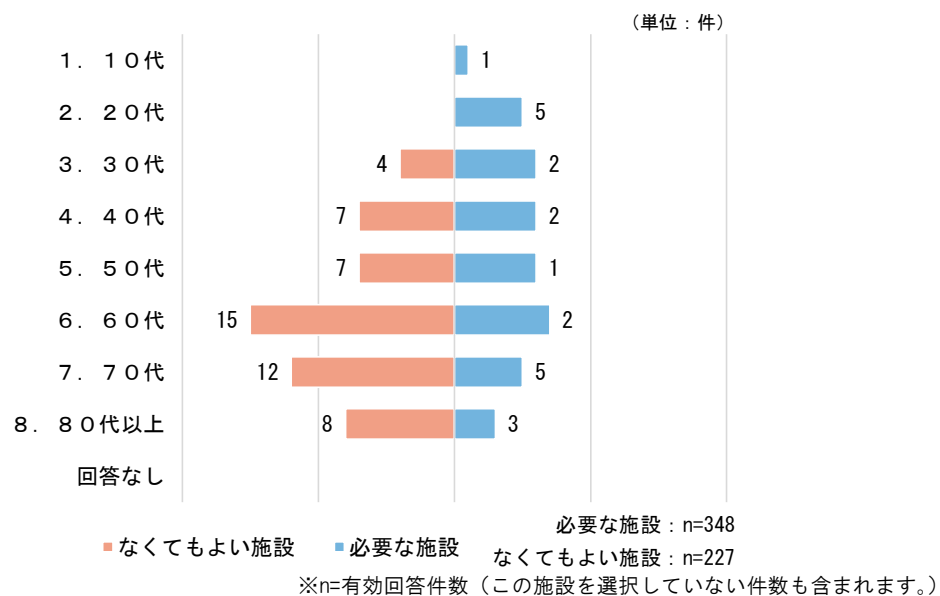


図 年代別 衣料品の店舗の必要不要

3. ホームセンター

【地域別】

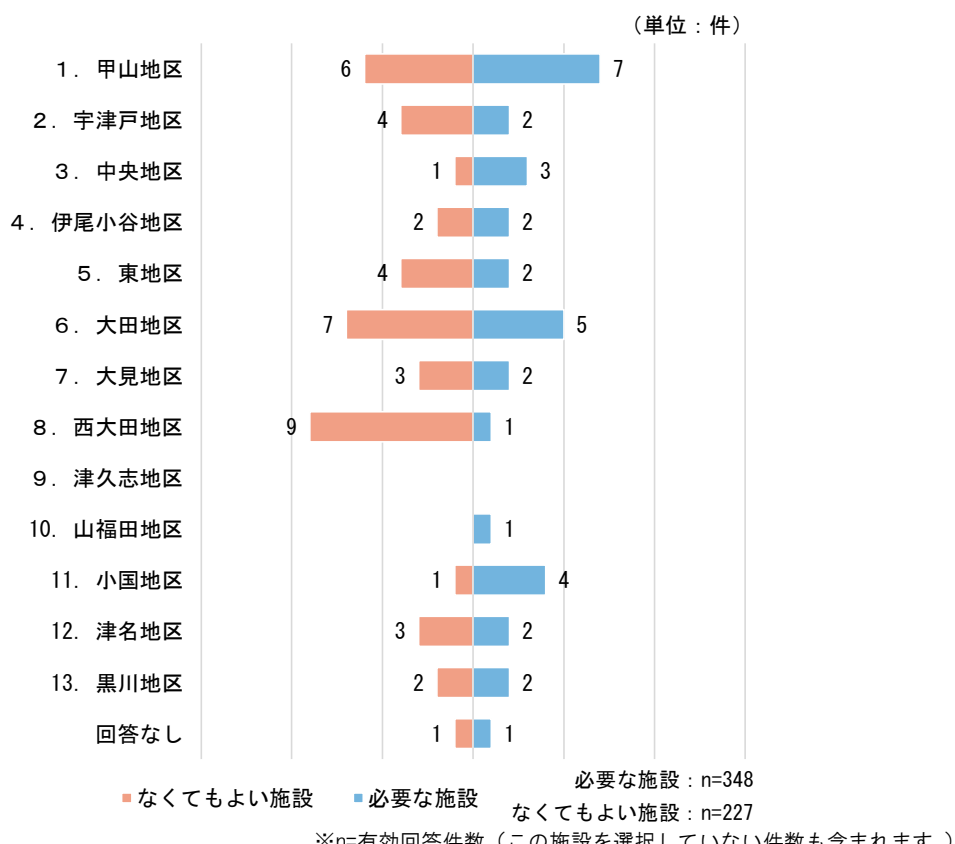


図 地域別 ホームセンターの必要不要

【年代別】

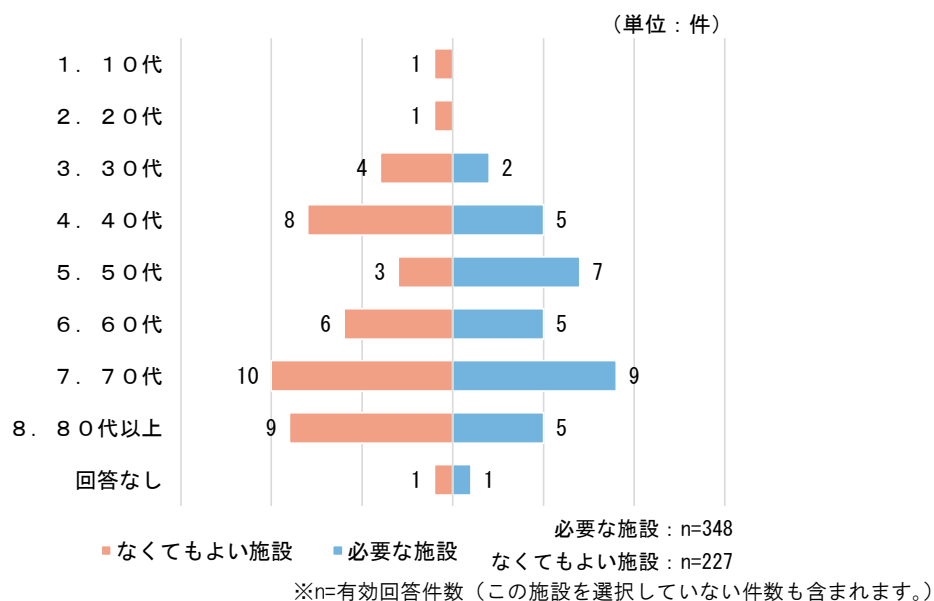


図 年代別 ホームセンターの必要不要

4. 家電用品店

【地域別】

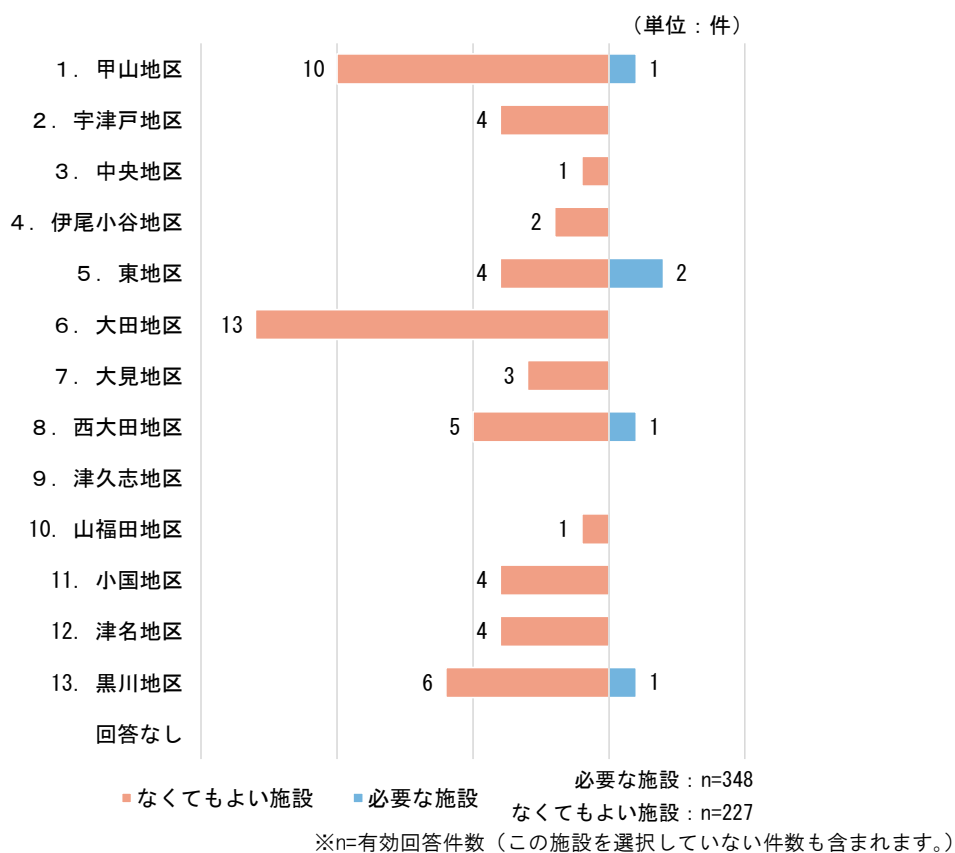


図 地域別 家電用品店の必要不要

【年代別】

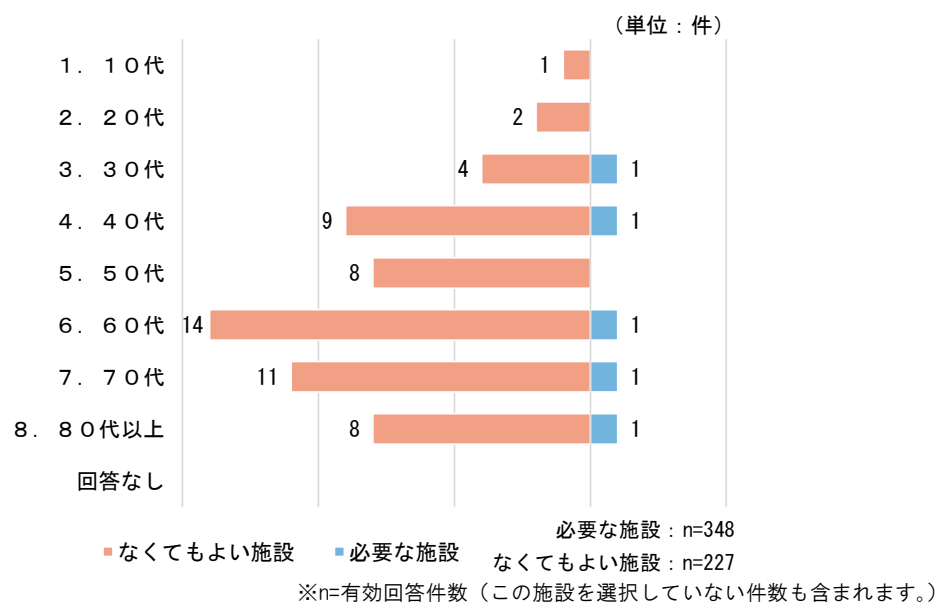


図 年代別 家電用品店の必要不要

5. コンビニエンスストア

【地域別】

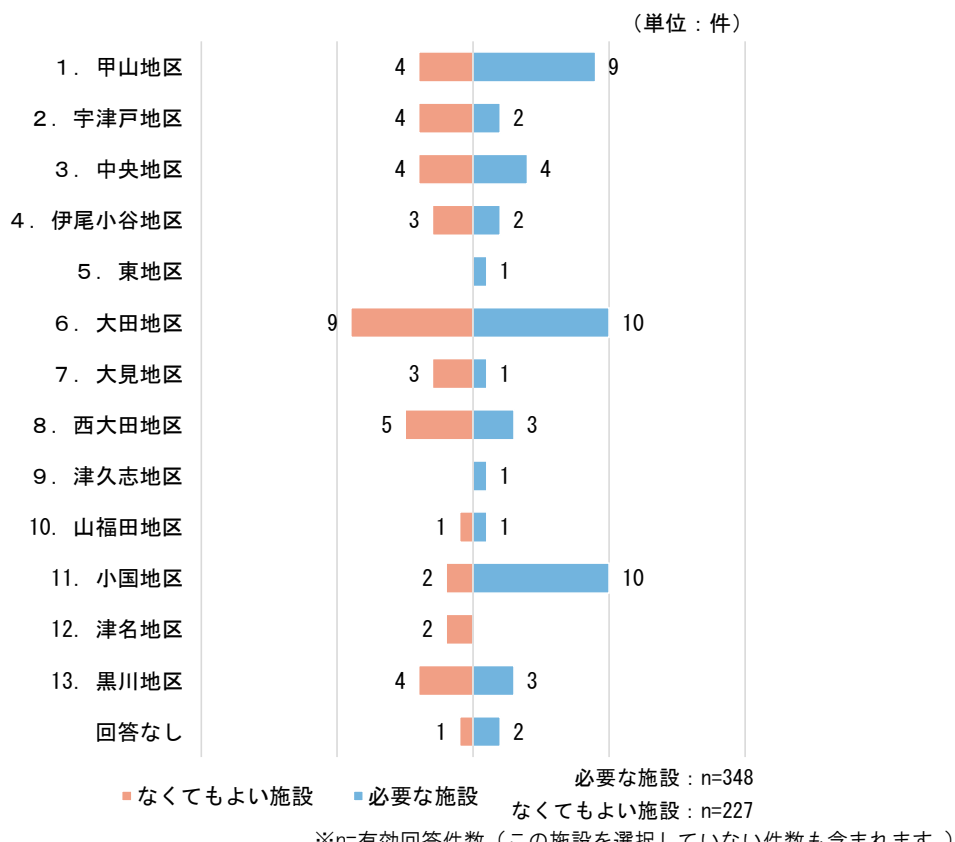


図 地域別 コンビニエンスストアの必要不要

【年代別】

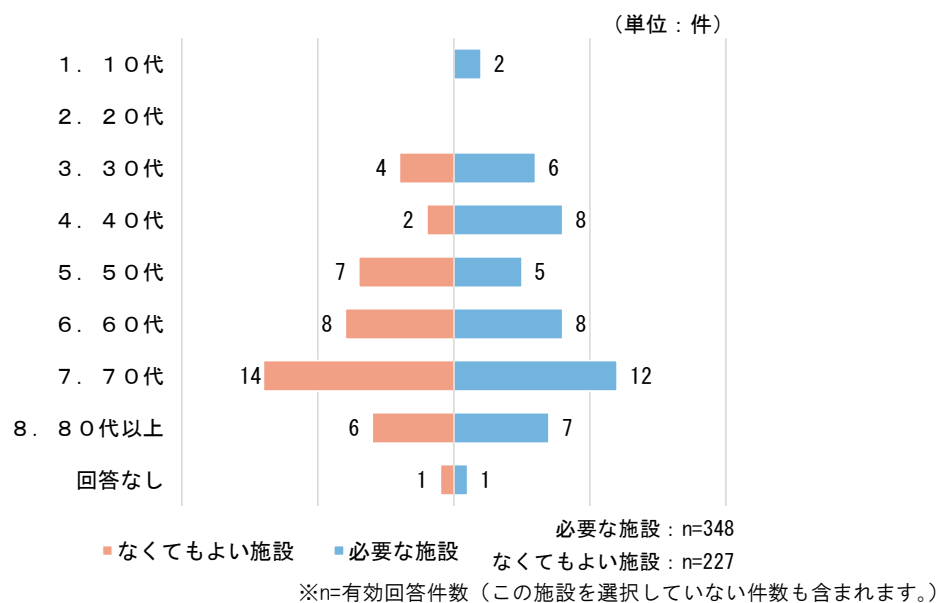


図 年代別 コンビニエンスストアの必要不要

6. 食堂やレストランなどの飲食店

【地域別】

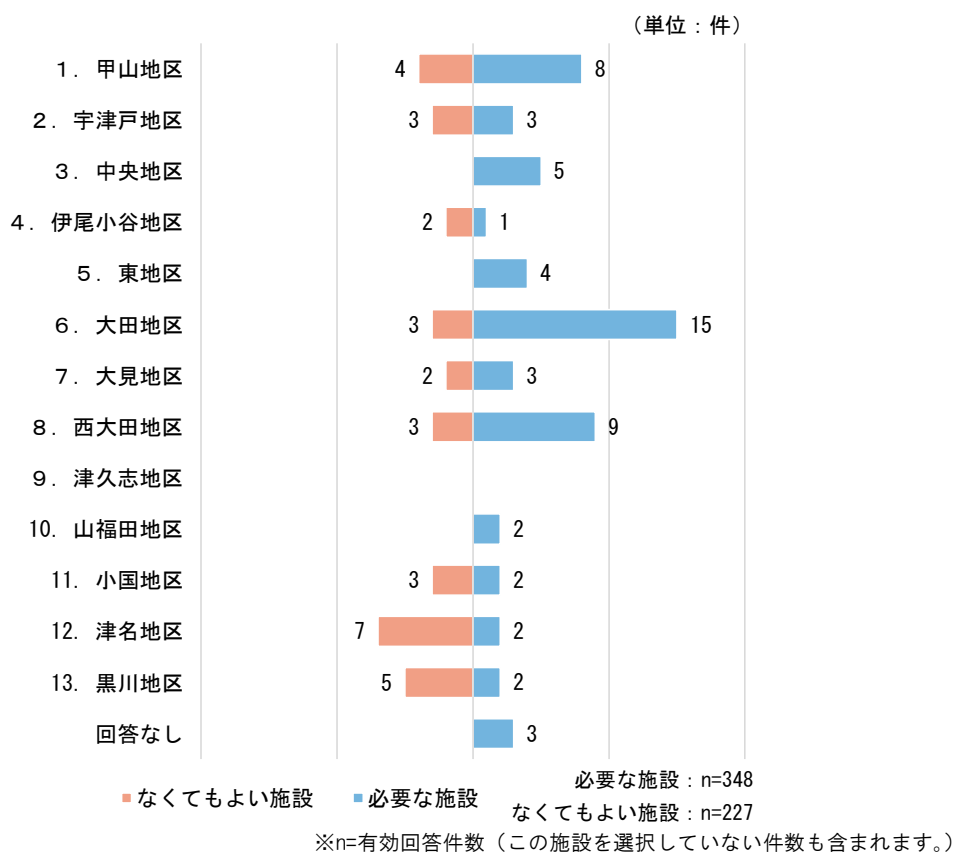


図 地域別 食堂やレストランなどの飲食店の必要不要

【年代別】

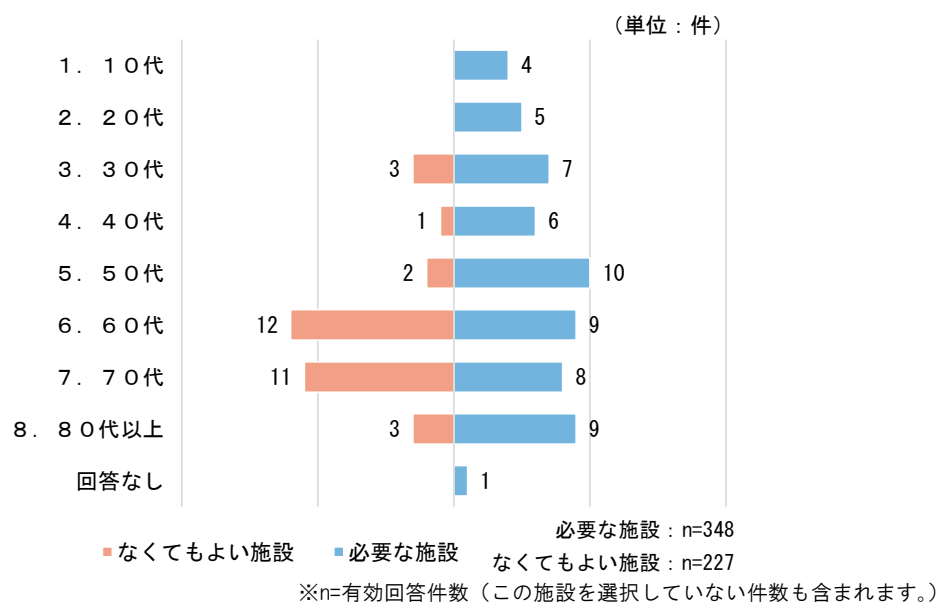


図 年代別 食堂やレストランなどの飲食店の必要不要

7. 病院、診療所（クリニック、医院など）

【地域別】

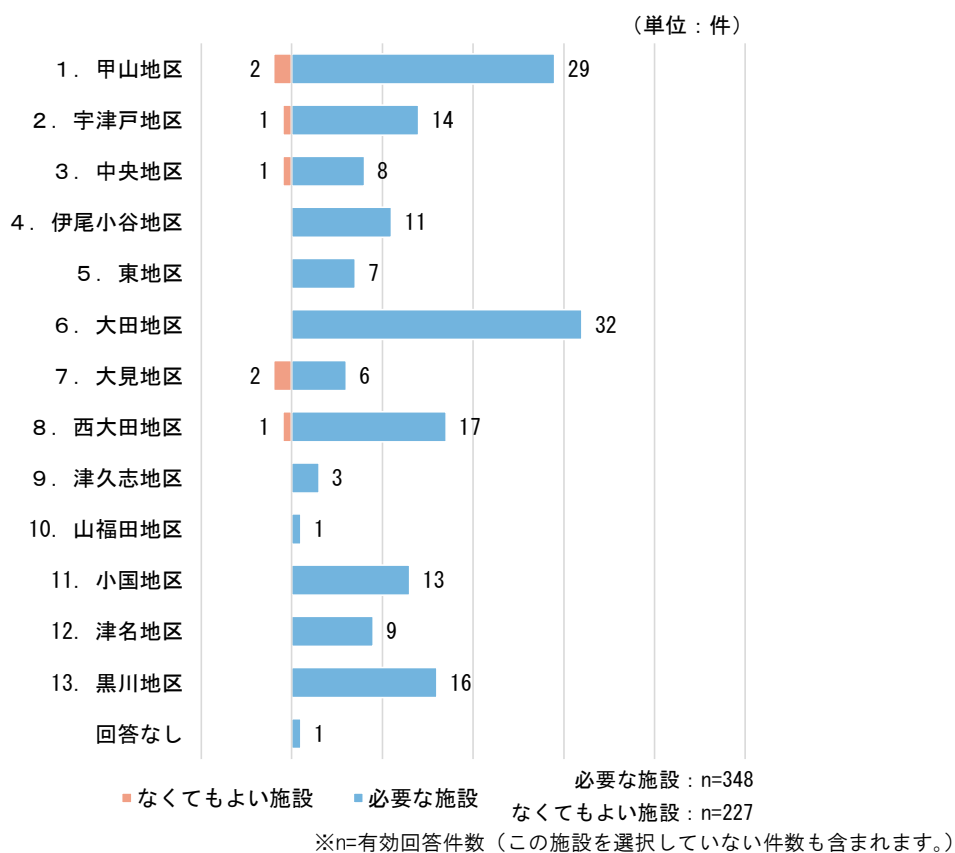


図 地域別 病院、診療所の必要不要

【年代別】

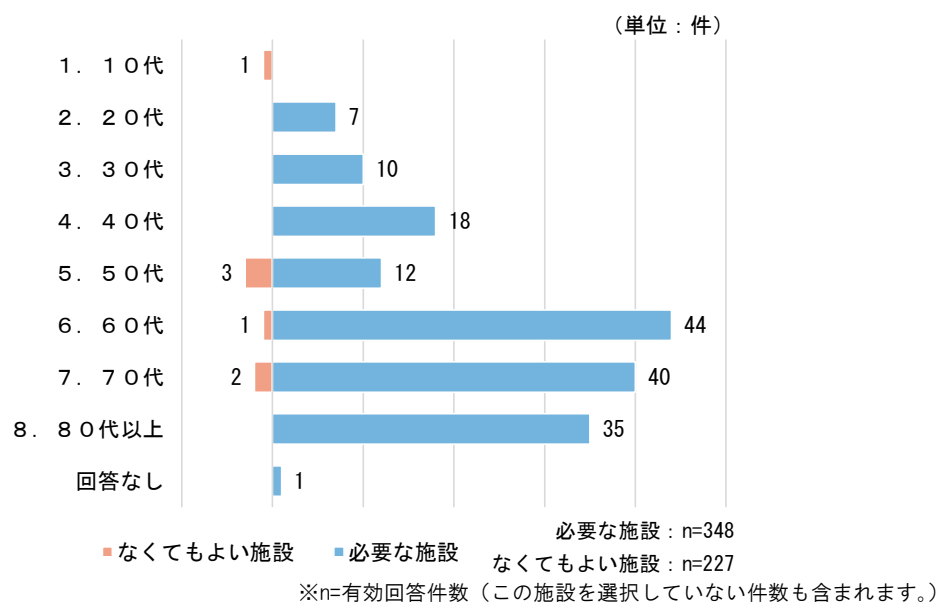


図 年代別 病院、診療所の必要不要

8. 調剤薬局

【地域別】

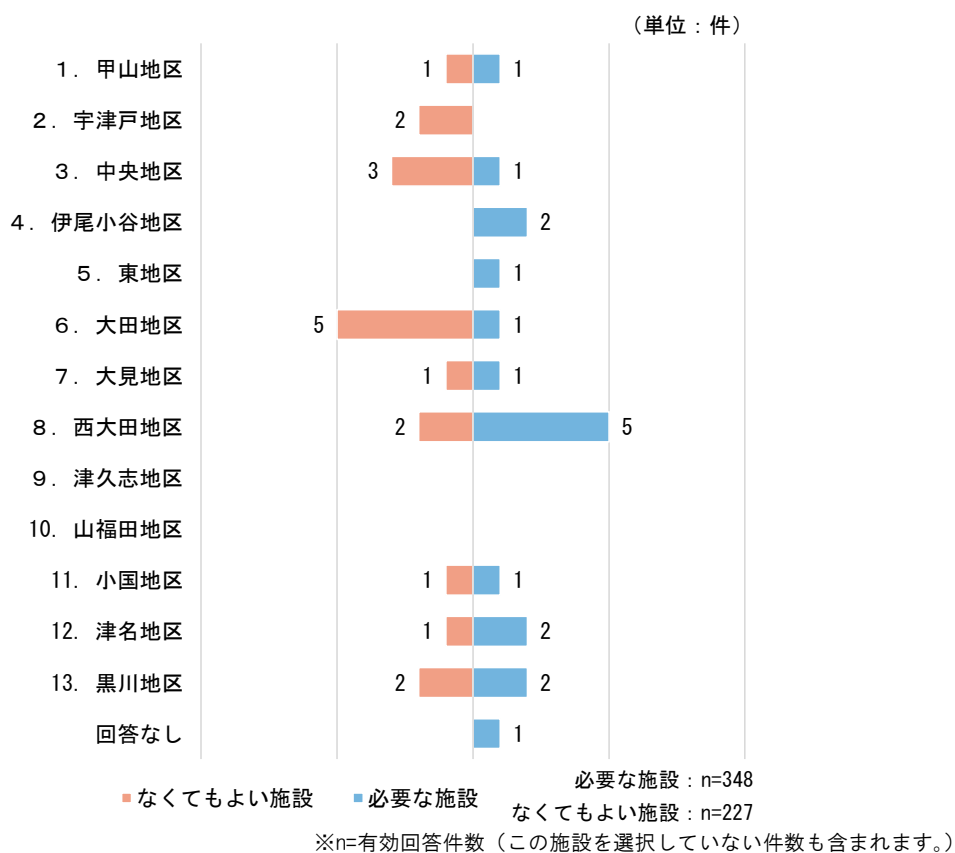


図 地域別 調剤薬局の必要不要

【年代別】

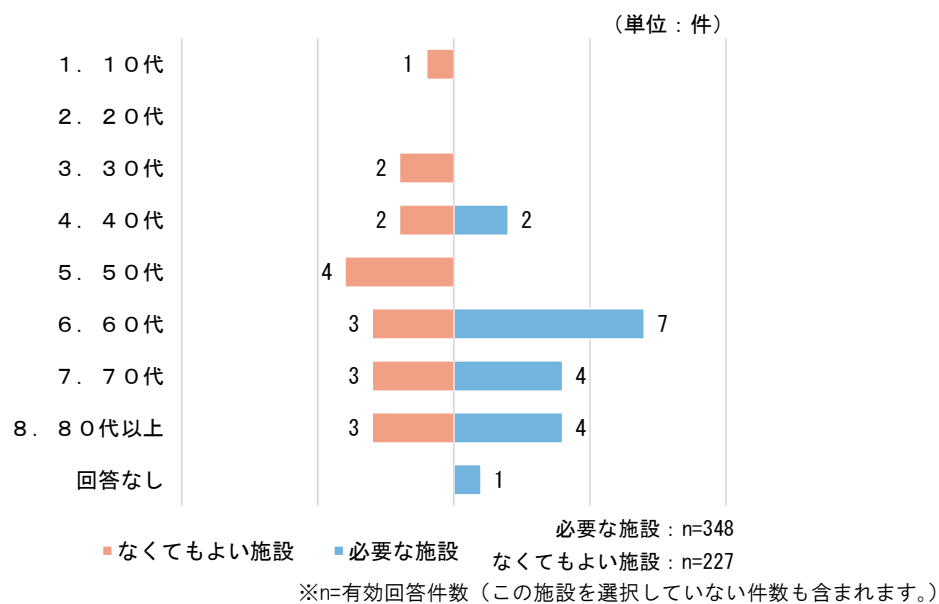


図 年代別 調剤薬局の必要不要

9. 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設

【地域別】

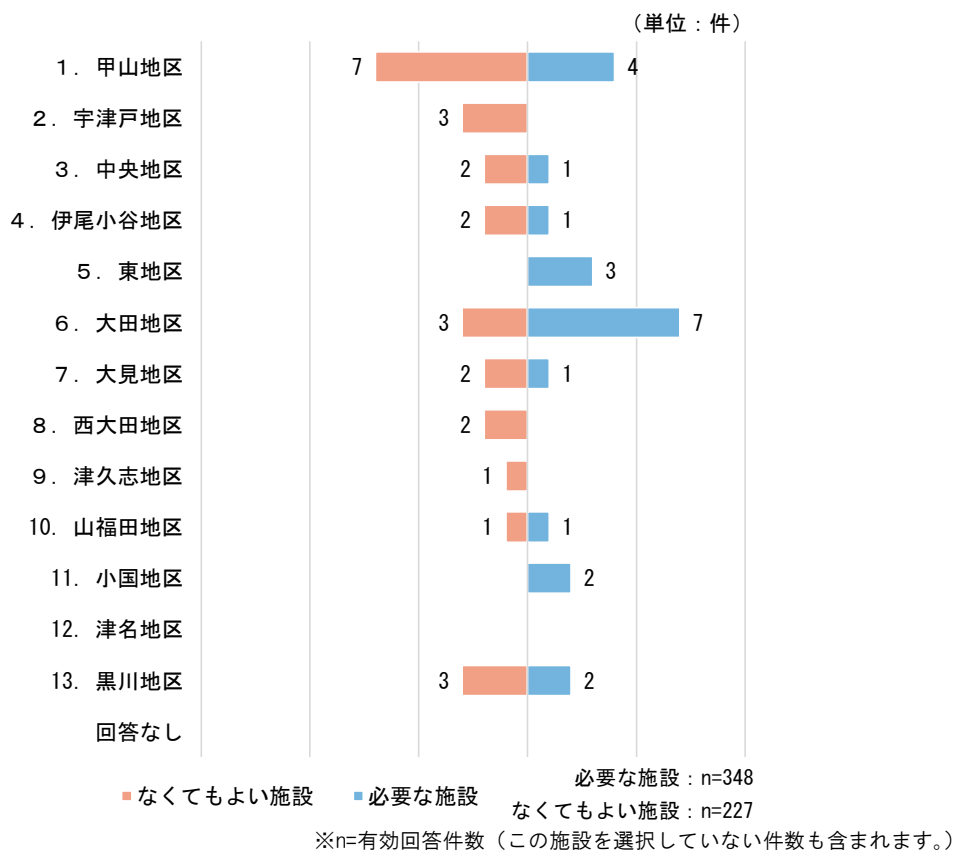


図 地域別 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設の必要不要

【年代別】

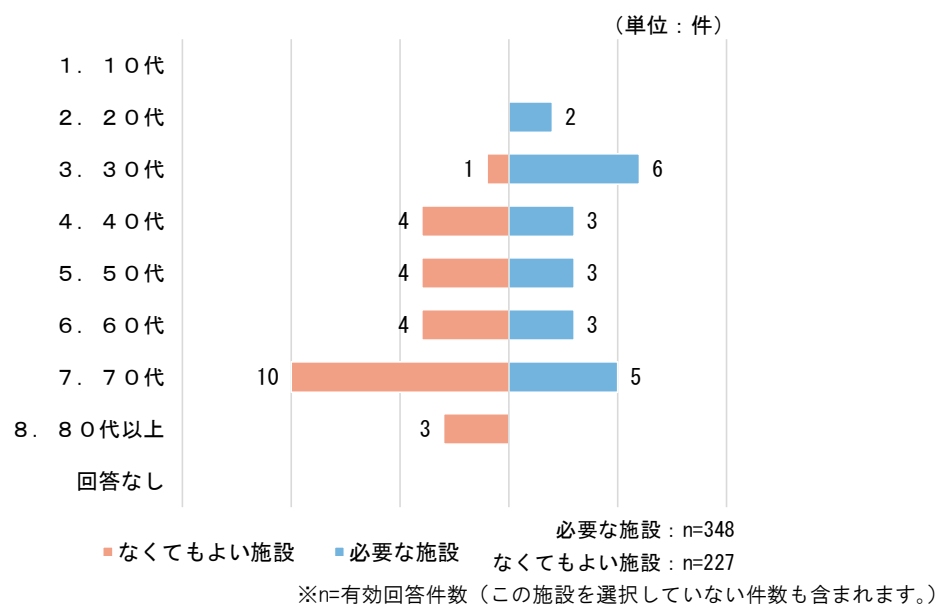


図 年代別 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設の必要不要

10. 学校などの教育施設

【地域別】

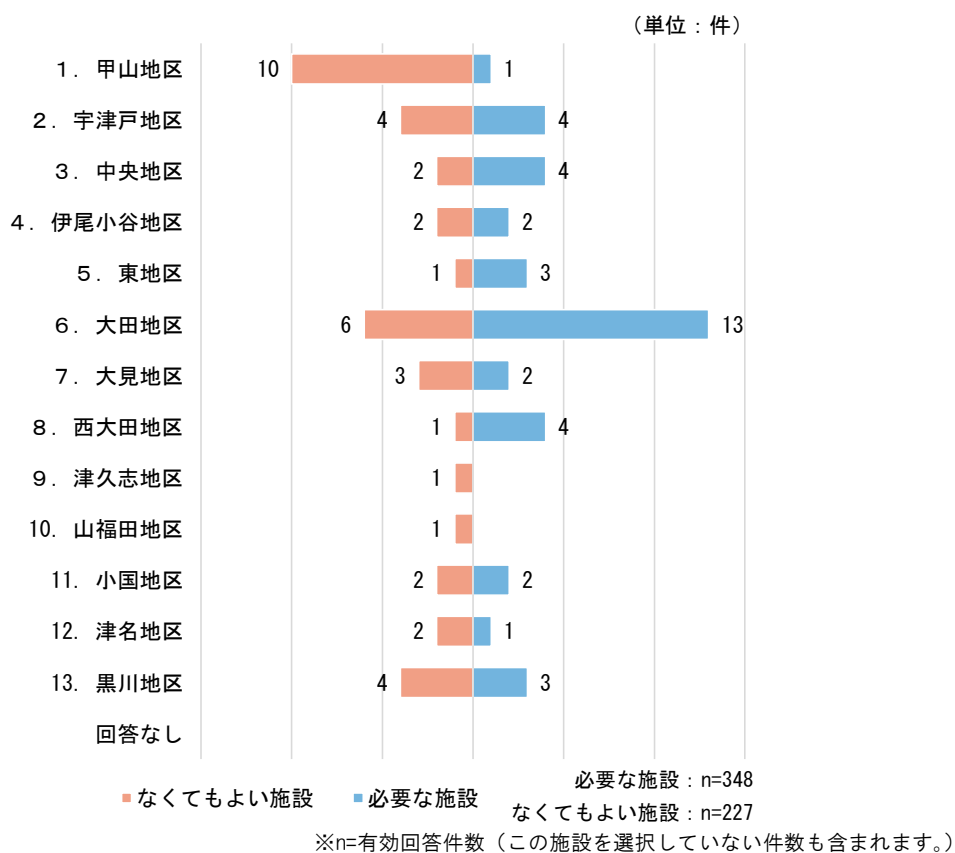


図 地域別 学校などの教育施設の必要不要

【年代別】

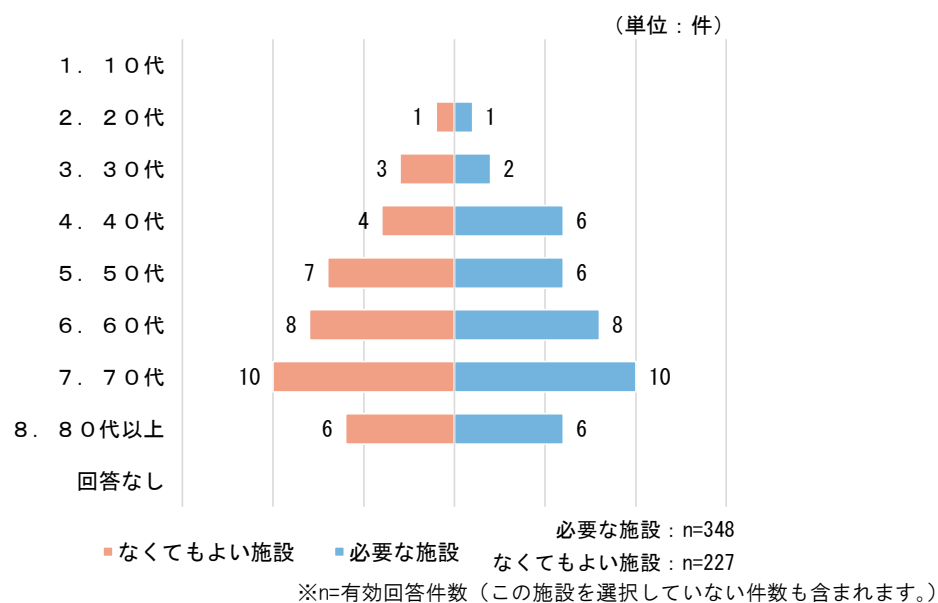


図 年代別 学校などの教育施設の必要不要

11. 福祉施設（高齢者福祉施設、障がい者福祉施設）

【地域別】

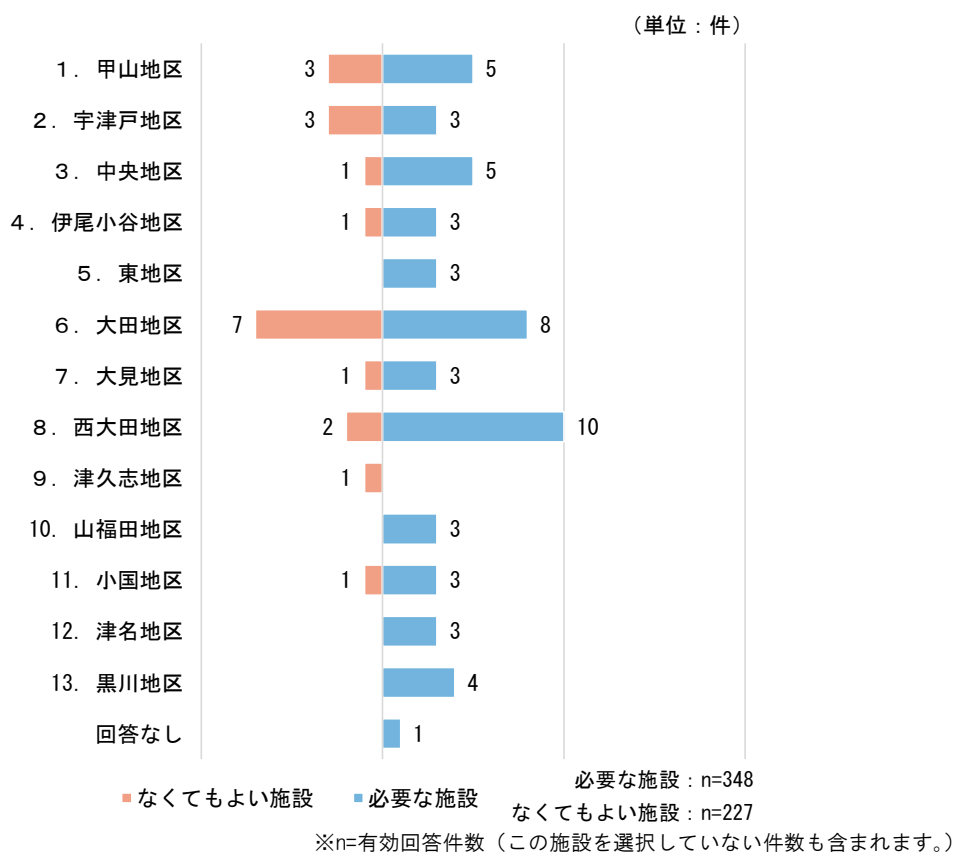


図 地域別 福祉施設の必要不要

【年代別】

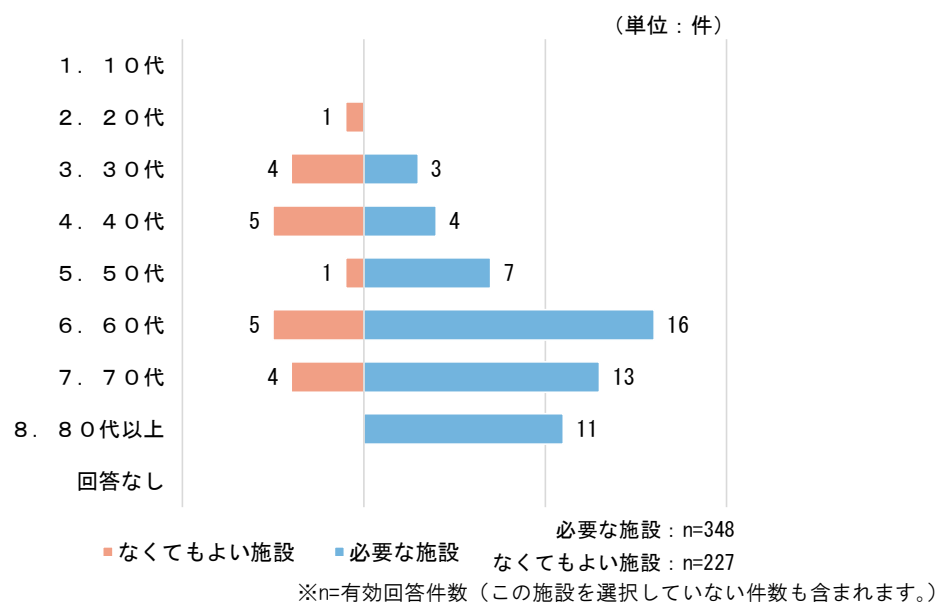


図 年代別 福祉施設の必要不要

12. 銀行や郵便局などの金融機関

【地域別】

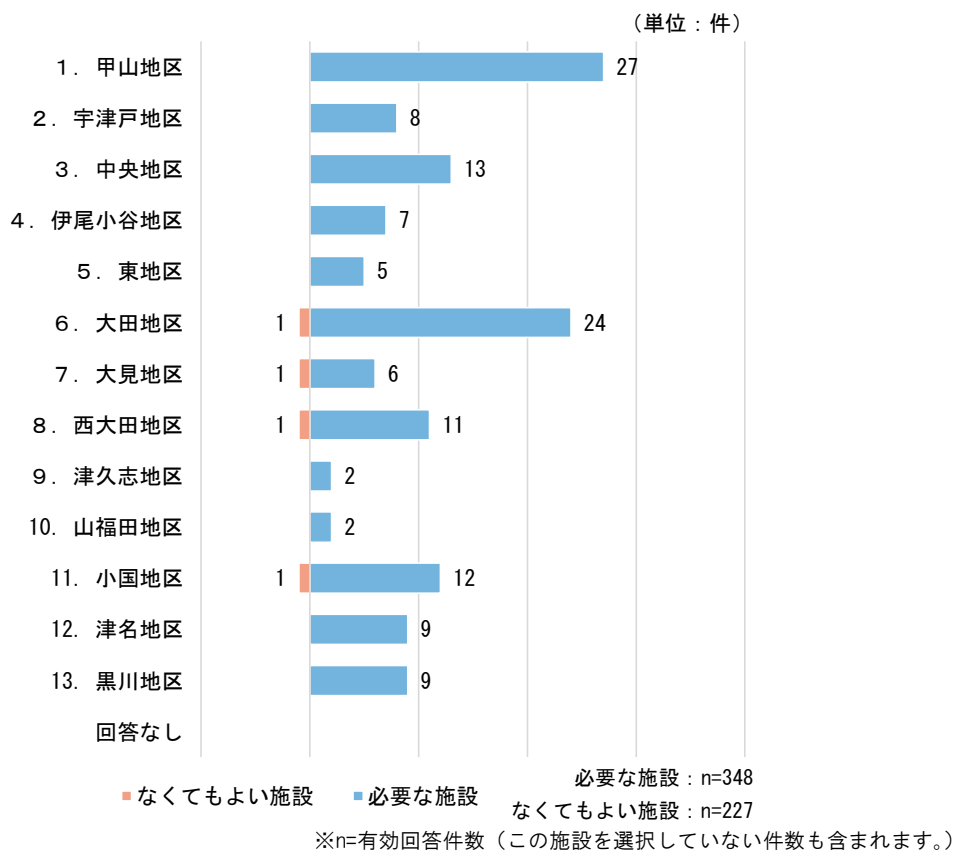


図 地域別 銀行や郵便局などの金融機関の必要不要

【年代別】

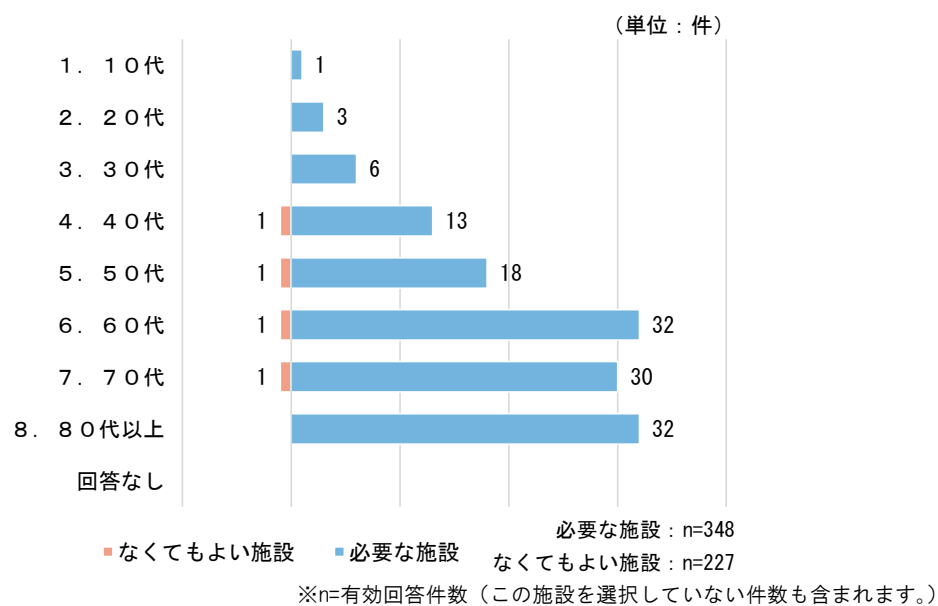


図 年代別 銀行や郵便局などの金融機関の必要不要

13. 図書館・文化ホールなどの文化施設

【地域別】

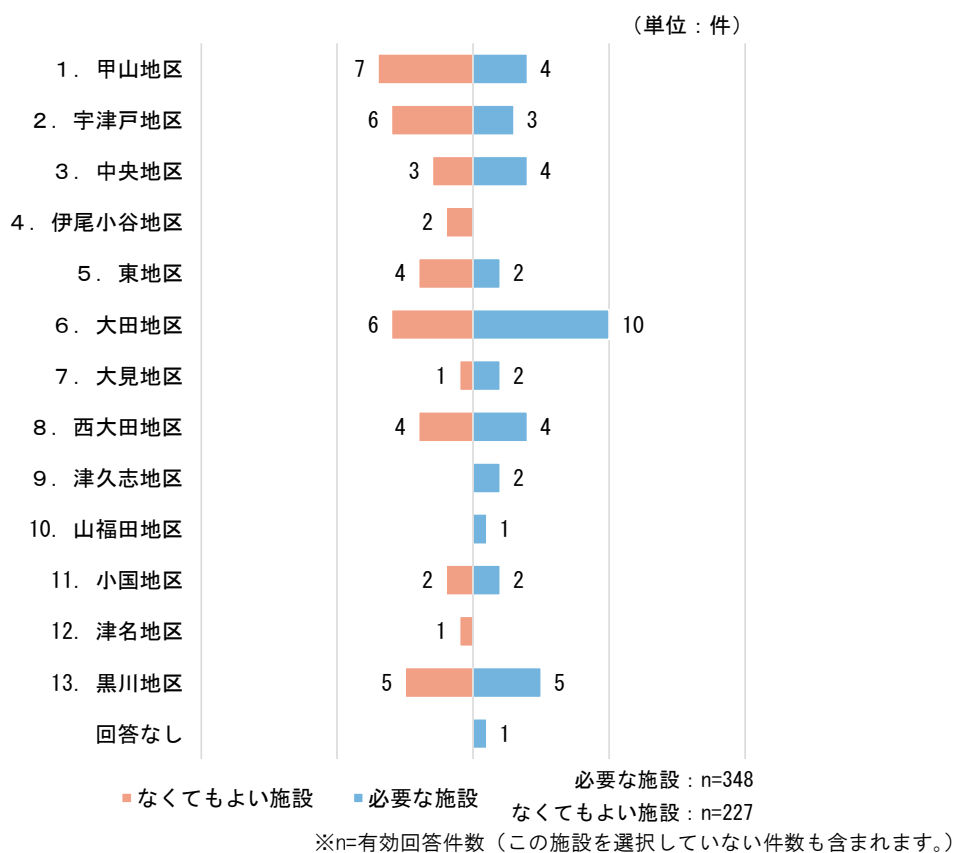


図 地域別 図書館・文化ホールなどの文化施設の必要不要

【年代別】

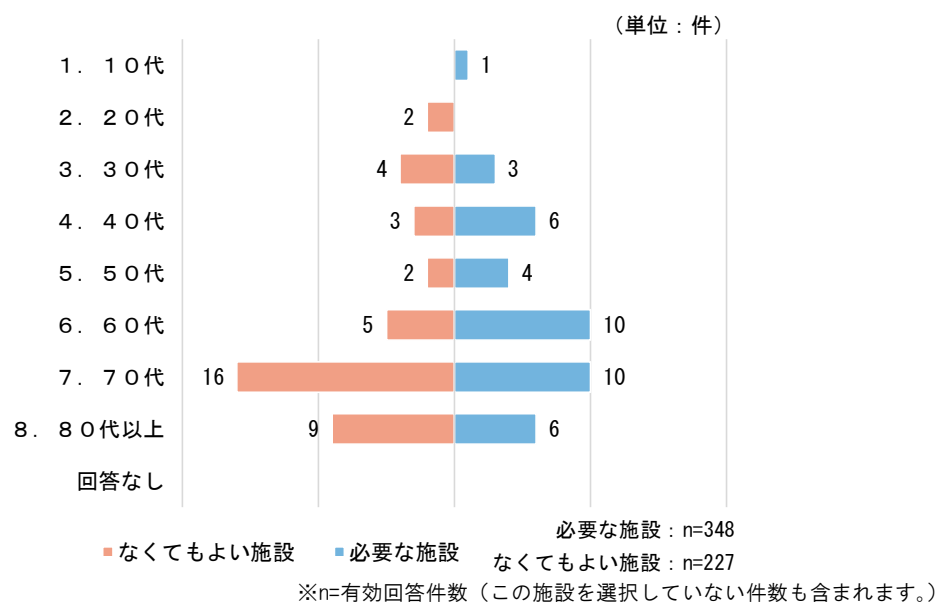


図 年代別 図書館・文化ホールなどの文化施設の必要不要

14. 行政窓口

【地域別】

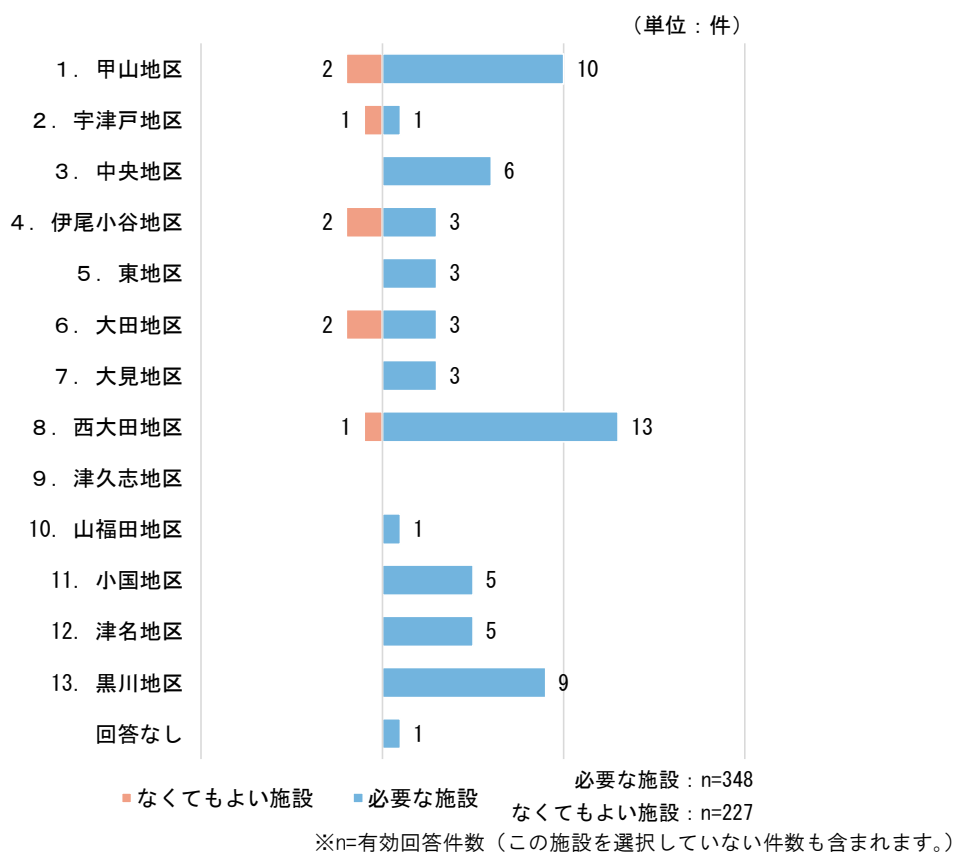


図 地域別 行政窓口の必要不要

【年代別】

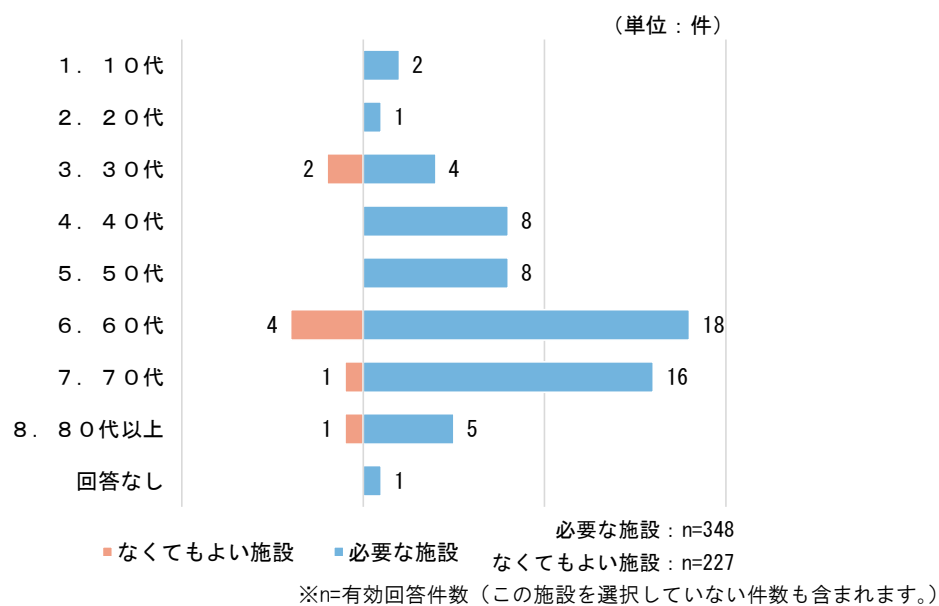


図 年代別 行政窓口の必要不要

15. 身近に利用できる公園や広場

【地域別】

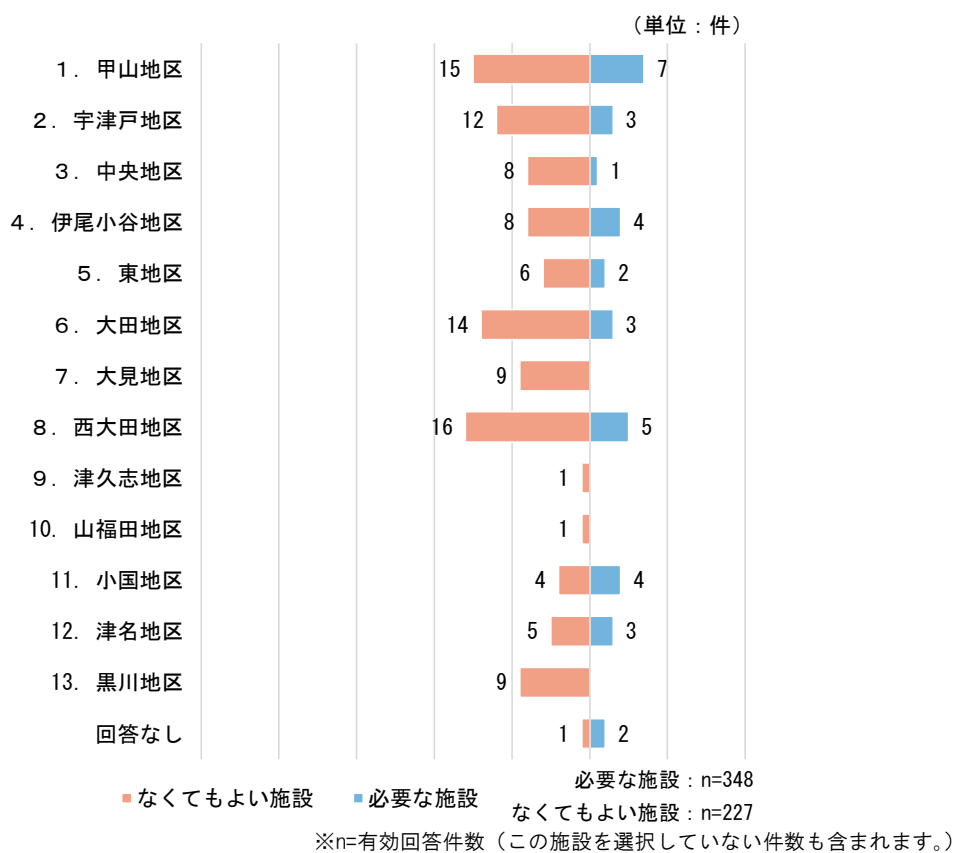


図 地域別 身近に利用できる公園や広場の必要不要

【年代別】

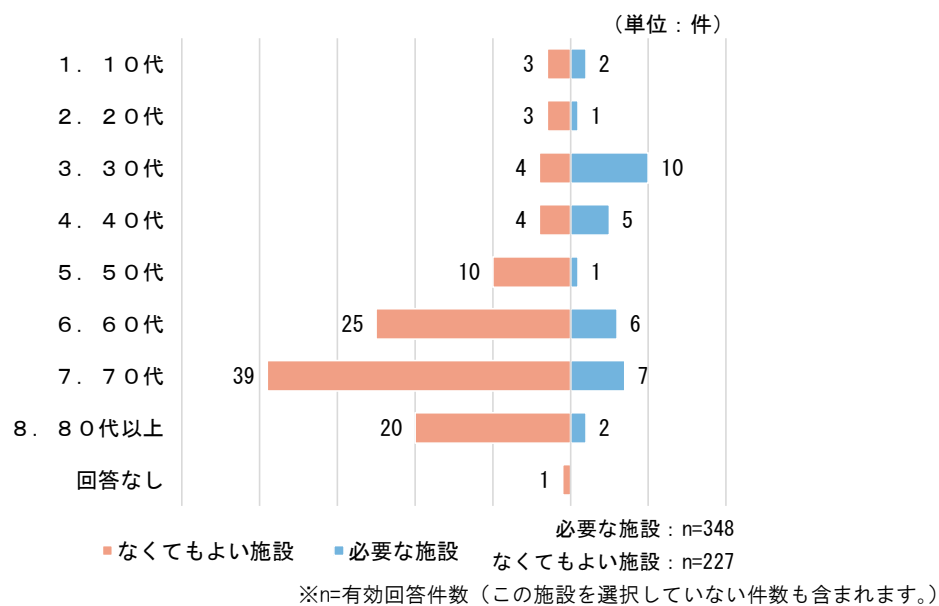


図 年代別 身近に利用できる公園や広場の必要不要

問7. 将来、あなたの住む地域から町中心部へのアクセスについて、各地域の自治センターをより有効的に活用できる方法があればお聞かせください。

この設問に対して、121 件の回答がありました。寄せられた意見等は以下の通りです。なお、回答内容が複数のカテゴリに分かれる場合、回答内容を分割して各カテゴリ内に記載しています。

表 各地域の自治センターの有効活用方法についての意見（概要）

交通・移動手段（バス）・・・16 件 ●乗合バス等の充実 ●格安（無料）バス、福祉バス通学バス等の交通機関の整備をお願いします。でも自宅から自治センターへの移動も年齢によっては難しく、課題だと思います。（一人暮らし、介護（支援）の必要な方） ●自治センターに送迎用のマイクロバス等の移動手段が気軽に利用できるように、配置されると良いのではないかと。
交通・移動手段（タクシー）・・・15 件 ●情報アクセス…タクシー券、せらまちタクシー等について勉強会の開催。 ●自治センターから乗り合いタクシーを出す ●気軽に利用できるようにしてほしい。せらまちタクシーの便を増やす。
交通・移動手段（自家用車）・・・6 件 ●マッチングアプリのシステムを構築して Uber eats の車版のようなものをつくり、自治センターが中心になって、中心部に行きたいけど交通手段がなかったりして行けない人を効率よく連れて送迎できれば良いと思います。 ●この先、車の運転ができなくなった時、週 1、2 回位でも地域の自治センターから中心部への車の乗合があったらどうかと思います。が…。
交通・移動手段（その他）・・・17 件 ●町での移動手段が、いつでも、どこでも、だれでも、が気軽に使える乗り物があれば高齢になっても生活が安心できる。 ●町中心部の近くなので不便は感じないが、中心部外の高齢者は自治センターに相談すると、アセス協力してもらえる窓口を作る。 ●遠慮なく利用できるような体制にしてもらいたい。
小売りや行政サービス等へのアクセス・・・8 件 ●自治センターで移動販売をしてもらう。（週に 2、3 日程度など）自治センターに行けば買い物が出来るようにしてみてもどうか ●月に 1 回でも行政窓口が代行できる様になればいいのではないですか。 ●ネットやスマホで済むことのサポートサービスの実施
自治センターの活用（公共交通以外）・・・12 件 ●自治センターをもう少し利用しやすい、集まりやすい場所にできればいいと思います。 ●高齢者の関心が高い（興味が沸く）事を自治センターで月 1 回以上は開催する。 ●自治センターの内・外に誰でも自由に集えるスペースがあると良い。気楽に座って話したりお茶を飲んだり、休憩するスペースが欲しい。
利用しない等・・・5 件 ●自治センターへも遠いし、車へは乗れないし、活用することは出来ません。 ●自治センターと町中心部への距離がそこまで変わらないので、自治センターで何かサービスがあったとしても利用するかどうか分からない。
その他・・・23 件 ●将来、車に乗れなくなった時、生活自体が憂鬱になる。今は車があるから毎日買い物に行けるが、歩いて行ける範囲に何もなくて、自治センターまで 4 キロ以上あるのに行くたびにタクシー頼むのかと不安に思い町外に移りたいと考えてしまう。 ●それ以前に自治センターの在り方自体を見直すべきではないのか？役員に過剰に負担がかかり、その役員にも高齢化が進む。抜本的な見直しをお願いしたい。

表 各地域の自治センターの有効活用方法についての意見 回答一覧（1/4）

回答者の居住地区	カテゴリ	回答内容
甲山地区	交通・移動手段 （バス）	タクシーやバスの発着点にする以外、思い付かない。
		午後のバスがほしい。
		乗合バス等の充実
		送迎バスがあればいいと思います。
	交通・移動手段 （タクシー）	集合タクシーの運行時間増、待合場所の増設
		情報アクセス…タクシー券、せらまちタクシー等について勉強会の開催。携帯電話やタブレットの使い方講習→今ある社会資源を町民に伝える活動活用する。
		自治体や地域の活動は、広報に詳しく載っているのでもとても重宝しております。亦、現在は自分で運転しておりますが、せらまちタクシーやくるりん号などリーズナブルな交通手段は今後も残して欲しいです。
	交通・移動手段 （自家用車）	今のところほとんどの場所へマイカーで行く。
	交通・移動手段 （その他）	西上原に住んでおり、車があり移動には困っていない。車に乗れなくなっても自転車移動できると思われる。
		比較的中心部に近い住居に位置しているので、自転車又は徒歩でほとんどが移動可能である。自治センターに全てを集約する。中心部に全てを集めるのではなく、分散も含めて考えてほしい。同様な税負担をする以上、サービスも公平でありたい。
		交通アクセス…主に辺境地では、自治センターを拠点とした交通システムの検討、インフォーマルな助け合いの支援。
	小売りや行政サービス等へのアクセス	自治センターで移動販売をしてもらう。（週に2、3日程度など）自治センターに行けば買い物が出来るようにしてみてもどうか
	自治センターの活用（公共交通以外）	元気な65才以上の高齢者が仕事をされておられる方も、日々自由な時間を満喫したり、好きな趣味をされておられると思います。自治センターに於いて、手芸や簡単なスポーツの指導、防災や高齢者でもできる仕事の講習をしていただけたら助かります。
		自治センターをもう少し利用しやすい、集まりやすい場所にできればいいと思います。
		少子高齢化の中、出産育児に優しい町、若者の安定居住、他からの居住地に選ばれる町、暮らしやすい町を目的とした自治センターを望む。
		人口減を諦めない世羅町となって欲しいです。 将来のため 子供、若者に投資し 独特個性的な施策、方法で 世羅町が全国でも新しく 見本になることを望みます。 よろしくお願いいたします。
	利用しない等	山の上だからムリ
	その他	すでに中心部
		住んでいる場所が町中心部なので特に困っていないが、スーパーが活気がない（パオ）ので困る。イオンまでは遠いのももう少し近くにスーパーがほしい。
		人口600人も満たない地域に自治センターを建てる理由を教えてください。
		徒歩か自転車で移動しますが、道路や歩道の夜間照明が少ないと思う。
	無し、わからない	無し
		質問の意味がよくわかりません。自治センターとアクセスの関係性が…
		特になし
		別にありません
宇津戸地区	交通・移動手段 （バス）	自家用車、巡回バス
		町内の巡回バス等
		自治センターに送迎用のマイクロバス等の移動手段が気軽に利用できるように、配置されると良いのではないかな。
		バスの本数が少ないからとても不便 自治センターで座談会をして、困り事が意見として改善してもらえたらいい
	交通・移動手段 （タクシー）	町タクシーをもっと増やす。（高齢者以外も乗れるように）
		気軽に利用できるようにしてほしい。せらまちタクシーの便を増やす。
	交通・移動手段 （その他）	家族の送迎があるので困っていない。各自治センターの移動手段の確保。
		車の運転が出来なくなる日が来ると思うので、自治センターとかの車の便があればいいかな？バスの本数も限られてるので。
	自治センターの活用（公共交通以外）	サロン～60代から90年代別に大きく分けて、年代に合った体操なり、楽しみを作っていただきたい。介護経験の方を中心に行ってほしい。

表 各地域の自治センターの有効活用方法についての意見 回答一覧（2/4）

回答者の居住地区	カテゴリ	回答内容
宇津戸地区	無し、わからない	「町中心部へのアクセス」「自治センターをより有効活用」質問の意味が理解できません。どのような関係があるのか、不明？
		ない
中央地区	交通・移動手段（バス）	グルリン号が街中の人だけ利用できて、便利の悪い他の地区では、交通手段がなくて困っているので何とか考えてほしい。
		タクシー、バス増やす。健康ランド、娯楽施設あったらいいと思います。子どもから高齢者まで楽しめる場所があればいかがでしょうか？
	交通・移動手段（タクシー）	・自治センターから乗り合いタクシーを出す
	交通・移動手段（その他）	少子高齢化であと10年もすれば免許返納される方が増えると思うので、地区民文化祭のようなふれあい活動より、病院、買い物に連れて行ってもらえるような事を自治センターで考えてほしいと思う。世羅町タクシーは便利悪いという声を度々耳にします。
		自治センターまでの送り迎えがあれば助かる
	小売りや行政サービス等へのアクセス	・自治センターへ移動スーパー ・移動ATM、移動郵便局
	自治センターの活用（公共交通以外）	今後共センター長は、地位・貧富・容姿などどのような相手でも意識しない。おだやかな方を任命して頂きたい。中央自治センターの山下さん、村上さんは地域の発展に尽くされていると思います。緊急時の食糧保管場所としての活用。この程度で具体的、有効的な案がありません。
	その他	各自治センター毎に、しかも年代別に選り年2回程度開催しては。
伊尾小谷地区	交通・移動手段（バス）	町内バスの運行。チケットの配布（バス、タクシー）
		乗合タクシーの利用
	交通・移動手段（タクシー）	将来は自動運転の自動車（自家用）
	利用しない等	一度も利用していない
	無し、わからない	？
東地区	交通・移動手段（その他）	個々の生活環境が異なっているので、出来る事の行政側の「案の提示」。又、13自治センター立地条件、町中心部へのアクセス手段は違うので本気で実行するなら、13地区独自性の有る手段を求めます。
	その他	息子が発達障害なんで、住みやすい環境で。
大田地区	交通・移動手段（タクシー）	世羅町タクシーを利用しています。大変助かっています。
		自治センターを利用していないのでよく分かりませんが、乗合タクシーなどの停留所が良いかと思っています。
	交通・移動手段（自家用車）	自家用車しか使用出来ない？
		マッチングアプリのシステムを構築してUber eatsの車版のようなものをつくり、自治センターが中心になって、中心部に行きたいけど交通手段がなかったりして行けない人を効率よく連れて送迎できれば良いと思います。
	交通・移動手段（その他）	空き状況を確認してから使用申請書を提出するとなると手間がかかるため、ネットで簡単に空き状況の確認と予約が出来たら利用が増えるのではないかな。
		町中心部の近くなので不便は感じないが、中心部外の高齢者は自治センターに相談すると、アクセス協力してもらえる窓口を作る。
		アクセスという質問に限られるので、交通機関の充実しかありません。質問の意図が分かりにくい。自治センターが公共交通を担って欲しいという誘導質問に思えます。
	小売りや行政サービス等へのアクセス	自治センターに決まった日や曜日に移動販売カーなどが来ると便利だと思います。商品の販売だけでなく、行政窓口や図書館なども移動カーがあるといいと思います。
		月に1回でも行政窓口が代行できる様ななればいいのではないですか。
		臨時〇〇出張所のように何でも良いから開設する。必要と思われるものを開設する。
		ネットやスマホで済むことのサポートサービスの実施

表 各地域の自治センターの有効活用方法についての意見 回答一覧（3/4）

回答者の居住地区	カテゴリ	回答内容
大田地区	自治センターの活用（公共交通以外）	高齢者の関心が高い（興味が沸く）事を自治センターで月1回以上は開催する。
		自治センターの内・外に誰でも自由に集えるスペースがあると良い。気楽に座って話したりお茶を飲んだり、休憩するスペースが欲しい。
		自治センターでの飲食飲酒を許可して地域の集まりを楽しみたい
		各地域に会館があるが、老朽化している建物が多いと思う。各地域の自治センターで全て活動できるような施設、設備があればと思います。
	その他	世羅町へ工業施設が必要！勤める所が必要！
		町道の維持修繕等
		私が住んでいる所は（本郷、世羅）です。不便はありませんが。
		人口減少の地域への自治センター建設は町民全体の不利益となる。
	無し、わからない	自治センターを最も有効化する為に、自治センターを全て廃止or統合してコスト削減に努め、中心部へのアクセスに必要な費用を捻出して下さい。
		細かい公共施設の内容を知らせてほしい。分からないので検討の仕様がありません。
		何も言う事ありません。このままで結構です。世羅町良い町です。
		今の場所は不便がありません
		特になし
		別になし
大見地区	交通・移動手段（タクシー）	乗合タクシーなどは、各自治センターで業務を行う
	その他	中山間部の生活（交通整備）が置き去りにされているのでは？と疑問を感じます。将来を見据えては大切ですが、今のまま中山間部の道路状況を置き去りしては益々若者の世羅（中山間部）離れを加速させてしまうのではないのでしょうか？
		将来、車に乗れなくなった時、生活自体が憂鬱になる。今は車があるから毎日買い物に行けるが、歩いて行ける範囲に何もなくて、自治センターまで4キロ以上あるのに行くたびにタクシー頼むのかと不安に思い町外に移りたいと考えてしまう。
	その他	自治センターがあることで、地域の繋がりが保たれている。
西大田地区	交通・移動手段（バス）	巡回バス、フリーバス
	交通・移動手段（その他）	今後、町の中心部への交通を確保をお願いします。
		町での移動手段が、いつでも、どこでも、だれでも、が気軽に使える乗り物があれば高齢になっても生活が安心できる。
		公共交通の充実
	小売りや行政サービス等へのアクセス	提案 自治センター内に設置されては？項目に記されてる⑪⑫⑬⑭⑮安全、安心で。提案者西大田住民です！！ 郵便局・宅配業者等と、連携する。
	利用しない等	自治センターへも遠いし、車へは乗れないし、活用することは出来ません。 自治センターと町中心部への距離がそこまで変わらないので、自治センターで何かサービスがあったとしても利用するかどうか分からない。
	その他	自治センターで住民票や印鑑証明がとれれば、中心部まで行かなくて済む。簡単な手続き書類は、中心部まで行かないで自治センターへ預けて、仮の受付をしてもらい自治センターがまとめて中心部へ届けてくれる。
		西大田にもコンビニが欲しいです
津久志地区	交通・移動手段（自家用車）	なし
		特になし。
	自治センターの活用（公共交通以外）	この先、車の運転ができなくなった時、週1、2回位でも地域の自治センターから中心部への車の乗合があったらどうかなと思います。が…。
		送迎のボランティアと送迎希望者のマッチング。（自家用車での送迎を可能にする制度～保険など）
山福田地区	自治センターの活用（公共交通以外）	自治センターでサロン続けて行きたいです。
		今現在未活用のため、何とも言えません。
		家から中心部へのアクセスは遠いです。自治センターは子供の習い事（バイオリン、プログラミング、珠算、ピアノ、セイワの英語、eスポーツなど）などをしていただけると使うと思います。（値段にもよりますが…）

表 各地域の自治センターの有効活用方法についての意見 回答一覧（4/4）

回答者の居住地区	カテゴリ	回答内容
山福田地区	その他	今現在、自治センターの役割が分からない。何の為にあるのか分からない。何の為にあるのか分からない自治センターを税金を使って新しく建設するというが、河川のすぐそばに、しかも人も減少しつつある地区に新たに建てる必要は全く無く、税金の無駄使いにしかならないと考える。山福田地区在住の50代会社員。決まったものはしょうがないのかも知れないが、自治センターの建設にまわす費用があるなら、本当に困っている人々に寄り添う費用にまわした方がいいのではないかな。
小国地区	交通・移動手段（バス）	格安（無料）バス、福祉バス通学バス等の交通機関の整備をお願いします。でも自宅から自治センターへの移動も年齢によっては難しく、課題だと思います。（一人暮らし、介護（支援）の必要な方）
	交通・移動手段（タクシー）	小国自治センターに職員として運転者がいて、定期的に車が出られる状態になったらいい。 せらまちタクシー
	利用しない等	小国の老人施設でお世話になっているので、大抵の事は間に合っています。
	その他	地域住民の意見を聞いてほしい…。特に高齢者外との交流が少ないので…。 中心部に無くても良い施設に関しては、14、行政窓口以外は全てなくても良いと感じます。 また、旧町の区割りで運営を考えるのはやめていただきたい。どの施設も同じ条件で利用できるのが望ましい。特に投票に関しては町内どこでも大丈夫なはず。今の時代、データ管理でできるはずと感じます。なんなら自宅で投票が1番良い。それについては、出掛けるメリットがない。
津名地区	交通・移動手段（タクシー）	小型の電気自動車送迎（狭い道等、小回りが出来る車）
	交通・移動手段（その他）	三次方面（サングリーン）あたり迄位。月一回でも…町中心部ではありませんが。
	その他	それ以前に自治センターの在り方自体を見直すべきではないのか？役員に過剰に負担がかかり、その役員にも高齢化が進む。抜本的な見直しをお願いしたい。
黒川地区	交通・移動手段（バス）	町外へのアクセスを利用できるようにしてほしい バス運行時間帯と運動とか。 自治センターを経由して中心部へ行くバス等あればよいと思います。長距離の自動車の運転が心配な高齢者も、近くの自治センターまでなら気軽に行けるし、駐車場もある。
	交通・移動手段（タクシー）	今まで通り自治センターの車で送ってほしい。くるりん号はやってほしい。私達が車運転できない日はくるのだから。 自治センターの方にATM等連れて行って頂いていますが（黒川内）町内に広げて頂ければ嬉しいのですが（1時間いくらと）世羅町タクシーも（休日運休）で便利が無い時もあるので。
	交通・移動手段（その他）	自動運転車が何台か自治センターにあり、いつでも行きたい所に行けたらいいなと思います。 遠慮なく利用できるような体制にしてもらいたい。
	自治センターの活用（公共交通以外）	・各クラブ、敬老会などの活動内容を充実させて日頃から有効的に使用する。（災害訓練、災害食、寝具組立、宿泊）・グランドゴルフの大会イベント、料理イベント・各センターの車両を地域外でも運用できるようにする。利用者の多い地域に応援に行けるようにして運用する。
	その他	毎年（毎回）定期的な提出資料は自治センターに依頼（高齢化の為）浄化槽関連、町道草刈り、その他中山間、多面的資料等 ニーズをよく調べて計画する。
	無し、わからない	特にありません。 私の住む黒川地区はやがて人の住める地域ではなくなるでしょう。将来は町外に住む、子供の近くに住むことになるうかと思っています。世羅町に特に期待することは何もありません。 なし（奥田町長はすばらしい。全面的に応援します。以上） ありません よくわかりません
	交通・移動手段（バス）	バスを本通を通してほしい。
	その他	自家用車で自立が一番アクセスが楽です。そういう人は元気な若者、元気なお年寄り、お金の余裕のある人です。そして家族の愛がある人です。車もない、お金もない、あっちこっち痛い年寄りにアクセスもへったくれもありません。早くあの世から迎えが来ないかと毎日願っています。法律で安楽死を希望する人はどうぞ、というワクワクするものが出来ないのでしょうか？真っ先に申込みます。人口が減少して年寄りばかりの世羅になる日はいつか？身動きできません。若い人もいつかこんな気持ちわかってくれる時が来る。必ず！！この世が地獄かもしれません。弱者は。長生きしてたら葬式をあげてくれる人間もいなくなる。クワバラクワバラ
地域の回答なし	交通・移動手段（バス）	

2－3 日常の移動について

◎今後、一層の高齢化の進行に伴い、自家用車の運転操作に不安を抱く方が増加することが考えられます。一方、人口減少が進み公共交通の利用者が減少していくと、公共交通の維持に関する負担が大きくなることが懸念されます。

以上を踏まえ、以下の設問にお答えください。

問8. あなたの世帯における自家用車の所有状況はどうか。(一つだけ)

自分で自由に使える自家用車がある回答者と、家族用の自家用車がある回答者は合わせて9割強を占めています。一方、自家用車を所有していない回答者は1割未満となっています。

地域別に見ると、津久志地区で自家用車を所有していない回答者の割合が比較的高く、1割強となっています。

年代別に見ると、80代以上で自家用車を所有していない回答者がほかの年代と比べて多く、1割台半ばを占めています。

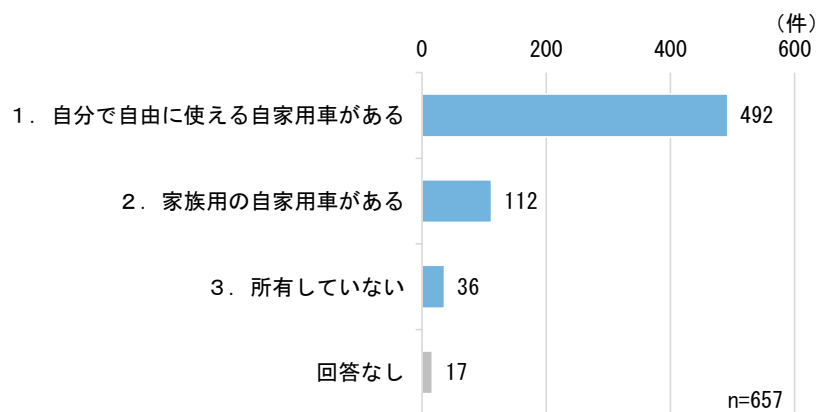
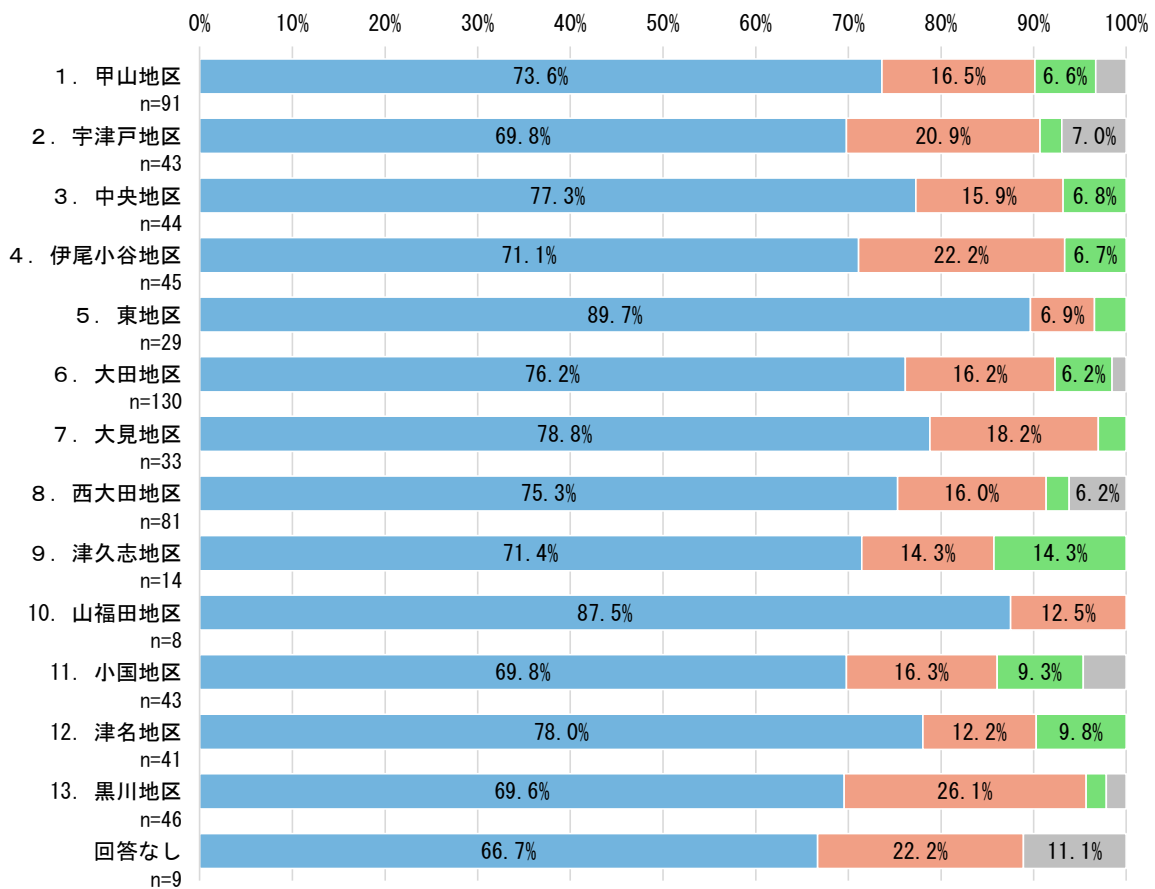


図 自家用車の所有状況

【地域別】

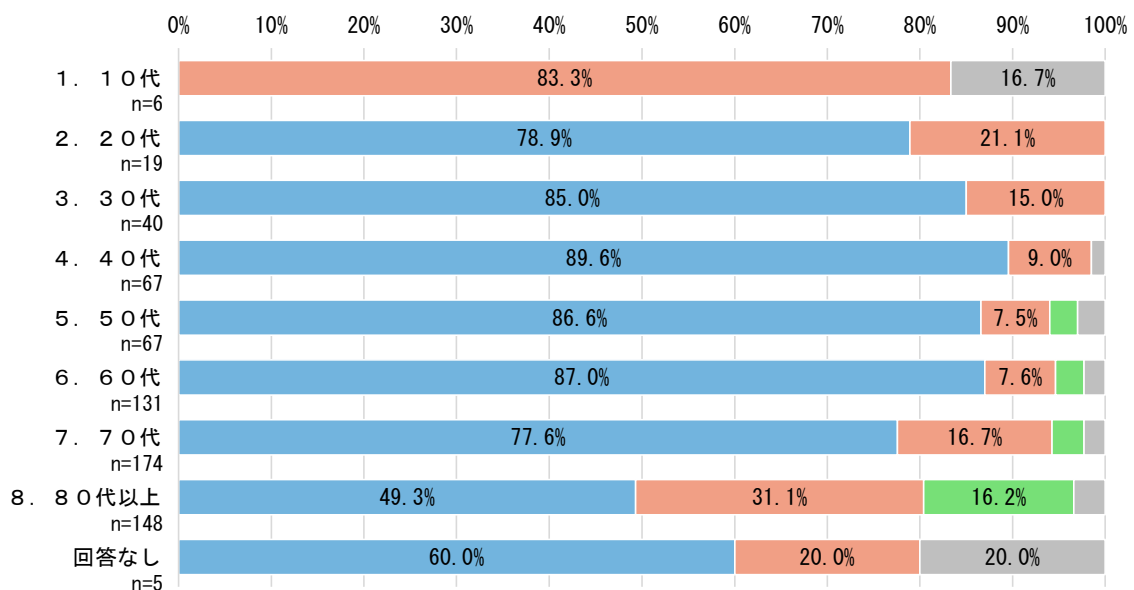


■ 1. 自分で自由に使える自家用車がある ■ 2. 家族用の自家用車がある ■ 3. 所有していない ■ 回答なし

※5.0%未満のラベルは省略

図 地域別 自家用車の所有状況

【年代別】



■ 1. 自分で自由に使える自家用車がある ■ 2. 家族用の自家用車がある ■ 3. 所有していない ■ 回答なし

※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 自家用車の所有状況

問9. 外出の際に気兼ねなく送迎してもらえる人がいますか。(一つだけ)

送迎者の有無は、「いる（同居の親族）」の回答が最も多く、また、送迎者が「いる（同居の親族）」、「いる（別居の親族）」、「いる（親族以外の知人等）」と答えた回答者は合わせて7割台半ばを占めています。一方、気兼ねなく送迎してもらえない回答者は2割弱となっています。

地域別に見ると、山福田地区、大見地区、津名地区で気兼ねなく送迎してもらえない回答者の割合が比較的高く、山福田地区では4割弱、大見地区、津名地区では3割程度となっています。

年代別に見ると、20代ではすべての回答者が気兼ねなく送迎してもらえると回答しており、他の年代では気兼ねなく送迎してもらえない回答者が2割前後となっています。また、送迎者がいる回答者は、全ての年代で同居の親族が最も多くなっていますが、80代以上では送迎者が別居の親族である割合が2割弱と、ほかの世代に比べ大きくなっています。

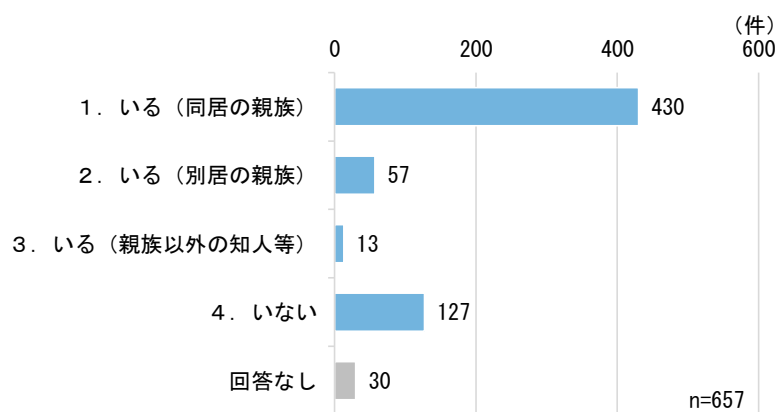
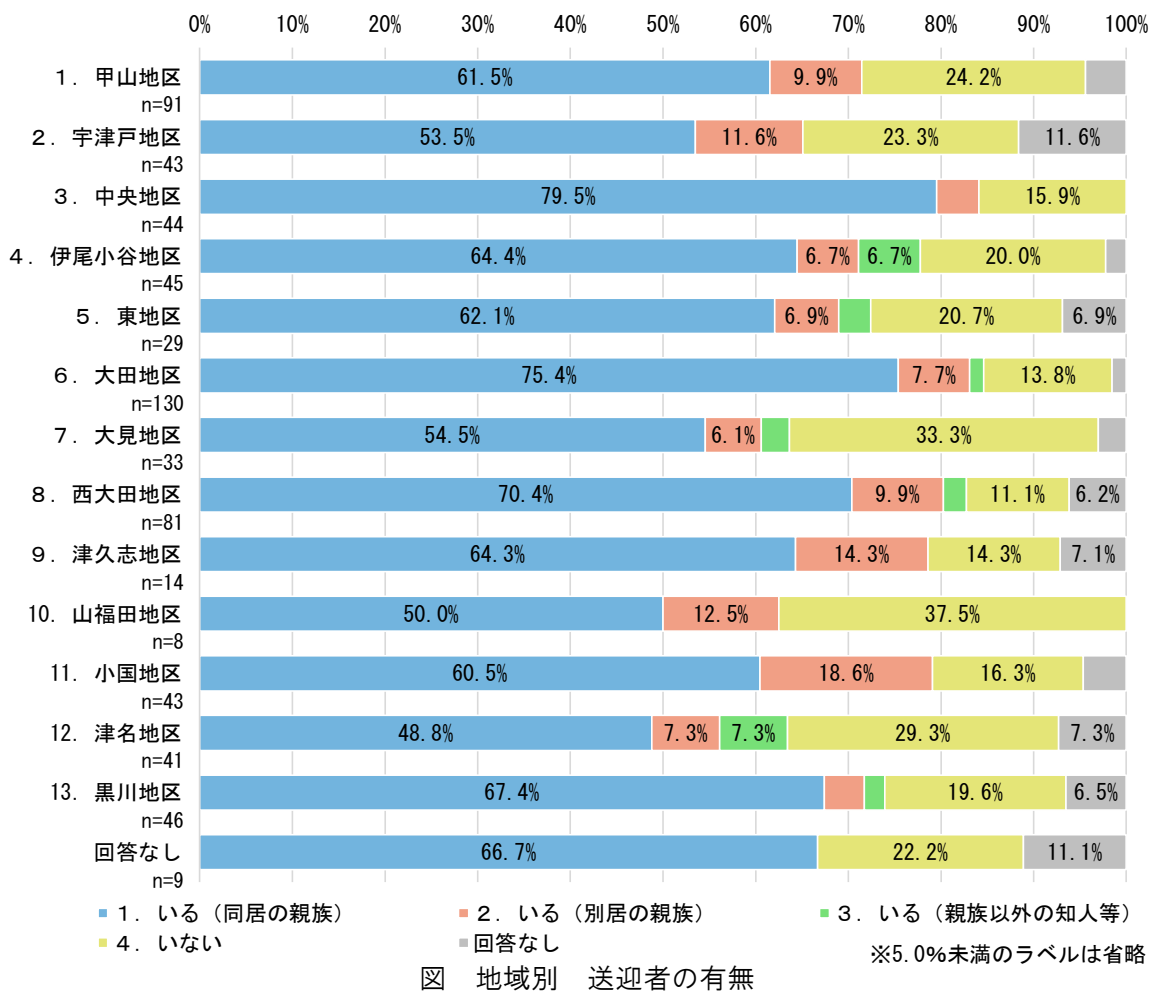
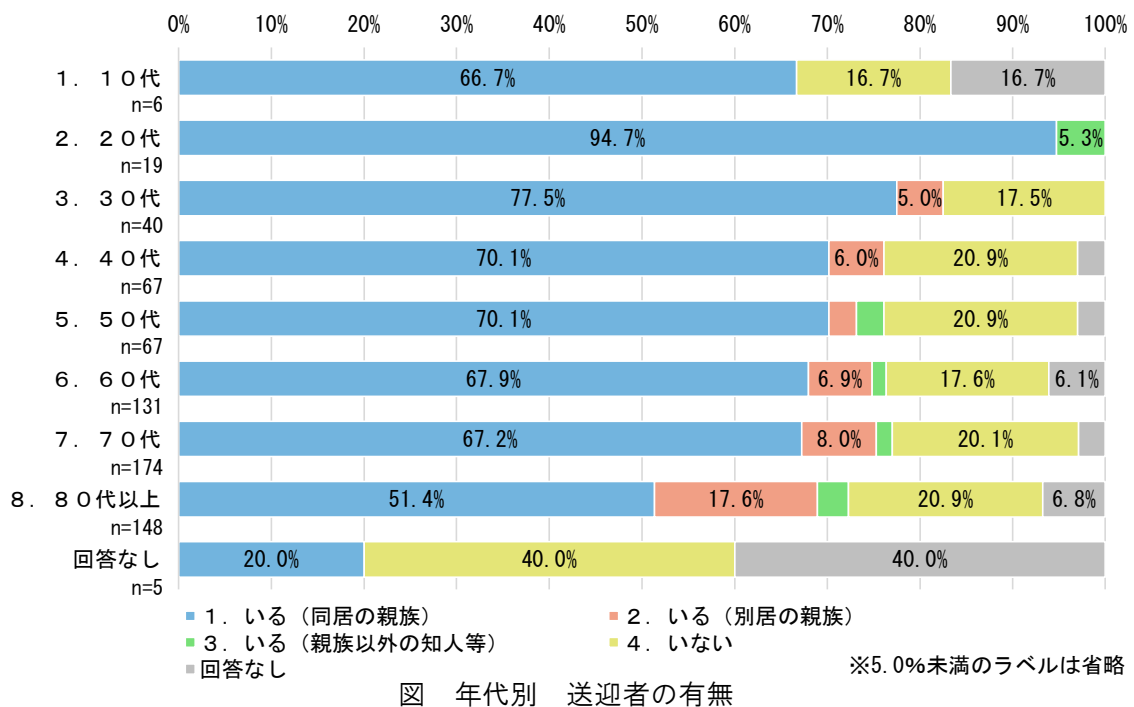


図 送迎者の有無

【地域別】



【年代別】



問10. 現在、町の乗合タクシー（せらまちタクシー）を利用していますか。（一つだけ）

せらまちタクシーの利用有無は、「利用していない」が9割弱を占めています。

一方、せらまちタクシーを利用している回答者は全体で1割未満となっていますが、地域別に見ると、津久志地区では2割を超えています。

年代別にみると、せらまちタクシーを利用している回答者は、年代が上がるほど高くなっており、80代以上では2割弱を占めています。

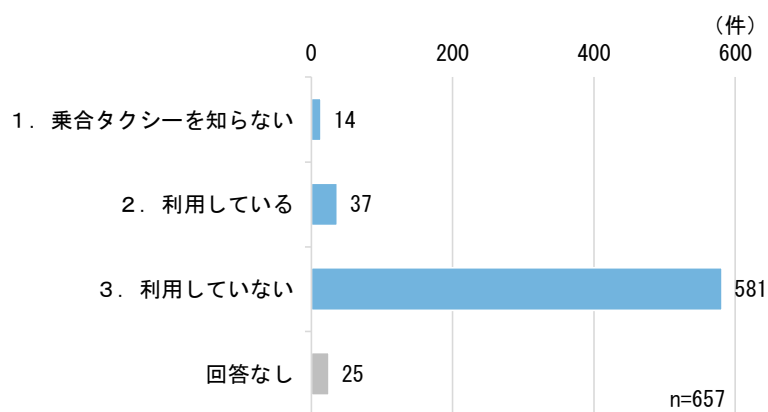


図 町の乗合タクシー（せらまちタクシー）の利用有無

【地域別】

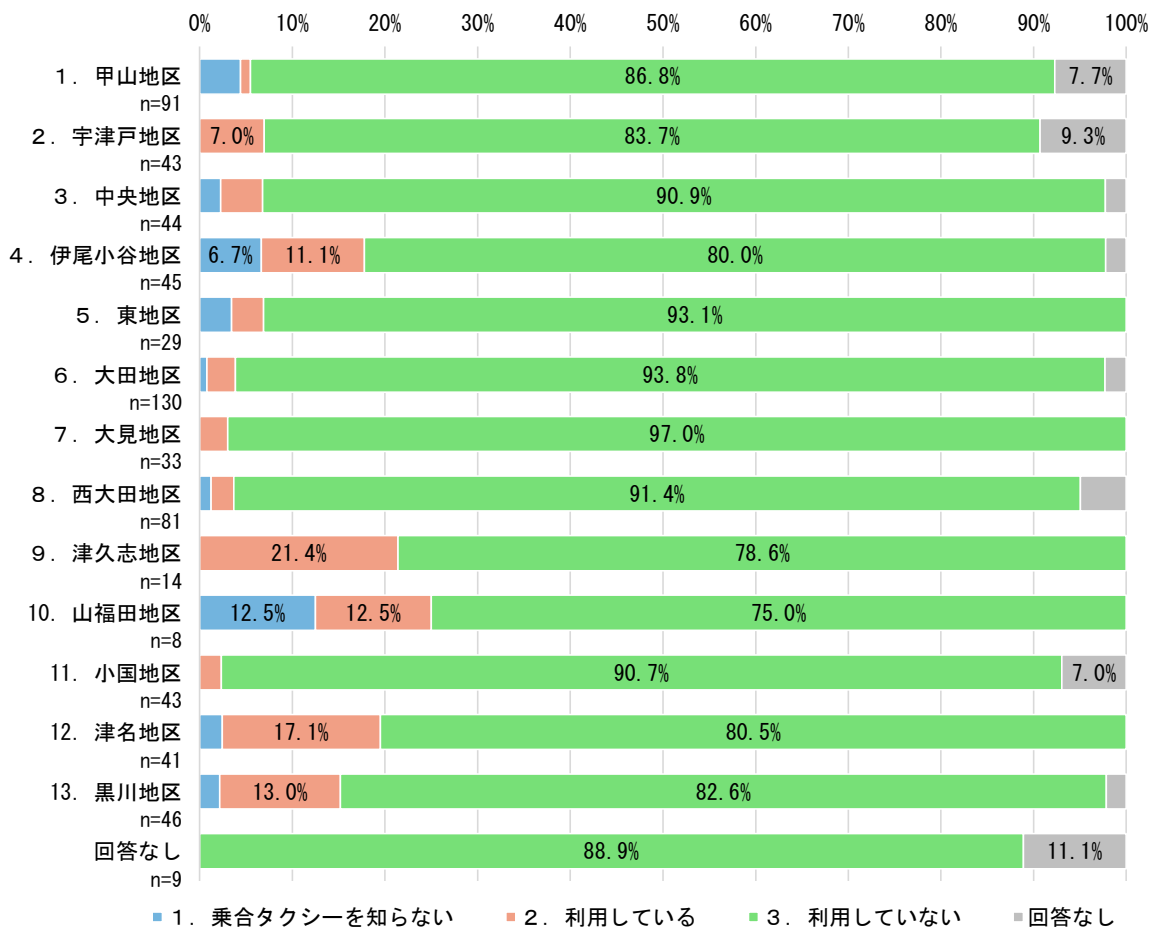


図 地域別 町の乗合タクシー（せらまちタクシー）の利用有無 ※5.0%未満のラベルは省略

【年代別】

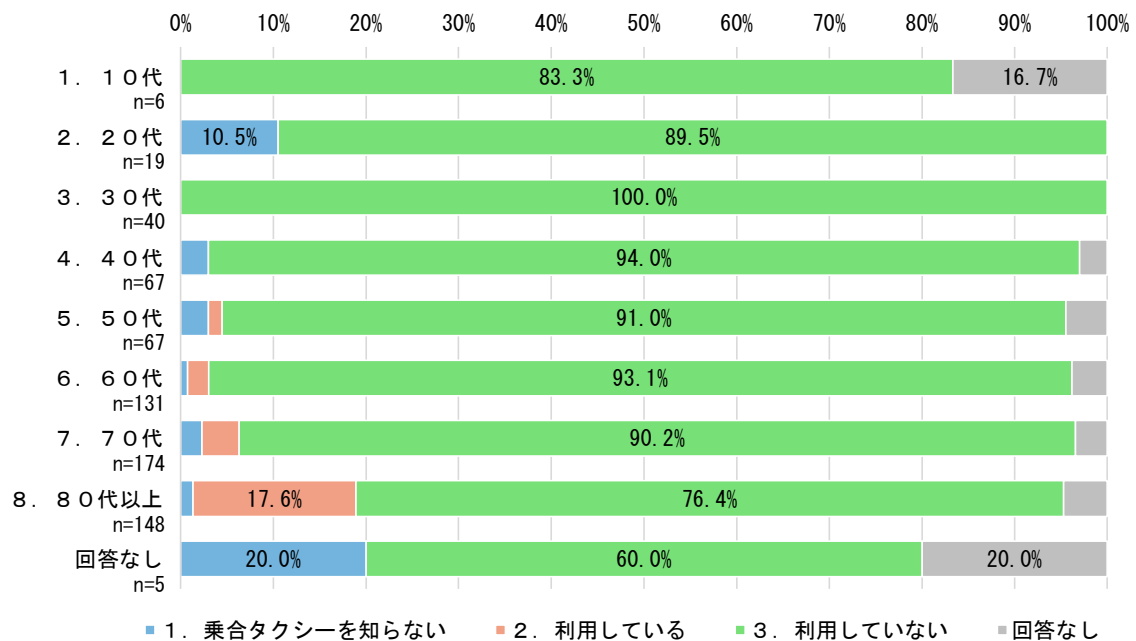


図 年代別 町の乗合タクシー（せらまちタクシー）の利用有無 ※5.0%未満のラベルは省略

**問10-2 問10で「3. 利用していない」と回答した方にお伺いします。
現在、乗合タクシーを利用しない理由は何ですか。（一つだけ）**

せらまちタクシーを利用していない理由としては、「必要ないから」が9割弱と大半を占めています。

地域別にみても、すべての地区で「必要ないから」が最も大きい割合を占めていますが、宇津戸地区では「運行時間帯が限られており自分が利用したい時間帯に間に合わないから」が1割台半ば程度と、他地区よりも大きい割合を占めています。

年代別でも、すべての年代で「必要ないから」が最も大きい割合を占めていますが、10代では「利用方法が分からないから」が4割、80代以上では「運行時間帯が限られており自分が利用したい時間帯に間に合わないから」が1割強を占めています。

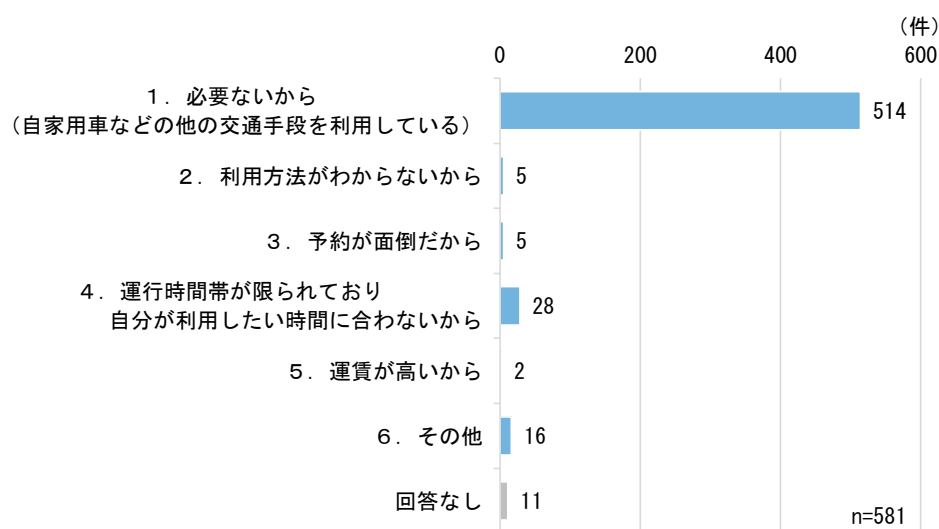


図 町の乗合タクシー（せらまちタクシー）を利用しない理由

【地域別】

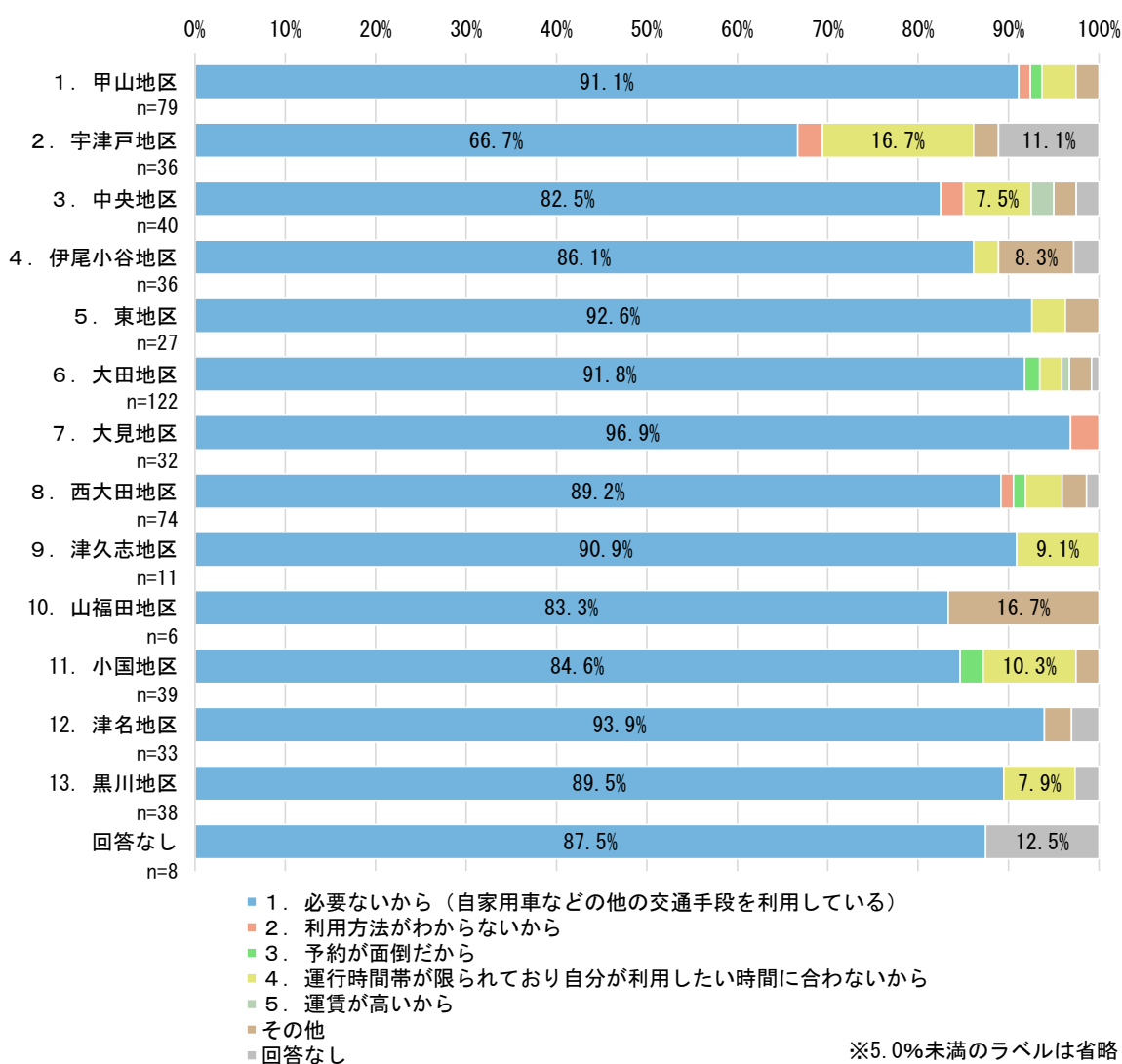


図 地域別 町の乗合タクシー（せらまちタクシー）を利用しない理由

【年代別】

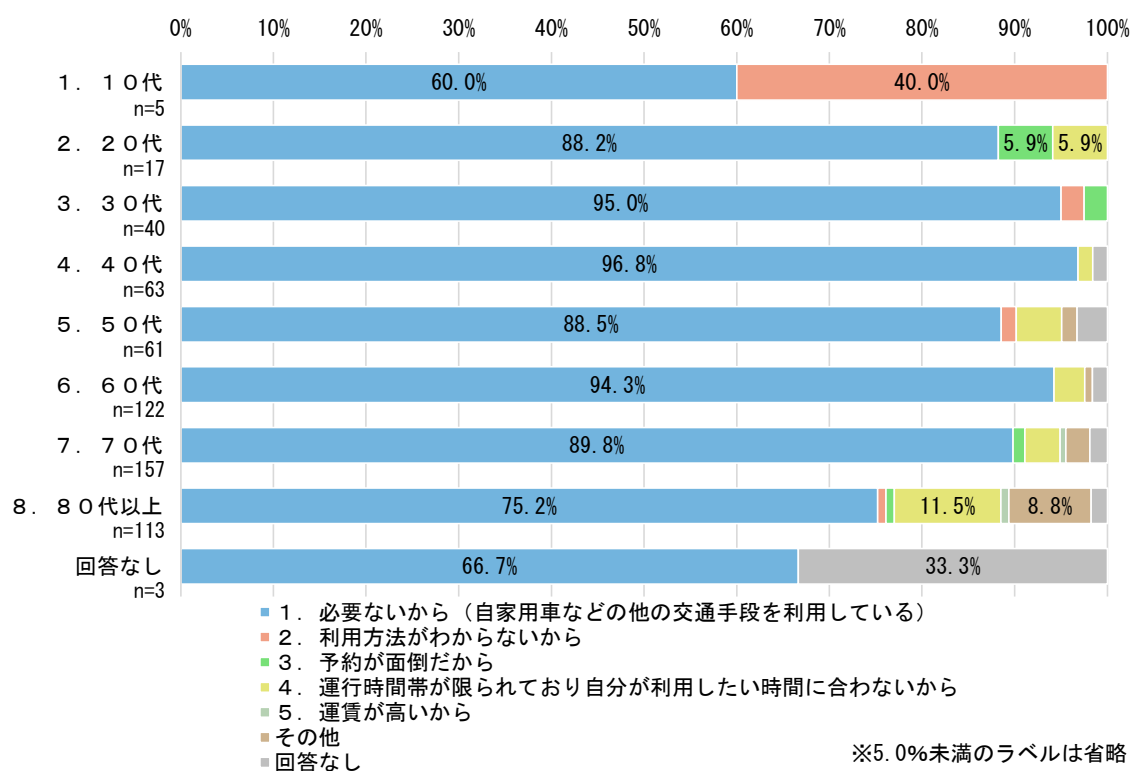


図 年代別 町の乗合タクシー（せらまちタクシー）を利用しない理由

問11. 徒歩による移動時間についてお伺いします。

スーパー、金融機関、医療施設、バス停などに徒歩で行こうとする場合、何分まで（所要時間）であれば徒歩で行きますか。（一つだけ）

※歩行が困難な方は、1.を選んでください。

徒歩による移動時間は5～10分程度が3割台半ば、0～5分程度が2割弱を占めています。

地域別にみると、山福田地区において、20分程度と答えた回答者の割合が6割強と顕著に大きくなっています。

年代別にみると、徒歩による移動時間が10分以上の回答者は10代が5割で最も多く、80代以上が2割半ばで最も少なくなっていますが、20代～70代では年代が上がるごとに割合が大きくなっていく傾向がみられます。

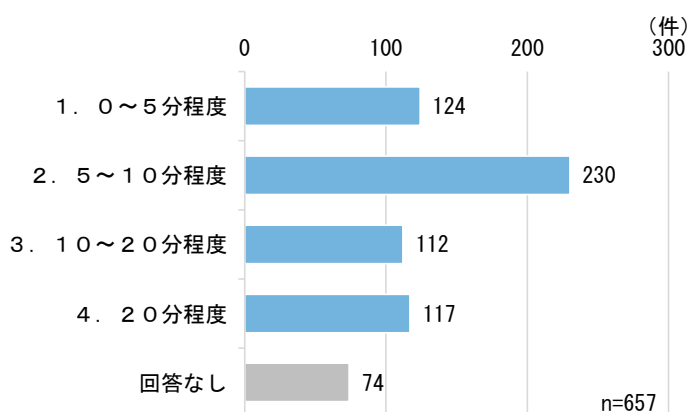


図 徒歩による移動時間

【地域別】

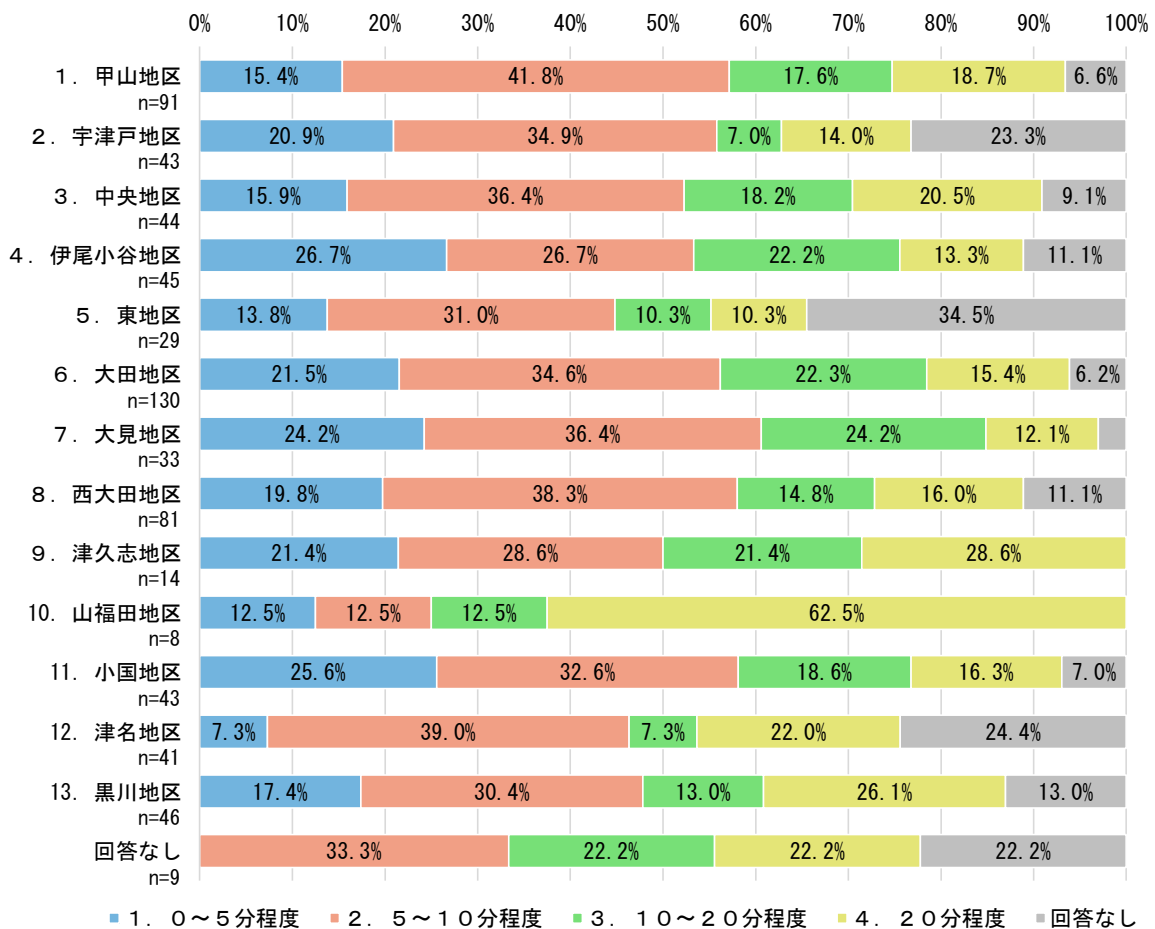


図 地域別 徒歩による移動時間

※5.0%未満のラベルは省略

【年代別】

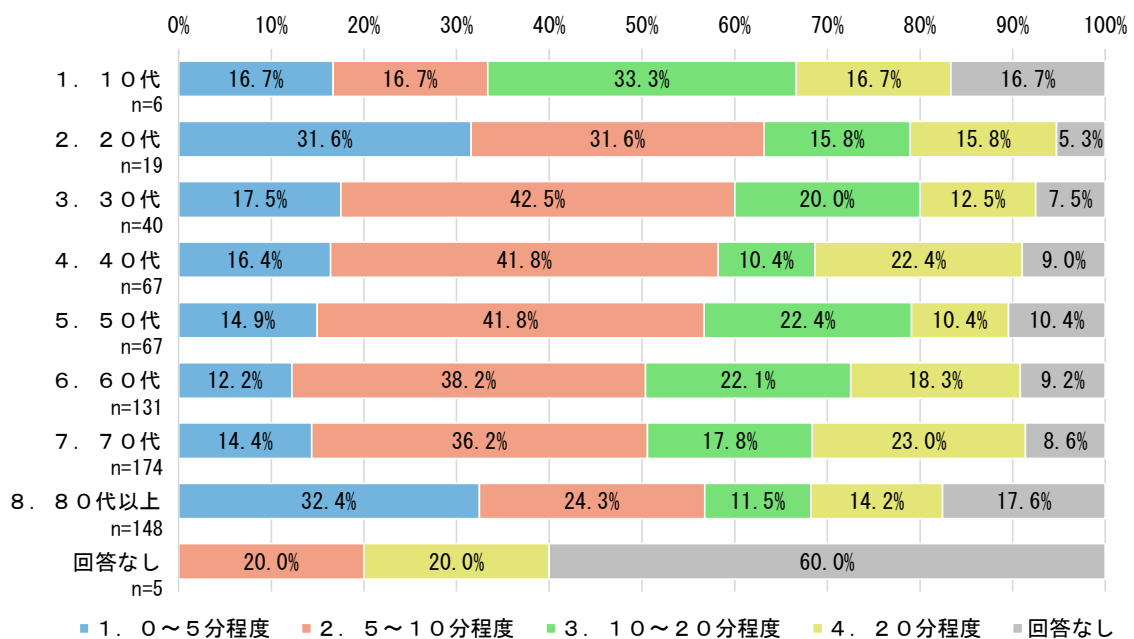


図 年代別 徒歩による移動時間

※5.0%未満のラベルは省略

2-4 世羅町の居住と災害対策について

◎近年、気候変動の影響により頻発・激甚化する自然災害への対策が全国で大きな課題となっており、世羅町においても、雨や地震による土砂災害が発生するおそれのある地域が多く存在しています。これらの地域には既に皆様のお住まいや都市機能（医療、福祉・子育て、商業施設等の暮らしを支える施設）も一部立地しているため、今後、居住地としての在り方や適切な災害対策を検討していく必要があります。

以上を踏まえ、以下の設問にお答えください。

問12. 災害のおそれがある地域における、住まいや都市機能（医療、福祉・子育て、商業施設等の暮らしを支える施設）の立地の在り方について、あなたの考えに近いものはどれですか。（一つだけ）

「行政による防災対策には限界があるため、災害のおそれがある地域での新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべき」と答えた回答者が最も多く、3割強を占めています。

一方、「災害のおそれがある地域であっても、住むかどうかは町民の判断とし、行政が規制すべきではない」との回答も2割弱を占めています。

地域別では、宇津戸地区、大田地区、津久志地区において、災害のおそれがある地域の住まいや都市機能の集積を抑制すべき、新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべきという回答が合わせて5割を超えています。

年代別では、40～50代において、災害のおそれがある地域の住まいや都市機能の集積を抑制すべき、新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべきという回答が5割を超えている一方、10代、80代以上では3割強と比較的低くなっています。

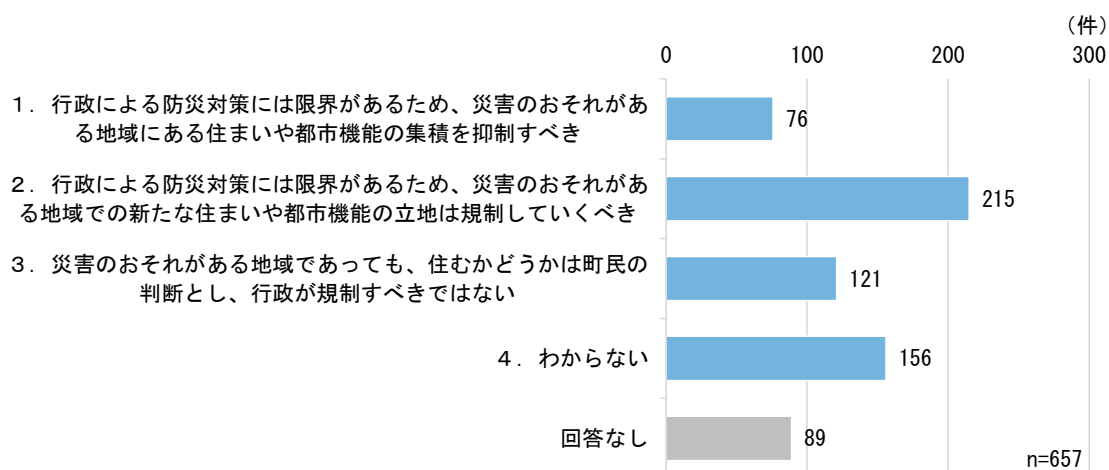
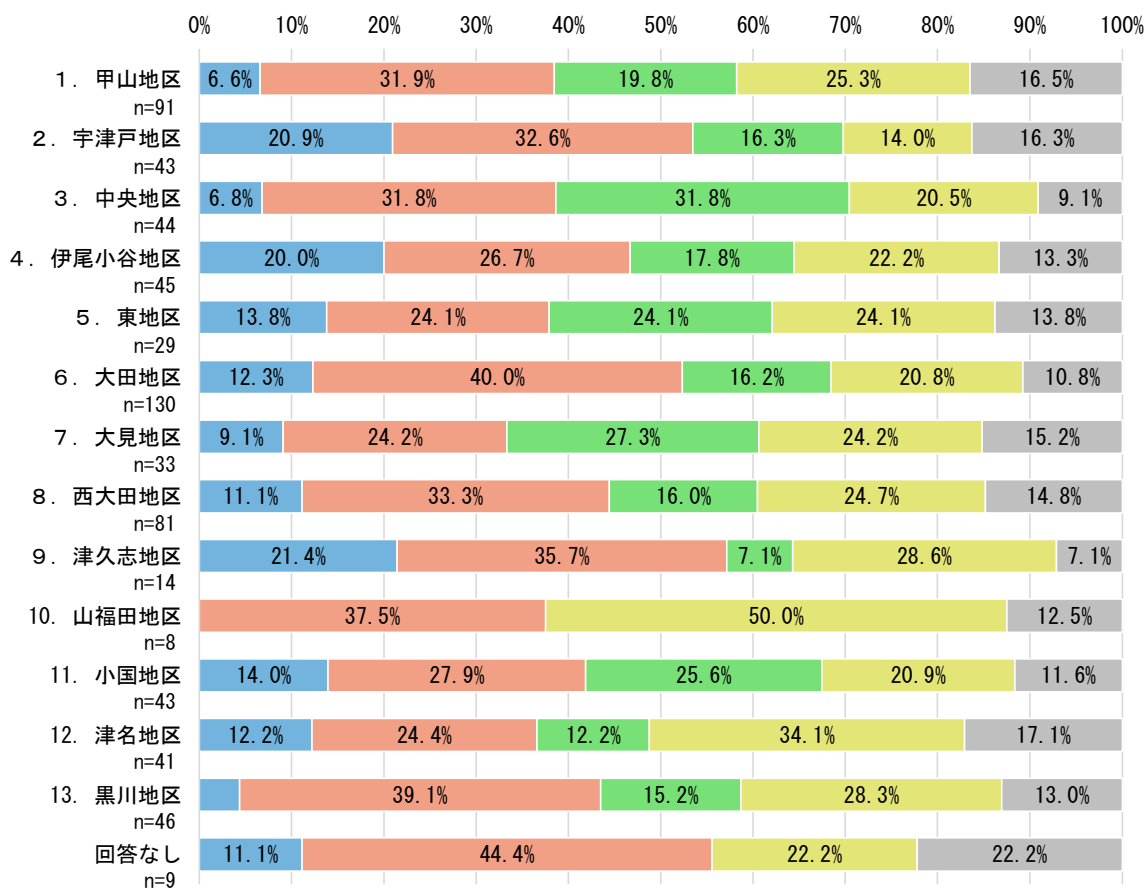


図 住まいや都市機能の立地の在り方について

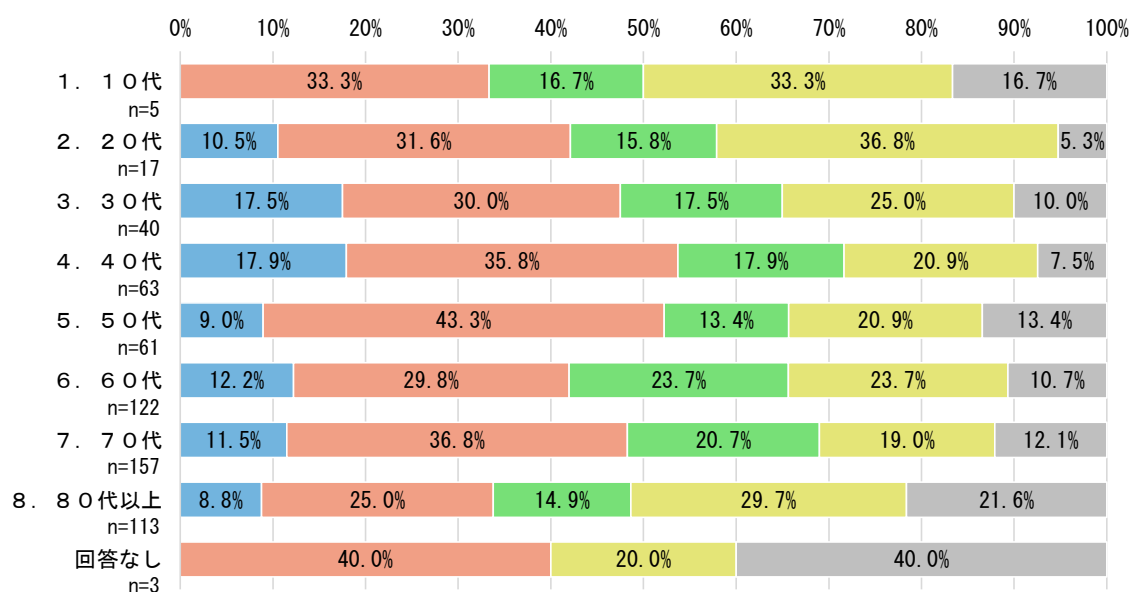
【地域別】



- 1. 行政による防災対策には限界があるため、災害のおそれがある地域にある住まいや都市機能の集積を抑制すべき
 - 2. 行政による防災対策には限界があるため、災害のおそれがある地域での新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべき
 - 3. 災害のおそれがある地域であっても、住むかどうかは町民の判断とし、行政が規制すべきではない
 - 4. わからない
 - 回答なし
- ※5. 0%未満のラベルは省略

図 地域別 住まいや都市機能の立地の在り方について

【年代別】



- 1. 行政による防災対策には限界があるため、災害のおそれがある地域にある住まいや都市機能の集積を抑制すべき
 - 2. 行政による防災対策には限界があるため、災害のおそれがある地域での新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべき
 - 3. 災害のおそれがある地域であっても、住むかどうかは町民の判断とし、行政が規制すべきではない
 - 4. わからない
 - 回答なし
- ※5.0%未満のラベルは省略

図 年代別 住まいや都市機能の立地の在り方について

2-5 これからの都市計画について

問13. コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについて、ご意見がありましたらお聞かせください

この設問に対して、149 件の回答がありました。寄せられた意見等は、以下の通りです。なお、回答内容が複数のカテゴリに分かれる場合、回答内容を分割して各カテゴリ内に記載しています。

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見（概要）

「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに賛成・・・6 件 ●「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに賛成です。世羅町がこれから先持続可能な町であるためには、中心地にある程度の人口や公共施設などが集まっている方がいいと思います。 ●とても良い考えだと思います。安心安全で暮らせる為に必要だと思います。
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに対して慎重、否定的・・・17 件 ●都市計画区のみが集約しすぎて、外部地域は居住者が全くいなくなり、家や耕作地がなくなり山林は荒れてくる方向に行く様な気がする。 ●コンパクト・プラス・ネットワークの概要を見ましたが、私は反対です。何故なら、田舎特有の家と家との遠からずも近からずな距離感が、外部からの移住者にとって魅力の一つではないかと思うからです。
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに対して賛成とも反対とも言えない・・・9 件 ●コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの考え方も必要だが、世羅町では過疎・高齢化が深刻なため地域住民がいつまでも住み慣れた地域で生活してゆくための取り組みも必要。 ●古くからの概念で「生まれた地を離れたくない」意識があり、父、母と共に暮らした思い出もある。将来的には町もコンパクトにする必要がある事もよく理解できるが…。
拠点や今後維持・新設を希望する施設等について（中心部もしくは場所の言及無し）・・・14 件 ●個人的な意見ですが、三次市の市内地（サングリーン周辺）には全国展開の店舗がそれぞれ店を構えている（青山やメガネ店他）が、来客数はいずれも少ない現象があるので地域に集中して様々な店や施設を集めてもどうなのだろうと思う。東広島市の新しくできたゆめモール西条のようなクリニックと店舗の敷地が一体になったような複合型施設の方が賑わう気はします。
拠点や今後維持・新設を希望する施設等について（道の駅周辺）・・・2 件 ●道の駅の周辺等に公園、ドッグランなど観光資源を生かした町づくりを目指していけばいいと思います。が、どうでしょうか？
今後のまちづくりの全体的な方向性について・・・17 件 ●人の顔が見えるような繋がれる仕組みがほしい。 ●自助、共助、公助それぞれがバランス良く機能する町づくり。
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりの進め方（手法、心構えなど）について・・・9 件 ●今時点で市街地に居住していない人たちに理解を得られる工夫をして頂きながら、そのまちづくりを進めていってもらえたらありがたいです。
道路や公共交通の維持・拡充を望む・・・15 件 ●病院や行政、スーパーなどがまとまっていることで、少ない移動で用事が短時間でできる点は良いが、高齢者が安心、安全に行き来できる移動手段が現時点では確保されていないように思う。車を自由に使用できない人は不便で、自身も高齢になった際、免許を返納できるか不安がある。
スーパーの維持・誘致等を望む・・・4 件 ●大型食料品店（スーパー）が世羅地区に集中しているが、甲山地区にもスーパー食料品、日用品の店があってほしい。現在あるスーパーは近いが商品がそろっていない為、不便である。
定住が進む・若者が住みやすいまちづくり、子育てしやすいまちづくりを望む・・・16 件 ●働く場を作って世羅町に人が集まるようにしないとどんどん人口が減っていくと思う。
その他（まちづくりや政策、地域に対しての意見）・・・15 件 ●空家の外は大きな草で火災に成った時は住んで居る家迄火災になりますので、空家をなんとかしてほしいと思います。
その他（本アンケートの趣旨からやや外れていると思われるが、まちづくりや政策、地域に対しての意見）・・・11 件 ●（将来）地域の維持の為に役員が多すぎる。生活するのにかえって負担になっている。役員の在り方見直しは、早急に考えてゆくべき事だと思います。
本アンケートや政策の進め方、情報開示について・・・16 件 ●こういったビジョンがあるのか、進捗はどうなっているのかなど定期的な共有、または情報の発信があれば興味を持つ人は増えるのではないのでしょうか（広報、SNS、HP、TV など）。私はこのアンケートを見るまで知りませんでした。

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧(1/11)

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに賛成	「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに賛成です。世羅町がこれから先持続可能な町であるためには、中心地にある程度の人口や公共施設などが集まっている方がいいと思います。	甲山地区
	町が土地を出してでも過疎地域の人を街の中心部に移住してもらって利用の少ないインフラを少なくして維持しなくてもいいようにしてほしい	宇津戸地区
	町自体をコンパクトにすべきである。	東地区
	とても良い考えだと思います。安心安全で暮らせる為に必要だと思います。	大田地区
	とても良いことだと思います。	地域の回答なし
	これだけ一気に少子高齢化が進み、限界集落が増えると町をコンパクト化しないと維持できなくなると思います。子ども達への過度なふるさと学習は逆に重荷になるような気がしています（個人的に）。	地域の回答なし
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに対して慎重、否定的	三原市から越してきましたが、今の家が住みやすくて離れたくありません。全ての世代がより良い暮らしができる町になることを願っています。	甲山地区
	山間部では無理なのよね。	甲山地区
	イメージがわからない 一部だけが機能して外れは生活が大変そう	宇津戸地区
	都市機能の誘導により周辺の過疎化は一段と進み、公共交通だけで周辺の暮らしが維持できるとは思えない。今ある学校・JAも統合、廃止も考えられる（予想できる）中で、集落の機能はどうやって維持できるのか。維持できない。自治センターの有効的活用と言われているが、現在の施設・人員では期待できない。公共交通ネットワークもぼんやりしたもので、きめ細かく未来永劫に保障されるのか疑問。	中央地区
	こんなことで町がよくなると思えない	中央地区
	都市計画区のみが集約しすぎて、外部地域は居住者は全くいなくなり、家が耕作地がなくなり山林は荒れてくる方向に行く様な気がする。	大田地区
	ムダな努力はやめましょう。	大見地区
	コンパクト・プラス・ネットワークの概要を見ましたが、私は反対です。何故なら、田舎特有の家と家との遠からずも近からずな距離感が、外部からの移住者にとって魅力の一つではないかと思うからです。かく言う私もその距離感を魅力に感じた一人です。ハザードマップにて、危険と判断された住宅には新規の居住者を入れないようにし、現在住んでいるのであれば、町営住宅への案内をする程度の集積化で良いと思います。	西大田地区
	今は車の運転が出来るが、年齢が行けば交通不便になる。タクシー代がかさむのは困る。	西大田地区
	「コンパクト～」のまちづくりは、図上で考えたら理想的であるが世羅町の現状では難しいのではないかな。	山福田地区
	・せらにしの拠点は必要。 ・拠点は複数3ヶ所くらい。 ・「コンパクト・プラス・ネットワーク型」なら世羅町以外に住みたい！何も田舎の上に世羅町の良さが無くなり、中途半端な住居を作っても無ダ！世羅町らしい方法を考えて下さい！ ・暮らせなくなった希望者が住むのは良いかと思う。元気なうちは自由にのびのびしたい。	小国地区
	災害のおそれのある地域に居住していても、昔からの自分の土地であれば移住は出来ない。新しく家を買うお金もなく、引越のお金もなく、家賃を払うお金もなく移動は出来ない。	小国地区
	それぞれの地域・地区に文化や伝統があり、地域によって人柄や考え方も異なっているので、集約的都市構造など出来る訳がない。逆に中心部のみ発展し、周辺地域の衰退を早める事になりはしないか。町・県でできる事は限定的であり、国が根本的に考え方を変えて少子化対策をやる事がこの問題の本質です。	津名地区

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧（2/11）

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	「コンパクト・プラス・ネットワーク型」が何かは分かりませんが、住みにくいものになるのは目に見えている気がしてなりません。年寄りに寄り添いたい気持ちは分かりますが、次の世代への投資に使うべきだと思います。	津名地区
	増々高齢化、空き家、田、畑の放棄が増える。また車に乗れなくなると交通手段に困る。	黒川地区
	都市計画区域を中心としたコンパクト・プラスにすると、山間部の人々は今以上に不自由となり、山は荒れ獣は山から降りて来て、益々市街地は危険にさらされるでしょう。	地域の回答なし
	Ｉターンで都会から一転の田舎暮らしをしています。田舎ならではの隣近所との距離感が気に入っています。不便だからといって住宅を町に密集させると、山で中途半端に不便な住宅街に住んでのとは変わりなく魅力がなくなります。それなら世羅町でなくても良いとなってしまいます。アクセス不便な地域にお住まいの車の運転免許返納された高齢な方への対応の一部として、希望者には徒歩で住みやすい地域の町営住宅への案内などは良いかと思います。諦めたように町をコンパクトにする計画には賛成できません。	地域の回答なし
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりに対して賛成とも反対とも言えない	コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりの考え方も必要だが、世羅町では過疎・高齢化が深刻なため地域住民がいつまでも住み慣れた地域で生活してゆくための取り組みも必要。	甲山地区
	考え方はすばらしいと思いますが、生活水準の低い人たちの安定した生活をみだした状態もクリアしてのまちづくりが必要ではないかと思います。	大見地区
	古くからの概念で「生まれた地を離れたくない」意識があり、父、母と共に暮らした思い出もある。将来的には町もコンパクトにする必要がある事もよく理解できるが…。	大見地区
	故郷が少しずつ無くなっていくのは残念です。命より大切なものは無いのはよく分かりますが、大自然の変化も現実ですし、何を捨て何を取るか残り少ない人生でその選択は中々出来ないと感じます。これからを生きていかなければならない人達の考えにお任せするのみ…と言う思いです。	大見地区
	勉強不足ですみません。漠然としていて、今の自分の考えでは出来ません。未来設計としてはすばらしいと思いますが、現老人の未来は？少し考えてしまいます。	津久志地区
	町中の中心部にコンパクト化されるのはいいですが、家が町から離れていると利用するのも難しい。 もし、将来的に都市機能誘導区域や居住誘導区域の中に住む事になったら、土地や家のお金が高いと買えません。（もう年なので…）高い賃貸もつらいです。仕事場も増やして下さい。	山福田地区
	コンパクト化は確かに必要だが、大田への移住はしたくない（持ち家もある）。農業を手放しきれない者も多いし、完全に引退した年齢で移住すると認知症になる可能性が高いので難しい問題。農業も持ち家も手放して移住しなければならない状況になるなら、自費にならず安心して暮らせる環境でなければ世羅にこだわるメリットが何もない。医療と行政のオンライン化が進むと楽な面はある。	地域の回答なし
	「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりは、現在の過疎化が進行している世羅町の状況から必要なことと理解できます。同時に私が生まれ育ち今も暮らしている街の中心部から離れたこの里を残し、子供や孫たちが帰ってくることができる故郷を守りたいという気持ちが強くあります。また、先人たちが作り繋げてこられた、この里の不変的な物を残しながら、形を変えながらも守っていく義務感もあります。難しいバランスだと思います。今、街の中心部から離れた地域での課題は、交通・医療・教育・買い物のこともあります。田畑・山などの土地の管理が大きな負担となっています。このままでは、ほとんどの土地が荒れ果てた山野と化してしまうか、或いは太陽光発電のパネルで埋め尽くされた土地となり美しい田舎の風景は変わり果ててしまうのではないかと憂えています。このようなことも含みながら、見出しにあるような新しい施策を進め頂ければと思います。質問の趣旨とは離れて発展的な意見も出せず申し訳ございません。	地域の回答なし

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧 (3/11)

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	・ 中心に集約して管理（行政が）しやすくなるのかもしれませんが。 ・ 課題はそれをすると田畑が荒れ果ててしまうという事だと思います。荒れた田畑を元通りにするのは並大抵な事ではないのだと思います。これから人口もどんどん減りつつある中、行政としてはまとめて管理し経費削減したいのでしょうが無理にひとところに人を集めると、その軋轢がどこかで出てきて歪みが広がってゆくと思います。今のままで人々にその土地の事（管理等、草刈とかなど）は、任せておいた方がよいのではないのでしょうか。人が減りつつある事と関連があるかないか分かりませんが。私事ですが、中学生の子供は自転車通学ですが、通学路にこの時期鹿が出ます。近くで朝と夕方鳴き声もして、晴れている日もこの時期は車で送迎をしなければならず、友達との話をする時間も奪ってしまっているようで申し訳なく思っています。話はそれましたが、このように山の中の土地に管理する人々が居なくなると動物（今よく出ている熊など）も増えて、都計画地区以外の地域は動物が増えてしまい手のつけられない状況になるとも限らないです。私の知り合いは島根県邑智郡美郷町在住ですが、ここ何年とどんどん人口が減りつつあり、若い者はほとんどおらず、限界集落になりつつあるような感じですが、畑で作物を育てていてもイノシシ、さる、アナグマ、キツネ、狸等々。作物の時期になると何かしらやられるそうです。10年前には島根で見た事のなかった鹿も今年出てきたそうです。この話は10/22（日）に聞きました。	地域の回答なし
拠点や今後維持・新設を希望する施設等について（中心部もしくは場所の言及無し）	甲山自治センター周辺に運転が出来る広場がない。災害時の避難場所としても利用出来る広場をぜひ建設してほしい。高齢者のフレイル改善に役立つと思う。※町内各自治センターは学校跡地の利用可能な所が周辺にある。又、スポーツ広場があるところもある。	甲山地区
	役場周辺に生活に必要な物全てが入る建物を建てる。大規模災害が起こる事を想定した町作りを行う。ハザードマップと現実にはひらきがある為、よく「想定外」と言う言葉が使われる。	甲山地区
	ひとり暮らしのご老人が生活できる 公的居住施設が必要だと思います。	甲山地区
	小民家CAFÉとかは自由な所を作って、近くに駐車場を作ってあげる。居住・家は地区ごとに密集させるため、廃屋や空家を壊してスペースを作る。（新しい家を建てられるように）住宅密集地を中心に道路を整備する。住宅地に自治センターが近ければ、公共交通機関を運用しやすい。既居住者、土地所有者が孤立したり、動きにくくなる。土地は町が買っても良いと思う。頑張っていきましょう。	甲山地区
	人口減少で過疎化がさらに進みます。過疎化している、それに近づいている方々を、行政、医療がすばやく届く場所に移住して頂くために、土地造成する。主に老人施設活用がありますが、まだ元気だ。一人暮らししたが、隣人など頼れる方がいないなど、さまざまです。過疎化進行を更に進行を速める施策に思えますが、道路網の整備、福祉のいきわたり、緊急時の対応等々考えると又乏しい町を考えると、移住用土地造成も良案かと思いますが？特に戸数の少ない山奥に車道整備など無駄だと思いますが？	中央地区
	町中心部に居住地を制限し、インフラにかかる費用を軽減し、小学校や中学校を一つに集約し、教育環境を充実させる。また、商業地域を整備し、企業に対する減税等を行い、企業誘致を積極的に行う。	東地区
	◎若手から老人全ての町民が利用できる異年齢が「交流」が出来る全天候型の公園を作り、利用者と行政で管理する組織をつくる。自然を生かした公園。	大田地区
	中心部には週に1日でも夜間対応可能な小児科の常設、無料で子供が遊べる室内アスレチック場がほしい。	大田地区
	個人的な意見ですが、三次市の市内地（サングリーン周辺）には全国展開の店舗がそれぞれ店を構えている（青山やメガネ店他）が、来客数はいずれも少ない現象があるので地域に集中して様々な店や施設を集めてもどうなのだろうかと思う。東広島市の新しくできたゆめモール西条のようなクリニックと店舗の敷地が一体になったような複合型施設の方が賑わう気はします。観光の人もシーズンには多く来るので駐車場の問題もある施設もあるでしょうし、せらまちタクシーをUber手配で貸し切り、観光用として用意するなどいかがでしょうか。	大田地区

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧（4/11）

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	町中心部の周辺に居住区があると便利だと思います。工場等は中心部から遠くてもよいかもしれません。	西大田地区
	人が集まりやすい町づくりを目標にして。 ・各施設を集める。公共施設だけでなく生活用品（ホームセンター等も含む）、娯楽施設等を一ヶ所に集める。（例 三原、東広島等のフジグラン）又、大型の道の駅を作る。（セラ道の駅の様な中途半端にしない） ・都市計画区域内へスポーツ施設の充実（トラック競技、野球、テニス、プールを作り、オリンピックを目指すスポーツマン育成、誰でも使用出来る施設） ・一日中、時間が過ごせる町づくりを。（年齢を問わず）	西大田地区
	公共施設（介護施設） 高額な施設ではなく、低額な高齢者でも安心して生活出来る施設を何ヶ所か出来ればと常に願っています。年金も高額の人を中心でなく、低額の人を中心に考えていただきたく思います。宜しくお願い致します。（不安が一杯です）	西大田地区
	世羅町役場の駐車場が無駄に広い。あの土地を有効に使えないか。色々な施設があちこちへ点在していて、観光客は不便ではないのだろうか。	小国地区
	これから世羅がこのまま合併せずあり続けていただきたいと強く思います。 その為には甲山地区と太田地区にたくさんの人が住めるよう。宅地の開発が不可欠だと思います。 さらに可能であれば年配向けのマンションなどあれば安心して中央に住める人が増えると思います。 また甲山地区の車を運転出来ない人たちにとってパオがなくなるのは非常に困ることだと思います。歩いて買い物ができるよう、町としても誘致していただきたいです。 今必要なのは過疎地に自治センターを建てるより、中央に宅地や商業施設など助成ができるように町の税金を使っていただきたい。 今後世羅が存続できるよう。人数が多い年寄りではなく子育て世代に寄り添った行政を行ってほしい。	地域の回答なし
拠点や今後維持・新設を希望する施設等について（道の駅周辺）	道の駅の周辺等に公園、ドッグランなど観光資源を生かした町づくりを目指していければいいと思いますが、どうでしょうか？	甲山地区
	道の駅を中心とした町づくりが必要では。	中央地区
今後のまちづくりの全体的な方向性について	三原市から越してきましたが、今の家が住みやすくて離れたくありません。全ての世代がより良い暮らしができる町になることを願っています。	甲山地区
	ひとり暮らしが出来る安全な町にしてほしい。	甲山地区
	じきに高齢者となります。将来、免許証を返納する事になった時に頼れる人がいない。移動手段がない、となると家に閉じこもりがちになります。今、不安を覚えることの一つです。町民全年代で安心、安全に生活できる町づくりを願います。	甲山地区
	・居住地ばかり集中させ都市市街地風とすれば、農村地帯としての良さが失われる心配有。 ・利便性（狭い意味の生活範囲）と豊かな自然との調和を図ることは必須と考える。 ・人口減少の原因を如何に理解するかで方向、方策も違ってくると思う。「貧乏人の子沢山」今一度検証すべし。	甲山地区
	高齢化の現代、独居でも頼れるところがあるのはありがたいと思う反面、古き良きものもあるのではっと一息つける場所も残してほしい。魅力ある町づくり…難しいです。	宇津戸地区
	◎教育の充実（画一的でない内容）◎伝統文化の尊重◎効率と便利だけを求めない政策。	大田地区
	自助、共助、公助それぞれがバランス良く機能する町づくり。	大田地区

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧(5/11)

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	観光客を増やし、財政を維持することは大切だが、地域住民がこれからも住み続けようと思う町でなければ、観光事業に携わる人もいなくなる。もう少し地域住民にも目を向けてほしい。	大田地区
	ホテルの飛ぶこの町を維持したいと考えております。なるべく町にならないように、そして交通環境もあまりゴミゴミしない方がいいと考えています。できれば今のように静かな町でありたいと考えています。自然の音が聞こえるようなこの町が大好きです。	大田地区
	・人の顔が見えるような繋がれる仕組みがほしい。 ・パソコンをずっと見ているような気がするが、もう少し地域での動きがあればありがたい。	大見地区
	この計画自体知らないが、都市機能を何処かに集中させるなら近くに住む人が得をするという状況にならないようにしてほしい。	大見地区
	どんな地域でも、子供、若い人、老人が同等位になれる町づくり。	大見地区
	現在は色々な施設等が東地区（甲山）に集中していますが、西地区（小国）中央地区（西大田）等も含めてバランスのよい町づくりをしてもらいたい。特に中央地区がさみしい気がします。	西大田地区
	へき地になっても中心部に行ける車があることと、介護医療は近くで受けられること。	黒川地区
	ネットワークを活用したいが、圏外地域のため無理。中心部ばかりではなく、山間部も町内意識を高めてもらいたい。	黒川地区
	できるなら、今現在住んでいる所から世羅中心部へ住み替えるなら、町外の便利な町へ住み替えたい。そう思わせないような町づくりを期待している。	黒川地区
	私自身も一度町外へ出て戻ってきましたが、地域を盛り上げようと頑張っても限度があります。確実に人口が減っていくことを考えた、思い切った改革が必要だと思います。何をどうすればいいかは私も聞きたいくらいです。限界集落に自治センターを建てたりする行政機関にこの難問を正しく導いて行く力があるのでしょうか。 山福地区こそコンパクトシティの見本を見せて欲しかったです。	地域の回答なし
「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりの進め方（手法、心構えなど）について	今時点で市街地に居住していない人たちに理解を得られる工夫をして頂きながら、そのまちづくりを進めていってもらえたらありがたいです。	甲山地区
	我が町に誇りを持って住み続けるために、様々な年代や立場の方から意見を聞き、まちづくりに取り組みたい。	甲山地区
	細かく若い人から高齢の人まで気を配ることが大切だと思います。	甲山地区
	町中心部への転居を促進するため、補助金があると良い。	中央地区
	高齢化、若者の町外へ流出しているがすすむ中で世羅町は今後どうなるか不安がある。高齢者でなく若者達に意見をしっかりと聞いて下さい。私は良い世代を過ごしました。すいません。	大田地区
	人口減少や高齢化の進行は避けて通れない事業です。先進地視察等で我が町に合っていると思われる事例は、積極的に取り入れて頂けることを期待します。	山福地区
	よく理解出来ていないままに…機能の集約（集積）と分散が進み、機能の選択（充実と切り捨て）がおこる時、集落の現状は機能を成さない状況も見られ、小集団の統合大型化が必要で自治会活動の再編が必要となる。学校も一緒。生産機能維持（農業）は充実と荒廃の選択時、大型化の必要性（統合要）が高い。	黒川地区

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧(6/11)

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	・別の町アンケート案にも「コンパクトシティ」構想などという計画案が提案され、ほとんど考えは同じようだと思います。何か同じようなことを複数の課でそれぞれやっているみたいですね。もっと横のつながりをもってやって下さい。具体的には企画課、町民課、健康福祉課などが関係しませんか？・高齢化や防災と町づくりは大いに町づくり関連すると思う。この視点で考えると、都市機能の集約、分散も必要かもしれないけれど住民互助の活動を進めるなど、ソフト面での町づくりに力を入れることが第一に大切と思っている。人口減、高齢化…このような世羅町の現状で互いの住民が助け合い支え合う町づくりが第一であり、ハードはそれを受けて次に考えるべきものである。型（箱物作りの）だけの町づくりをすべきではないと考えているので、ソフト面での支援や手助けと行政力を入れてやってほしい。具体的には、①地域に出向いて高齢化、環境問題を考える寄り合い（話し合い）にもっと積極的な旗振りをして、町づくりはどうあるべきかを考えるような会を企画する中心に行政になる。この時にコンパクト・プラス・ネットの説明をきちんとする。②①に出された話し合いの内容を受け、それを活かすような具体策を提案する。これが行政の役目ではないでしょうか。③その具体策を実行しつつ、その結果を検証しながら次に進む。・ともあれ「PDCAサイクル」でやってほしい。このアンケートが「行政が取り組んでいますよ！」というアリバイ作りにならないことを強く思っています。現場（各地域）に出向いて行って、もっともっと具体的課題を吸い上げて実践してくださいね。机上だけで解決すべき課題でないと思っています。	地域の回答なし
	まだまだ年配の人達は住み慣れた土地から離れるのに抵抗を感じているようなので、余り無理強いせず、逆に今の内から若者層に立地適性化の必要性を説き、徐々に計画区域へ導入するのも一つの手だと思います。	地域の回答なし
道路や公共交通の維持・拡充を望む	利用者、特に周辺部の利用者にとって便利な移動手段を構築する必要があると思います。（利用者目線が第一！！）	甲山地区
	歩行者や自転車、車椅子などの利用者の為に、移動しやすい歩道や道路の整備が必要と思う。現状は若い健常者でも厳しいのでは？ たとえば、甲山郵便局の前の通りの側道は歩道ですか？狭くてアップダウンが酷いです。 また、役場の回りの道は安全とは思えません。自動車で移動される人には問題無いのかもしれませんが。 今後は、公共の小型電気自動車での小回りの可能な移動手段が出来れば良いと思います。	甲山地区
	公共交通の維持、拡充が必須。	中央地区
	移動手段の充実をもっとはかってほしい。（今後年をとっていくことを考えると…）（現在住んでいる場所から、中心部へ移って住むことは出来ない為）近くにコンビニでもあれば楽に生活できるのにと考えることもあります。	伊尾小谷地区
	福塩線の電車で移動の場合、世羅町の方に大型スーパー、コンビニ等々便利に整っておりますが、駅周辺からの世羅町迄の交通機関が無い為に、移動に困る状態です。せめて、三川駅からのバスが運行してれば大変便利かと思えます。乗合タクシーが有るとの事なので、利用方法はあるようですね！！	伊尾小谷地区
	病院や行政、スーパーなどがまとまっていることで、少ない移動で用事が短時間でできる点は良いが、高齢者が安心、安全に行き来できる移動手段が現時点では確保されていないように思う。車を自由に使用できない人は不便で、自身も高齢になった際、免許を返納できるか不安がある。	伊尾小谷地区
	交通ネットワークの転換の必要性は認識していますが、住民の立場で言えば「交通業者への補助金制度の復活=廃止代替バス運行で朝、昼、夕路線バス復活、乗車料金の補助額増等、利用者側に沿った対策が必要だと思います。高齢化社会「免許返納」で交通手段の無くなる人が多くなります。このままこの地で住んで良いのか「不安」も有ります。	東地区
	中心部もそうだけど離れた地区に住んでいる人がもっと中心部に出やすい環境を作るべきだと思う。特に高齢者、学生など交通手段がない人を中心に利用しやすい交通手段が必要だと思う。	大田地区

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧（7/11）

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	ひとつの商業施設や公共交通機関がコンパクトに揃っていれば、生活しやすい。 今のままでも過ごしやすいが、市街に行くにはまだまだ自家用車が主であるため、市外につながる公共交通機関がもっと整備されれば、より住み良い街になると思う	大田地区
	中心部より離れている地域の為には、誰でも利用できる交通手段を検討していくべきだと思います	大田地区
	都市計画も必要かもしれないが、中心につながる道路整備が必要。高速からつながる道等。	大見地区
	近い将来、自分が自分の意志で動けなくなることを思えば、免許返納をしたらタクシーチケットがほしい。乗り合いではなく。思う所で乗り降り出来て、時間も自由に。どこか1ヶ所に行けば、用事が済ますことの出来る町作りをしてほしい！！	小国地区
	中心部から離れている人、自家用車がなくても商業施設へ移動できる（不便に思わない程度のもの）が必要。	黒川地区
	自家用車を持ち続けられない（高齢化で）不安は大きい。自動タクシーへ期待。	地域の回答なし
	本通をバスを通して下さい。	地域の回答なし
スーパーの維持・誘致等を望む	スーパーマーケットを甲山地区からなくさない様に、存続がむずかしそうなので支援出来るように。	甲山地区
	大型食料品店（スーパー）が世羅地区に集中しているが、甲山地区にもスーパー食料品、日用品の店があってほしい。現在あるスーパーは近いが商品がそろっていない為、不便である。（高齢者なので東へ行ったり、西へ行ったり、店へ行ったり来たりするのは困っている。）	甲山地区
	町内中心部にあるパオ有効活用。競合が少ない為スーパーの食品・衣料品の物価が基本高いのでスーパーの誘致をして欲しい。	大田地区
	この辺はまだ自力で動ける年代なので想像がつかない。スーパーやコンビニが世羅西にあってくれたら助かる。	地域の回答なし
定住が進む・若者が住みやすいまちづくり、子育てしやすいまちづくりを望む	何とか若者が働ける場所がないと地方に残っていけない。自分の孫も高校も大学も家から出るつもりらしい。都会の給料は良くても経費もかかるのが身体で感じていないので良く判らないのだろう。どんな形でもいい若者が残ってくれる様に考えてほしい。	甲山地区
	人口減少や町の衰退を防ぐために、町外からの移住者や企業の誘致が必要だと思う。そのために、手当や補助金、移住後のサポートなどをもっと手厚くする方がいいと思う。私自身県外から移住してきた立場であり、引っ越ししてきて思うのは、周りの地域の方とのふれあいの機会がほとんどないのが寂しいと感じること。移住者や県外から来た人と地域の人とが交流できるイベントなどを盛り上げることで、みんながより住みやすい町になるんじゃないかと思う。	甲山地区
	いろいろな会の役員を決めるのが大変で、その事が原因で地域から離れて行かれる住民（特に若者）が多々おられます。若者が故郷へ帰って住み良い町、住みたい町にしてもらいたいです。	中央地区
	働く場所が少ないため定住を考えられない。工業・企業の誘致を希望	大田地区
	働く場を作って世羅町に人が集まるようにしないとどんどん人口が減っていくと思う。 小さい子供がいる世帯のために、子供が遊べる場所をもっと増やしてほしい。土日に開いている施設や公園など。子供たちが自分の足で行ける範囲の公園等は必要だと思う。	大田地区
	世羅町にて定住して働かれる工業なり施設がほしい。以上	大田地区
	人口を増やす町づくりをするべきだと思う。その為にはお金。子供が生まれたら毎月自治体はその子供名義の積立預金をし、その子供が20歳の成人式の際に全部支給する。親が使えないようにする。が、子供の将来の貯蓄を自治体とする。その分家庭の負担は軽くなる。（本来貯蓄すべきものが負担が軽くなるため）	大田地区

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧(8/11)

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	若い人の定住出来る仕事場が必要です。	大見地区
	世羅町への移住希望者を温かく迎えていきたい。	大見地区
	働く場所(工場他)が必要。仕事をする所がなければ人は集まらない。箱物はいらない？	大見地区
	・近隣都市から人が集まる町にする。(世羅の人口が増える)	西大田地区
	そんなことより全国の子育て世代全員世羅に行きたくなくらい羨ましい子育て支援してください。国単位で言われていることですが、若者にもっとお金を使えるようになってください。	地域の回答なし
	亦、現在、日本各地で町おこしが盛り上がり、それに伴い若い世代の争奪戦が活発になっていますが、そもそも分母の絶対数が確実に減少しているので、いずれ第2、第3の夕張市が現れるのは時間の問題です。少し話は逸れますが、過日ご当地の尾道ナンバーが実現する直前に突然、世羅町にハシゴを外されて話が頓挫してしまった。…と云う、一部の紳士的らしからぬ対応に大変憤りを感じております。世羅町が単独で生き残りを懸けて疲弊してしまうより、瀬戸の十字路である尾道を上手に利用して”人”を呼び込む“知恵もこれからは必要だと思います。以上	地域の回答なし
	ずっと昔、小学校を統合する話が出た時そっちの方向ではなく、若い人が来てここで子育てをすると得ですという方向で考えられたら、如何ですかと言ったのですが採用されませんでした。後にその様な政策をされた自治体をTVで放映しているのを見ました。現在、他の自治体に定住されて活動されている方は、ネットワークを自分で作る人が多い。そんな人が住みたくなる様な町作りをされてはどうですか。耕作放棄地も空屋あり、夜昼の寒暖差が色々有利な条件が揃っていますがさらにどうすれば後押し出来るかが問題です。行政として農業をどの様にお考えか知りませんが、人は食べなきゃ死んでしまうのです。それだけ農は重大な案件であるという認識が中央行政にありません。残念です。だから地方でやる気のある若者を育てて欲しいのです。	地域の回答なし
	都市計画を本気でお考えでしたら、私は若い世帯を呼び込める地域づくりに力を入れてほしいと思います。TVで過疎化した町が少しずつ人口を増やした内容として子育て施設に力を入れ、子供たちやその親たちが気軽に集える施設、公園を充実させていました。世羅は夢公園はあるものの中心部からかなり遠いし、ひだまり公園1カ所だけ、遊具少なくて砂場もない。(なぜ甲山地区や他に公園がないのか不思議です。)丘のような所で自転車に乗って遊ぶ人たちが危ない。私はいつも隣町(府中市ポムポム・イコーレ福山、三次)にわざわざでも行きます。これからの地元の人たちがうらやましい。パオの空いた一画を子育て支援課として広場を作ったらいのになあとあります。府中市は天満屋の一区画にそういった場を設けてありますよ。	地域の回答なし
	世羅町では工業団地を作って工場を誘致すると云うのは、なかなか難しい様なので住宅団地を安い土地を利用して作り、ここへ住んでもらって町へ仕事に出て行ってもらい、子育てや老後を過ごすには世羅町に限ると云う様にしてはどうかね。町内でも山間の場合、町の中心地周辺の住宅地を変えて住まれたら、世羅町は良いなあと云う事になりませんか。世羅町は災害も少ない良い町です。これをPRすれば人口減少は止まるのではあるまいか。沢山の空家、田畑、山が信じられない程安い値段で売られているのを見れば、これを何とか生かされないかなと思う。利子補給等をして20年後に定住の場合は元の値で引渡す。と云う様な事は出来ないですかね。	地域の回答なし
その他(まちづくりや政策、地域に対しての意見)	また人口減少に伴って、空き家が増加していく事になるのは周知の事実だと思いますが、空き家の民泊として利用や(農業体験などができても面白いかと)。空き家バンクへの登録にしても、要修繕状態では少し魅力に欠けるのかもしれませんが。(世羅町は良い所です。もったいない)	甲山地区
	山福田の自治センターは新しくしなくてもいいと思う。人口も減っているし。	甲山地区
	生活機能を向上させると同時に、地域の環境改善や衛生面を率先してほしい。養豚場からの悪臭問題早期解決を。	宇津戸地区

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧(9/11)

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	どこへ行くにも自家用車がないと生活に困る。このまま70代、80代になって免許の返納しなくてはいけなくなると心配。できれば徒歩で生活できる地域に住みたい。	宇津戸地区
	公害施設を早く撤退させてほしいと思います。	宇津戸地区
	小・中・高一貫校を創ってほしい。子供の低下にともない又、世羅高の定員割れを防ぐため。	中央地区
	ケーブルテレビに加入しなくても、光ネットワーク環境を入手できるようにしないと住む人は居なくなると思います。(新規で)	中央地区
	水道の供給をしてほしい。	伊尾小谷地区
	下水道について、行政からの積極的な接続等アプローチがない。普及率が上がらないと料金が上がり接続しない。コンパクトシティ形成には下水道等の整備等が必要不可欠であり、行政の積極的な対応を望む。	大田地区
	フレッツ光を通して三原ケーブルネット以外のプロバイダーも使えるようにして欲しい。	大田地区
	空家の外は大きな草で火災に成った時は住んで居る家迄火災になりますので、空家をなんとかしてほしいと思います。	西大田地区
	将来的にバスが近くにないので、乗合タクシーでしか中心部に行けなくなってもタクシーの値段が高いと使わない。狭い空間に知らない人とはあまり乗りたくない。高速道路、電車が遠い。バスの本数が少ない。夜遅い時間のバスもない。	山福田地区
	町東部を西部の格差が大きいので、西部地域程人口減少や施設の廃止等によるサービス低下に不満大。	黒川地区
	地域の自治組織に業務を移せる物は移譲する。元気な高齢者をうまく活用する。	黒川地区
	市街地を廻る「くるりんご」は搭乗者も少なく税金の無駄使いです。即刻廃止希望です。映画館など娯楽を集約するののも一つの方法ですが、世羅町全体として物事を考えなければいけないと思います。昔の様にもっと山林をきれいに手を入れて、水、空気動物とも共存出来る住みやすい町作りが必要だと思います。世羅町の山林は綺麗だなあと全国から言われる様にしてほしいですね。利便性だけ考えていてはダメです。	地域の回答なし
その他(本アンケートの趣旨からやや外れていると思われるが、まちづくりや政策、地域に対しての意見)	・現場付近にもっと多くの種類の銀行ATMがあれば便利。・移住者目線かもしれないが、横断歩道で車が止まらない率高い。(あればマナーでなくルール)・関係ないかもしれませんが、圧倒的に外灯が少ない。足りない。・カーブミラーも、もう少しあちこちにほしい。・ソーラーパネルが増えすぎて世羅らしい風景が減っている気がする。	地域の回答なし
	空地の雑草(セイタカアワダチ草)等が茂り、健康にも景観もよくないのでどうかして頂きたい。	甲山地区
	(将来)地域の維持の為に役員が多すぎる。生活するのにかえって負担になっている。役員の在り方見直しは、早急に考えてゆくべき事だと思います。	伊尾小谷地区
	免許返納した場合、他の市町に移動したい。(インフラの遅れている町では生活できない)具現化(具体的)提案がないプランでは何も見えず、自ら行動を起すしかない町です現在は。計画が遅く何らかの期待もしていません。高齢者の住むには、不便すぎる町。高齢者の運転には日々ヒヤヒヤしています。	伊尾小谷地区
	側道の草刈りが毎年適期に作業されず、自転車通学の生徒達が困っていると思います。又、刈った後の道にたまった土が取り除かれていない為、また草が生えるという悪循環が起きています。側溝のゴミもそのままです。近年起きるゲリラ豪雨などの時に災害につながると思います。側道の草刈りと同時に土除去、側溝の掃除までをお願いします。	大田地区
	1、人口減少、市町村民税減収、交付税も減収となる事が決まっているのに、今後維持管理が困難になる設備投資をするのはなぜですか?20年スパンで投資CF計算されてますか?	大田地区
	ネットワークの充実(各家庭への取付け)補助金制度	大田地区

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧(10/11)

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
	国道432号西大田バイパス事業が頓挫して久しい。県の管轄とはいえ、看過している町行政及び町会議に憤りすら覚える。その区間約1kmは時速制限30kmに関わらず、ほとんどの車が50～60kmで通過している。危険極まりない現状が続いている。諸課題解決に向けて国会、県会、町議会及び行政を挙げての取り組みをお願いしたい。私が生きている内にどうかよろしくお願いします。	西大田地区
	浄化槽を設置したいが、設置費用がかかるのもっと補助金を出してもらいたい。携帯の電波が悪い地域があるので、電波がよくなるようにしてほしい。	津久志地区
	振興区で協力して住み良い地域にする為皆で努力していますが、非協力的であげく振興区を脱退する人間に腹が立つ。	小国地区
	世羅・甲田線の県道と大規模農道との間のフルーツロード、歩道と観木帯がついていて山陽道から入ってくるお迎え道路として大変良い道路だと思うが、植えてある花木が手入れなしで花がいくらかも咲かない。あまり手入れしなくても、年に一回でも1m位で切り少し肥料を施してやればきれいな花が咲くだろうと思う。シルバーさんに頼んで毎年一回づつ手を入れられればと思います。欠株になっている所の補植するのに少し手がかかるとは思いますが、折角良い道があるので生かしてやりたいなあー。	地域の回答なし
本アンケートや政策の進め方、情報開示について	ネットワークのパイプ役となる役場職員さんに、一定期間の世羅町在住を求める。(町の実態をもっともっと知っていただきたい。)	甲山地区
	どういったビジョンがあるのか、進捗はどうなっているのかなど定期的な共有、または情報の発信があれば興味を持つ人は増えるのではないのでしょうか(広報、SNS、HP、TVなど)。私はこのアンケートを見るまで知りませんでした。	甲山地区
	・「コンパクト・プラス・ネットワーク型」とは何か。日本語で表現されたし。 ・耕作地、林野地域と居住地との関係がイメージ出来ない。	甲山地区
	カタカナの公政用語自体、意味が分かりません。日本人が理解できる日本語で説明して下さい。変な英語は理解不明です。	宇津戸地区
	立地適正化計画はいつから始め、計画の具体化はいつか示すべき。	中央地区
	竹原市でも同様な話を聞いたことがあります。全国にも同様な計画があるでしょう。成功例や失敗例など、公表して頂きたいです。	大田地区
	居住誘導区域に誘導するために、町行政はどういった具体的な施策をするのですか。具体的な施策行動が見えない。	大田地区
	兼業農家の役場職員があるが、比重が農作業に比重を置いているのではと思われる者がおり、役場職員としての自覚を高め、本来の職員としての責務が充分に果されるよう意識改革の必要が大と思われる。	大田地区
	行政がもう少し率先して周知していく必要のあるテーマだと感じました。	大田地区
	2、アンケートについて、少しで良いのでアナリティクスを学んでみて下さい。問5、6、7、12は統計学的に有意な結果が得られない問となっています。大変でしょうが頑張ってください。	大田地区
	「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくり。もう少し具体的な説明が欲しい。	西大田地区
	視力が弱いためスマホやパソコン等は使用しておりません。ガラケーだけです。QRコードやホームページで確認して下さい、と言われても確認のしようがない。	津名地区
	・もう少しわかりやすい言葉で書いてほしい。例えば問12は文章を理解するのに時間がかかった。	黒川地区
	市中心部や役場の情報をもっと分かりやすく、スピーディーに分かるようにしてほしい。町のホームページも分かりにくく、欲しい情報があまりない。もっとリンクできるようにして詳しい事が分かるようにしてほしい。コンパクトにするのなら、店、病院のこと中心部全てが分かる(統合した)ホームページを作ったらよいと思う。	黒川地区
	もう少し現状を詳しく確認下さい。	黒川地区
	今回、書かれているアンケートの集計結果はせらだよりで報告があるのでしょうか？ぜひ他の町民の声がどんな内容なのか見てみたいですが、私みたいな意見の方がたくさんいて、この町がより住みやすく、町民想いな地域として行動に移してほしいです。	地域の回答なし

表 「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについての意見 回答一覧(11/11)

カテゴリ	回答内容	回答者の居住地区
あまり関係ない意見、意図が分からなかった意見	お世話になりますが、今後共よろしくお願い致します。健康には充分気をつけたいと思っております。	甲山地区
	特に要望します！！永年固定資産税の減額がありません。古屋となつと と思うのですが、築59年でもどうなるでしょうか？DK特に器具が古くなり、商品がないとの答えで困ってます。	宇津戸地区
	何故、人口減少になっているのでしょうか？食べ物が豊かになって、人口が増えてもおかしくないのに…妊娠できない人が増えています。女性だけでなく男性も、原因は食事だと思います。食品添加物、農薬まみれの野菜など遺伝子組み換え食品などなど…今後も考えて行かなくてはいけないことばかりですね。頑張ってください。	大田地区
	残りの人生を安心して暮らしたい為、よろしくお願い致します。	大田地区
	ハザードマップは何をもって危険とするのか？高度な土地調査をしたのか？それにより危険の度合いが変わると対策が変わる又土地を売却する時価格が変わるのではないかな？	大田地区
	地域の困り事を町関係の人に相談しても、その問題は町とは関係ないと…調べてみますは有りませんでした。	小国地区
	今住んでいる所からみんなが住みやすいところへ行くところですか。	黒川地区
無し、わからないなど	今はまだありません。	甲山地区
	その言葉じたいがよくわかりません。	甲山地区
	無し	甲山地区
	特に期待してないので	中央地区
	どんな町づくりかよくわかりません。	中央地区
	？	伊尾小谷地区
	高齢者につき、特にございません。	大田地区
	現在の所では何も心配する必要はございません。	大田地区
	イメージがわからない。	大田地区
	特になし	大田地区
	全体的に質問の要旨がよく理解できない	大見地区
	どの様にならっていくか我々の年代では想像つきません。	西大田地区
	「コンパクト・プラス・ネットワーク型」→意味不明？具体的な所が分からないのでイメージがわからない。	西大田地区
	なし	西大田地区
	よく分からない。	津久志地区
	この土地での居住年数も少なく、よく分かりません。	津名地区
	具体的にどのような事をするのか記入されておらず全く分からない。コンパクトな町づくり？とはどういうことでしょうか？移動する距離は変えられないのでは？病院を増やす、スーパーを増やす、働く場所を増やす。という事でしょうか？	黒川地区
	興味ありません。 限界集落から消滅集落に至っている私の地区は沈みゆく船だと思えます。沈没する船にいつまでも乗っていることはできません。	黒川地区
	ありません。	黒川地区
	(わからない～)	黒川地区

3章 調査結果 総括

3-1 調査結果 総括

表 世羅町に立地する施設

- 利用頻度が最も高い施設は食料品・日用品の店舗で、週に1～2日以上利用している回答者が全体で8割弱、いずれの地域・年代においても5割以上を占めています。
- その他、比較的使用頻度が高い（月1～2日以上の利用が半数を超えている）施設は、ホームセンター、コンビニエンスストア、病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関となっています。
- 現在の居住地域に住み続ける意向がある人がほとんどである一方で、約2割の人が特に不便で困っている施設があると感じています。
- 役場周辺（町中心部）に必要な施設は、全世代にとってより生活に不可欠な食料品・日用品の店舗、病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関の3つが顕著に多くなっていますが、これらは現在特に不便で困っている施設としても多く挙げられています。
- 食堂やレストランなどの飲食店、行政窓口についても、上記3つの施設ほど顕著ではないものの、役場周辺（町中心部）に必要な施設、現在特に不便で困っている施設とする回答者が比較的多くなっています。
- 一方、衣料品の店舗、身近に利用できる公園や広場は役場周辺（町中心部）になくてもよいという回答者が多い一方、特に不便で困っている施設としては多く挙げられています。
- 身近に利用できる公園や広場は30代、40代の利用頻度が他の年代に比べ高くなっていますが、特に不便で困っている施設としては70代において最も高い割合で挙げられています。

表 日常の移動

- 自分で自由に使える自家用車、もしくは家族の自家用車がある回答者が9割を超え、施設への主な移動手段は、回答なしを除くと自家用車が全ての施設において大半を占めています。
- 送迎者の有無は、いると答えた回答者は7割台半ば、気兼ねなく送迎してもらえる人がいない回答者は2程度となっています。
- 送迎者は、全ての年代で同居の親族が最も多くなっていますが、80代以上では送迎者が別居の親族である割合が2割弱と、ほかの世代に比べ大きくなっています。
- 60代～80代以上の世代では、単身世帯、1世代のみの世帯が半数以上を占めており、本人や送迎者が将来車に乗れなくなった場合、従来よりも移動が比較的困難になることが予想されます。
- せらまちタクシーの利用有無については、利用していない回答者が9割弱を占め、また利用していない理由としては「必要ないから」が大半を占めていることから、存在は知っているものの自家用車を使用するためせらまちタクシーを利用しない回答者が非常に多いと言えます。
- 年代別にみると、せらまちタクシーを利用している回答者は年代が上がるほど高くなっており、80代以上では2割弱を占めています。
- 徒歩での日常の移動については、徒歩での所要時間が10分以内の回答者が5割強を占めています。
- 町中心部へのアクセスについて自治センターをより有効に活用できる方法としては、バスや乗合タクシーなどの発着点としての利用や、小売りや行政窓口等の週単位や月単位での開設を提案する声等が比較的多く挙げられています。

表 今後の規制への考え方

- 災害の恐れがある地域の住まいや都市機能の集積を抑制すべき、新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべきといった規制を支持する声が4割台半ばを占める一方、住むかどうかは町民の判断とし、行政が規制すべきではないとの回答も2割弱を占めています。
- フリーアンサーでは「コンパクト・プラス・ネットワーク型」のまちづくりについて前向きな意見、慎重・否定的な意見がともに挙がっており、様々な意見があるが、前向きな意見においては持続可能性の向上を期待する声、慎重・否定的な意見においては中心部以外が住みにくくなっていくことや、田舎暮らしができる世羅町ならではの良さが失われることを危惧する声などが挙げられています。

3-2 地域別の視点で見た調査結果 総括

表 世羅町に立地する施設（地域別視点）

- 食料品・日用品の店舗の利用頻度は全ての地区において週1～2日程度以上が半数を超えていますが、甲山地区、大田地区、津久志地区では特に利用頻度が高く、週1～2日程度以上利用の割合が8割を超えています。
- ホームセンターを日常的に利用する回答者が多い地域は中央地区と伊尾小谷地区で、それぞれ2割台半ばが週1～2日以上利用しています。
- 食堂やレストランなどの飲食店を月1～2日以上利用する回答者が多いのは甲山地区、大田地区、小国地区で、それぞれ4割を超えています。
- 病院、診療所を月1～2日以上利用する割合が高いのは伊尾小谷地区や大見地区で7割以上を占め、調剤薬局の利用頻度も他地区と比べやや高くなっています。
- その他の施設においては、利用頻度について地域別に大きな差はみられません。
- 特に不便で困っている施設があると回答した人が多い地域別にみると、甲山地区では身近に利用できる公園や広場や衣料品の店舗、大田地区では衣料品の店舗が多く挙げられています。
- 役場周辺に必要な施設についてみると、食料品・日用品の店舗や病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関、行政窓口は、全ての地域において「必要」が、「なくてもよい」を大きく上回っています。
- 役場周辺に必要な施設について、コンビニエンスストアで回答の多かった地域をみると、甲山地区と小国地区では「なくてもよい」よりも「必要」が上回っており、大田地区については均衡しています。
- 食堂やレストランなどの飲食店について回答の多かった地域をみると、大田地区、西大田地区、甲山地区では「必要」が「なくてもよい」の倍以上挙げられています。
- 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設、学校などの教育施設、図書館・ホールなどの文化施設について回答が多く挙げられている地域をみると、大田地区では「必要」が「なくてもよい」を上回り、甲山地区では「なくてもよい」が「必要」を上回っています。
- 福祉施設についてみると、大田地区と西大田地区で必要な施設として多く挙げられています。西大田地区では「必要」が「なくてもよい」を大きく上回っているのに対し、大田地区では「なくてもよい」という回答も「必要」と同じくらい多くなっています。

表 日常の移動（地域別視点）

- 施設への主な移動手段は、自家用車が全ての施設・地域で最も多くなっていますが、銀行や郵便局などの金融機関についてみると、甲山地区では徒歩や自転車を選択した回答者が1割強を占め、やや高くなっています。
- 自家用車の所有状況は、自家用車を所有していない回答者が全体では1割未満となっていますが、津久志地区で自家用車を所有していない回答者の割合が比較的高く、1割強となっています。
- 送迎者の有無は、山福田地区、大見地区、津名地区で気兼ねなく送迎してもらえる人がいない回答者の割合が比較的高く、山福田地区では4割弱、大見地区と津名地区では3割程度となっています。
- せらまちタクシーの利用有無について、せらまちタクシーを利用している回答者は全体では1割未満となっていますが、津久志地区では2割を超えています。
- せらまちタクシーを利用していない理由は、すべての地区で「必要ないから」が最も大きい割合を占めていますが、宇津戸地区では「運行時間帯が限られており自分が利用したい時間帯に間に合わないから」が1割台半ば程度と、他地区よりも大きい割合を占めています。

表 今後の規制への考え方（地域別視点）

- 宇津戸地区、大田地区、津久志地区において、災害のおそれがある地域の住まいや都市機能の集積を抑制すべき、新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべきといった規制を支持する回答が比較的多く、合わせて5割を超えています。

3-3 年代別の視点で見た調査結果 総括

表 世羅町に立地する施設（年代別視点）

- 食料品・日用品の店舗の利用頻度をみると、30～70代では週1～2日以上利用する回答者の割合が8割を超えています。
- 衣料品の店舗を月1～2日以上利用する回答者が多いのは20代で、6割強を占めています。
- ホームセンターの利用頻度は40～70代で他の年代に比べ高くなっており、回答者の2割前後が週1～2日以上利用しています。
- コンビニエンスストアの利用頻度は20代で他の年代に比べ高くなっており、回答者の約7割が週1～2日以上利用しています。
- 食堂やレストランなどの飲食店の利用頻度が他の年代に比べ高いのは20～40代で、月1～2日以上利用する回答者が約6割を占めています。
- 病院、診療所や調剤薬局の利用頻度をみると、年代が上がるほど月1～2日以上利用する回答者の割合が高くなっています。
- 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設、学校などの教育施設、図書館・文化ホールなどの文化施設、身近に利用できる公園や広場の利用頻度は、30代と40代で他の年代と比べ高くなっています。
- 銀行や郵便局などの金融機関の利用頻度は、40～50代で比較的高く、50代では2割台半ば、40代では2割弱が週1～2日以上利用しています。
- 家電用品店や福祉施設、行政窓口は、全て年代でほとんど利用しない回答者が大半を占めています。
- 特に不便で困っている施設については、10代や80代では食料品・日用品の店舗と回答した人は3割以上で最も多く、50代では衣料品の店舗と回答した人が3割以上で最も多く挙げられています。
- 役場周辺に必要な施設についてみると、食料品・日用品の店舗や病院、診療所、銀行や郵便局などの金融機関、行政窓口は、すべての年代で「必要」が「なくてもよい」を上回るか同程度となっています。
- 衣料品の店舗については、年代が上がるほど「なくてもよい」が「必要」よりも多くなっています。
- 食堂やレストランなどの飲食店については、60～70代では「なくてもよい」が「必要」を上回っていますが、他の年代では「必要」が「なくてもよい」を上回っています。
- 保育所・児童館・幼稚園などの子育て施設については、30代では「必要」の回答が多く「なくてもよい」を上回っていますが、70代では「なくてもよい」が多くなっています。
- 福祉施設についてみると、40代以下では「必要」と「なくてもよい」が同程度ですが、50代以上ではどの年代も「必要」が「なくてもよい」を大きく上回っています。
- 身近に利用できる公園や広場については、30代と40代では「必要」が「なくてもよい」を上回っていますが、他の年代では「なくてもよい」が「必要」を上回っています。

表 日常の移動（年代別視点）

- 施設への主な移動手段は、自家用車がすべての施設・年代で最も多くなっていますが、銀行や郵便局などの金融機関では、徒歩や自転車を選択した回答者は10代で1割台半ばを占め、やや高くなっています。
- 自家用車の所有状況は、80代以上で自家用車を所有していない回答者がほかの年代と比べて多く、1割台半ばを占めています。
- 送迎者の有無は、20代ではすべての回答者が気兼ねなく送迎してもらえる人がいると回答しており、他の年代では気兼ねなく送迎してもらえる人がいない回答者が2割前後となっています。
- 送迎者は、全ての年代で同居の親族が最も多くなっていますが、80代以上では送迎者が別居の親族である割合が2割弱と、他の年代に比べ大きくなっています。
- せらまちタクシーを利用している回答者の割合は、年代が上がるほど高くなっており、80代以上では2割弱を占めています。
- せらまちタクシーを利用していない理由は、すべての年代で「必要ないから」が最も大きい割合を占めていますが、10代では「利用方法が分からないから」が4割、80代以上では「運行時間帯が限られており自分が利用したい時間帯に間に合わないから」が1割強を占めています。

表 今後の規制への考え方（年代別視点）

- 40～50代において、災害のおそれがある地域の住まいや都市機能の集積を抑制すべき、新たな住まいや都市機能の立地は規制していくべきといった規制を支持する回答が合わせて5割を超えている一方、10代、80代以上では3割強と比較的低くなっています。